

番号	遺跡名 グリッド	層位	種類	最大長 (cm)	最大幅 (cm)	最大厚 (cm)	瓦当面 長さ(cm)	瓦当面 厚さ(cm)	色調	成形・調整	備考	登録 番号	写真 図版
1	3号窯跡 北側	3B	瓦瓦	5.5	-	3.6	-	-	表面：10YR 6/3	表面：ナデ	部位：不明	H-007	25-1
2	3号窯跡	16	種平瓦	4.4+	17.9+	-	12.0+	3.2+	瓦当面表：10YR 5/1 瓦当面裏：N 5/0	瓦当面：刷印キ一筋、ヘウロコ並文様、下縁直線状、ヘウラケリ 瓦当面裏：ナデ、下縁直線 刷印：刷印キヘウロコ並文様		H-008	25-5
番号	遺跡名 グリッド	層位	種類	口径 長さ(cm)	総径 幅(cm)	最高 厚さ(cm)	厚さ 幅	色調	成形・調整	備考	登録 番号	写真 図版	
3	3号窯跡	3B	土師器 甕	-	66.0	(4.3)	-	外面：7.5YR6/3 内面：7.5YR6/3	外面：ロクロナデ 底部：回転成形	内面：ロクロナデ	D-001	25-6	
4	3号窯跡	32	灰土器 甕	(15.0)	66.2	5.5	-	外面：9Y7/1 内面：5Y7/1	外面：ロクロナデ 底部：回転成形	内面：ロクロナデ	E-002	25-7	
5	3号窯跡	5	灰土器 甕	-	66.2	(1.8)	-	外面：10YR4/1 内面：10YR4/1	外面：ロクロナデ+下平手持ヘウラケリ 底部：回転成形	内面：ロクロナデ	E-003	25-8	

第80図 3号窯跡出土遺物(21)

床面・壁面としている。壁面には、スサ入り粘土を貼っている。天井部は残存していない。

【窯体構造】 半地下式有階無段の竈窯である。

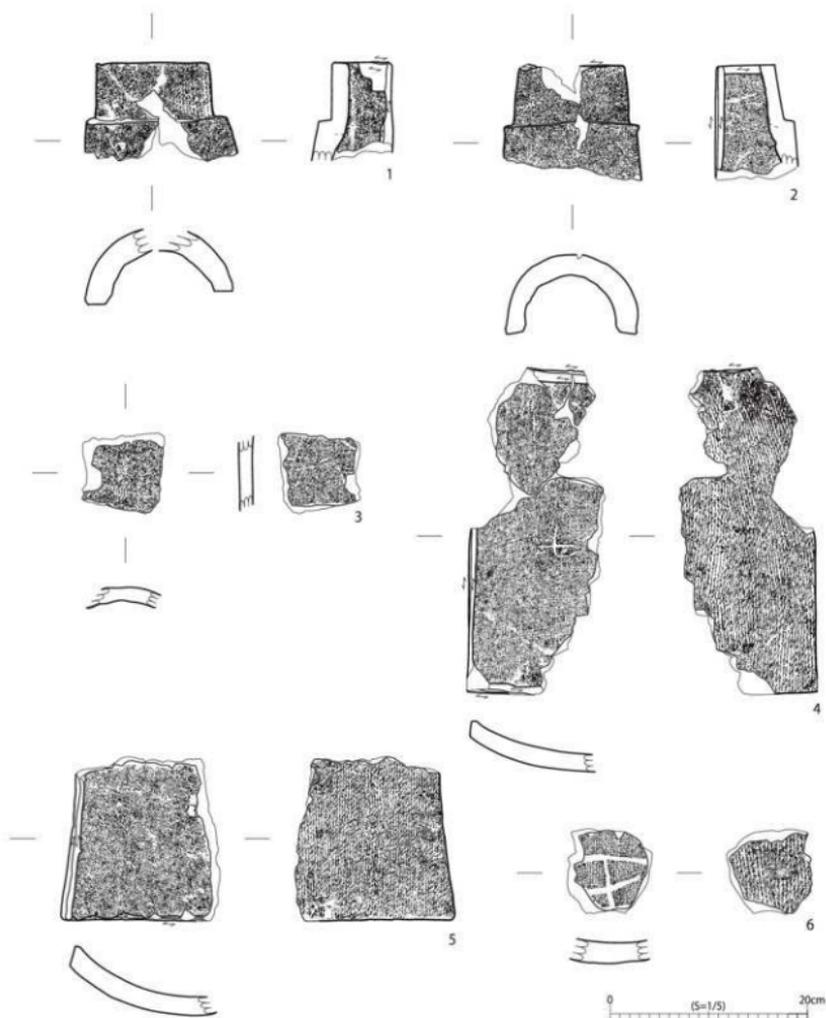
【規模】 全長5.25m、幅65cm、残存壁高50cmである。

【中軸線の方向】 N-56°-E

【操業面数】 3面（A期：構築時床面、B期：細別6層上面、C期：細別4層上面）

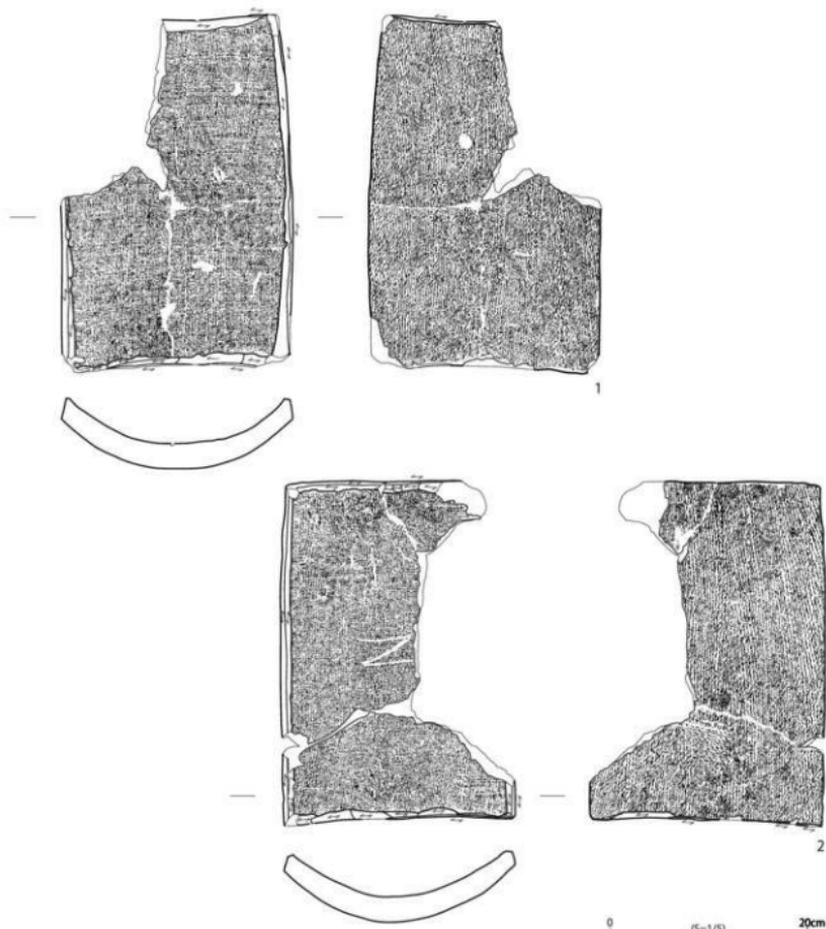
【煙出部】 削平され、残存していない。

【焼成部】 長さは3.0m、最大幅は65cm、残存する壁高は40cmで、平面形は、長方形である。床面には、凹凸は認められず、奥壁側では8°、燃焼部側では25°の角度で傾斜する。東西両側壁は中位から上部で明瞭な屈曲を持たずやや開き、北側奥壁では床面から118°の角度で外傾して立ち上がる。焼台は、凸面を上にした丸瓦・



番号	遺物名	部位	種類	最大径 (cm)	広径軸 (cm)	狭径軸 (cm)	厚さ (cm)	瓦巾幅 長(cm)	瓦当面 厚さ(cm)	色調	成形・調整	備考	発見 層位	写真 図版
1	3号溝跡 排水溝口片	3	丸瓦	10.0・ 53.3	-	14.2 511.9	2.7	-	-	凹面：7.5YR 6/4 凸面：7.5YR 5/4	凹面：粘土結核→布目織→一部ナデ 凸面：縄甲き→ロクロナデ		F-025	25-9
2	3号溝跡 排水溝口片	3	丸瓦	11.8・ 55.7	-	13.6 511.9	2.4	-	-	凹面：5YR 6/3 凸面：5YR 7/4	凹面：粘土結核→布目織 凸面：縄甲き→ロクロナデ		F-026	25-10
3	3号溝跡 排水溝口片	1	丸瓦	8.1・ 51	8.4・ 51	-	1.4	-	-	凹面：7.5YR 7/6 凸面：7.5YR 6/4	凹面：布目織 凸面：縄甲き→ロクロナデ	凹面：ヘラ書き確認不明	F-027	25-11 106
4	3号溝跡 排水溝口片	4	平瓦	33.4	8.6・	5.7・	1.9	-	-	凹面：5YR 5/2 凸面：5YR 5/2	凹面：布目織 凸面：縄甲き 両縁：ヘラナデ	凹面：ヘラ書き「七」	G-102	25-12 104
5	3号溝跡 排水溝口片	4	平瓦	16.8・	14.8・	-	2.1	-	-	凹面：10YR 6/2 凸面：10YR 6/2	凹面：布目織→布目織 凸面：縄甲き 両縁：側面・底面両ヘラナデ	凹面：神山田	G-103	25-16 98
6	3号溝跡 排水溝口片	3	平瓦	8.7・	8.6・	-	2.2	-	-	凹面：10YR 6/3 凸面：10YR 6/4	凹面：布目織 凸面：縄甲き→一部ナデ	凹面：ヘラ書き確認不明	G-104	25-15 106

第81図 3号窯跡出土遺物(22)・排水溝(3号溝)出土遺物(1)



番号	遺物名	群位	種別	最大径 (cm)	広径幅 (cm)	狭径幅 (cm)	厚さ (cm)	瓦当面長 (cm)	瓦当面厚さ (cm)	色澤	成形・調査 備考	登録番号	写真掲載
1	3号窯跡 排水溝(円溝)	3	平瓦	36.6	17.5 (23.2)	11.9 (22.5)	2.6	-	-	内面：7.5YR 5/2 凸面：5YR 6/3	内面：赤目斑→一部ナデ 凸面：鱗甲き 内縁：ヘラケズリ	G-105	25-17 102
2	3号窯跡 排水溝(円溝)	3	平瓦	35.3	23.2	17.9 (23.6)	2.6	-	-	内面：10YR 6/2 凸面：7.5YR 6/3	内面：赤目斑→赤目線→一部ナデ 凸面：鱗甲き 内縁：ヘラケズリ	G-106	26-1 102

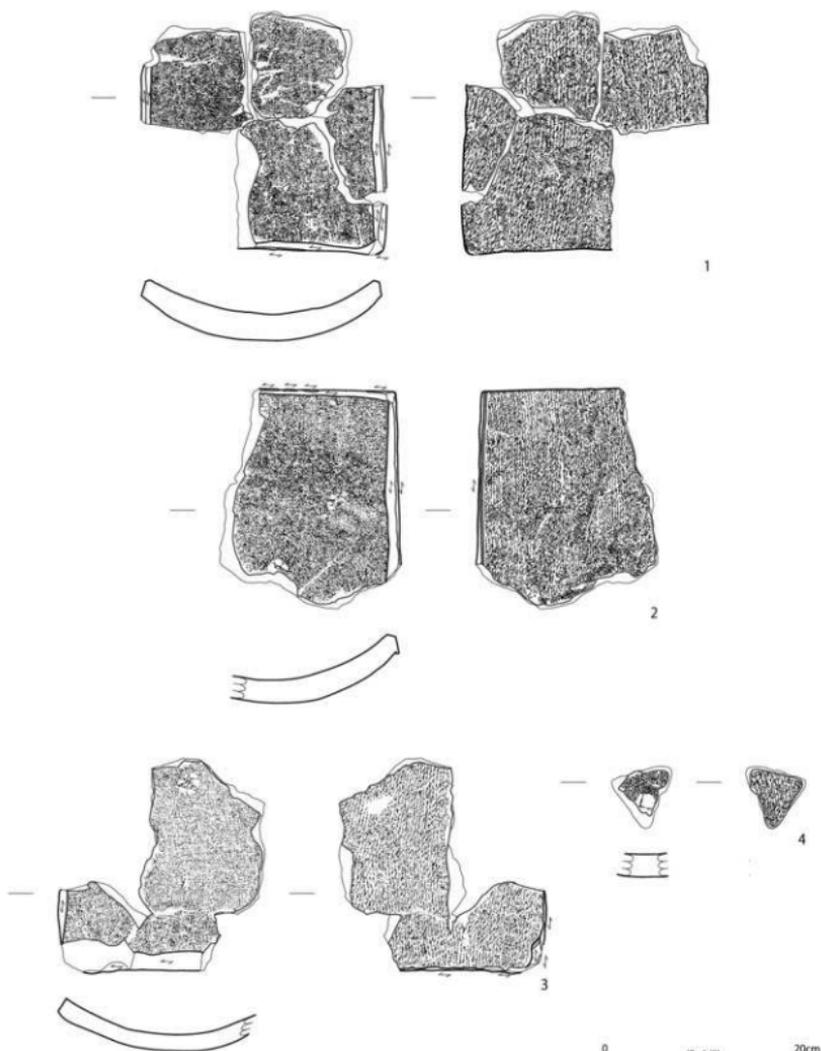
第82図 3号窯跡出土遺物(23)・排水溝(3号溝)出土遺物(2)

平瓦を2～3枚横位に並べ、1列としている。焼台の列は長さ1.6mの間に9列が確認されている(写真11-4・7)。

床面・壁面及び窓体周囲の被熱状況は、赤褐色化・灰白色硬化している。

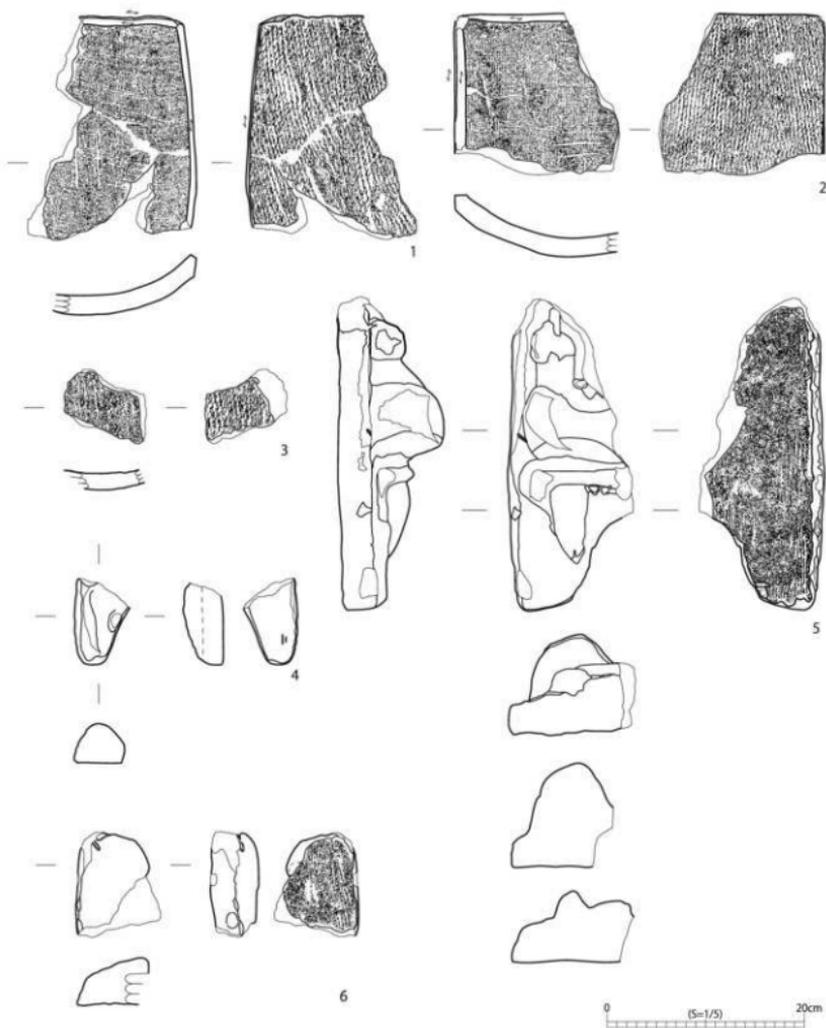
焼成部に伴う構築材は、19ヶ所で検出した(写真11-9)。構築材は全て壁外で確認しており、西側で11ヶ所、東側で8ヶ所である。構築材は炭化し、直径は1cm前後で、横断面は円形である。

【 燃 焼 部 】 長さは70cm、最大幅は45cm、残存する壁高は50cmで、平面形は長方形である。床面には凹



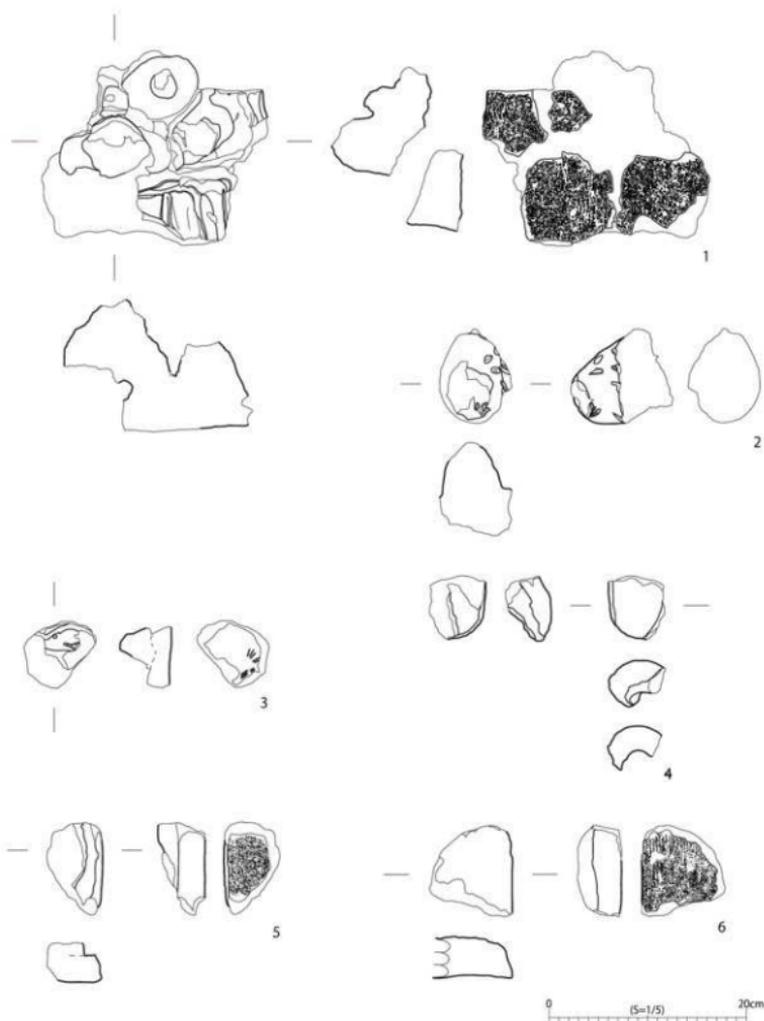
番号	遺物の フリット	層位	種類	最大長 (cm)	広さ幅 (cm)	狭さ幅 (cm)	厚さ (cm)	瓦当面 長さ(cm)	瓦当面 厚さ(cm)	色調	成形・調整 備考	登録 番号	写真 図版	
1	2号跡 排水溝口内溝	3	平瓦	24.9+	12.5+	-	2.9	-	-	内面：10YR 5/1 凸面：5YR 5/2	内面：糸切り痕→布目織 凸面：縹甲き→一部ナデ 側縁：側面・北端面ヘラケタリ	内面：ヘラ磨き「匠カ」	G-107	26-3 103
2	2号跡 排水溝口内溝	2	平瓦	22.5+	-	13.8+	2.5	-	-	内面：2.5YR 5/4 凸面：2.5YR 5/4	内面：布目織→一部ナデ 凸面：縹甲き→一部ナデ 四角台付面 側縁：側面・北端面ヘラケタリ 内面：押印面凸 内面：ヘラ磨き編組不明	G-108	25-13 99	
3	2号跡 排水溝口内溝	2	平瓦	22.0+	11.8+	-	1.8	-	-	内面：7.5YR 2/4 凸面：7.5YR 6/3	内面：糸切り痕→布目織→一部ナデ 凸面：縹甲き 側縁：側面・北端面ヘラケタリ	内面：押印面	G-109	26-5 99
4	2号跡 排水溝口内溝	2	平瓦	6.3+	6.1+	-	2.4	-	-	内面：布目織 凸面：7.5YR 6/3	内面：布目織 凸面：縹甲き	内面：押印面	G-110	25-14 100

第83図 3号窯跡出土遺物(24)・排水溝(3号溝)出土遺物(3)



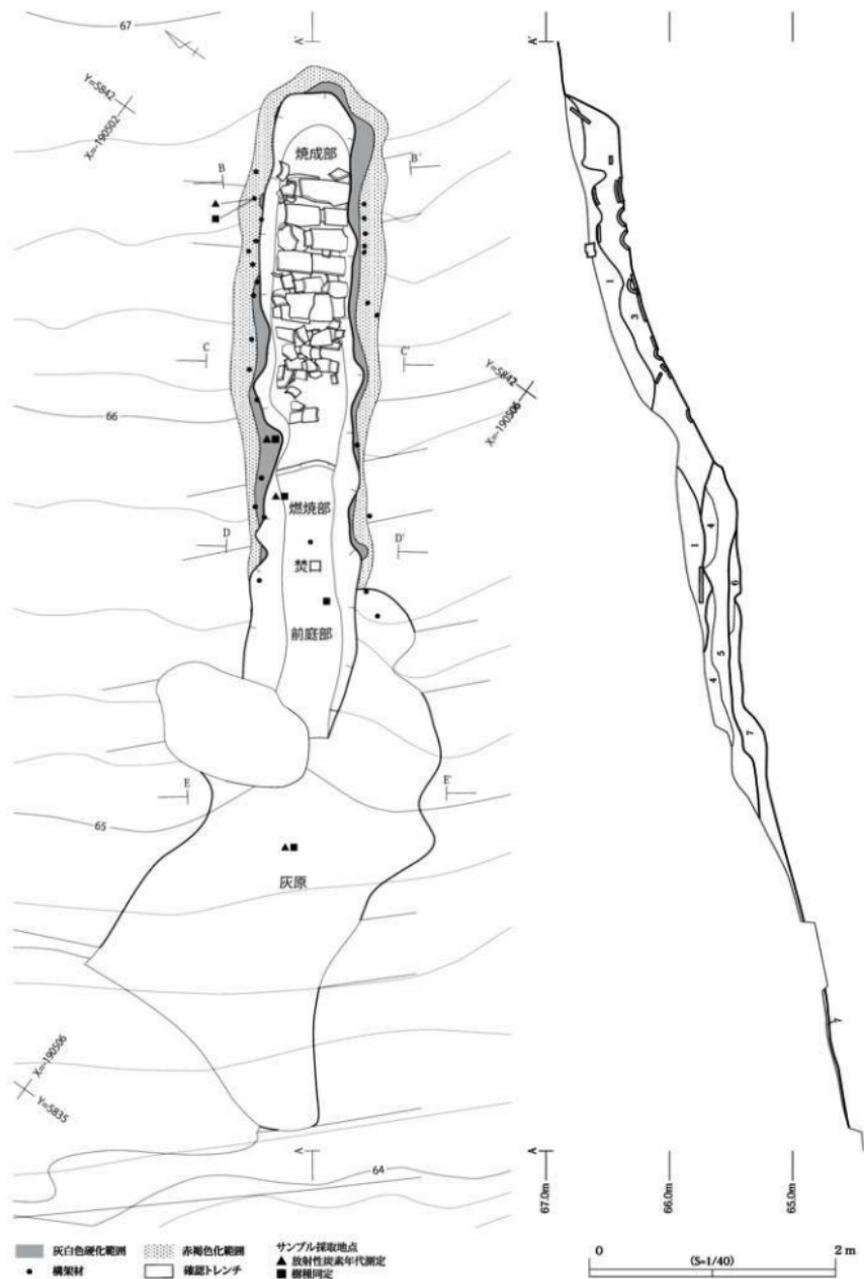
番号	遺構名 ブリード	層位	種類	最大長 (cm)	広幅幅 (cm)	狭幅幅 (cm)	厚さ (cm)	瓦当面 長さ(cm)	瓦当面 厚さ(cm)	色調	成形・調整 備考	登録 番号	写真 図版	
1	3号窯跡 排水溝(3号溝)	2	平瓦	22.9	-	10.5+	2.0	-	-	表面：10YR 4/1 凸面：2.5Y 4/1 裏面：黄褐色→赤褐色	凸面：赤目肌 凸面：糊印キ 裏面：黄褐色→赤褐色 凸面：へら書き「1」	G-111	26-6 102	
2	3号窯跡 排水溝(3号溝)	1	平瓦	16.5+	-	10.7+	2.0	-	-	表面：2.5Y 6/1 凸面：10YR 6/2	凸面：赤目肌→赤ナデ 凸面：糊印キ 裏面：黄褐色→赤褐色へら書き	G-112	26-2 104	
3	3号窯跡 排水溝(3号溝)	1	平瓦	7.5+	8.3+	-	1.6	-	-	表面：7.5YR 7/3 凸面：7.5YR 7/4	凸面：赤目肌→糊印キ	G-113	26-4	
4	3号窯跡 排水溝(3号溝)	3	瓦瓦	8.8+	5.4	-	4.2+	-	-	表面：10YR 7/3 裏面：10YR 7/4	表面：ナデ 裏面：ハケメツナデ 側面：ナデ	部位：牙	H009	26-8
5	3号窯跡 排水溝(3号溝)	2	瓦瓦	31.9+	12.6+	-	11.5+	-	-	表面：10YR 6/3 裏面：7.5YR 7/4	表面：ナデ 裏面：ハケメツナデ 側面：ナデ	粘土粒に粘土質付 部位：右側面	H010	26-7
6	3号窯跡 排水溝(3号溝)	2	瓦瓦	10.7+	8.6+	-	4.9	-	-	表面：10YR 6/3 裏面：7.5YR 6/3	表面：へらナデ 裏面：ハケメツナデ、上端粘土取り合せ 側面：ナデ→圧痕	部位：平側	H011	26-9

第84図 3号窯跡出土遺物(25)・排水溝(3号溝)出土遺物(4)

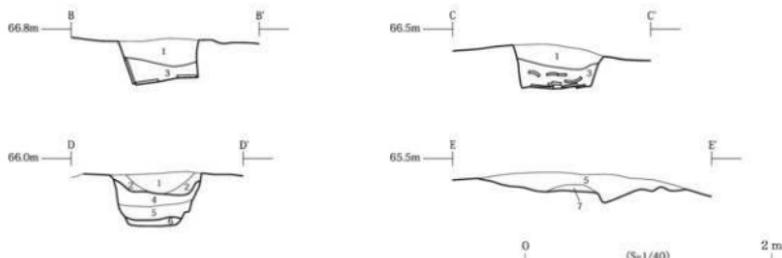


番号	遺物名 グリッド	層位	種類	最大径 (cm)	広径軸 (cm)	狭径軸 (cm)	厚さ (cm)	瓦当径 長(cm)	瓦当径 厚さ(cm)	色調	成形・製作 備考	登録 番号	写真 図版
1	3号溝跡 遺木遺石片類	3	瓦瓦	19.0	19.5	-	13.3	-	-	表面：10YR6/3 裏面：7.5YR5/4	表面：ナデ→ヘラ工具痕。一部ケズリ 裏面：ハケメ→ナデ 側面：ナデ	H012	27-1
2	3号溝跡 遺木遺石片類	2	瓦瓦	9.7	7.3	-	9.5	-	-	表面：10YR 5/4	表面：ナデ。一部ケズリ。刺突痕 裏面：欠損 側面：ナデ	H013	27-2
3	3号溝跡 遺木遺石片類	3	瓦瓦	6.8+	-	-	5.2	-	-	表面：10YR6/3 裏面：10YR5/4	表面：ナデ 裏面：ハケメ→ナデ	H014	27-3
4	3号溝跡 遺木遺石片類	2	瓦瓦	6.5	5.6	-	4.7	-	-	表面：10YR 5/3 孔内：5Y 2/1	表面：ナデ 孔内：エビナデ	H015	27-4
5	3号溝跡 遺木遺石片類	2	瓦瓦	9.4	4.7	-	4.2	-	-	表面：10YR 7/3 裏面：7.5YR 7/3	表面：ナデ 裏面：ナデ 側面：ナデ	H016	27-5
6	3号溝跡 遺木遺石片類	2	瓦瓦	9.1	8.4	-	4.1	-	-	表面：10YR 6/3 裏面：10YR 5/3	表面：ナデ 裏面：ハケメ→ナデ 側面：ハケメ→ナデ	H017	27-6

第85図 3号窯跡出土遺物(26)・排水溝(3号溝)出土遺物(5)



第86図 4号窯跡平面図・土層断面図(1)



層位	土色	土性	特徴	層位	土色	土性	特徴
1	黒10YR4/4	粘土質シルト	流入堆積層(大別1層) 砂質シルトに多い炭灰大ブロックを少量含む。炭化物粒。粘土大ブロックを少量含む。	5	黒10YR2/1	粘土質シルト	燃料残滓層(大別3層) 燃料の残滓。炭土粒(砂)を少量含む。炭化物を微量含む。
2	黒10YR4/4	粘土質シルト	流入堆積層(大別1層) 粘土質シルトに多い炭灰中ブロックを微量含む。粘土粒(砂)を含む。	6	黒7.5YR4/2	粘土質シルト	燃料残滓層(大別3層) 窯体の残滓。粘土質シルト(黒)・粘土質シルトに多い炭灰を帯状に含む。炭化物粒・粘土粒を微量含む。
3	にぶい黄黒10YR6/3	粘土質シルト	窯体崩壊層(大別2層) 一部に粘土質シルト(黒)。粘土質シルト(黒)を含む。砂質シルトに多い炭灰大ブロック・砂質シルト(黄黒)ブロックを微量含む。炭化物粒を微量含む。	7	黒10YR2/1	シルト	燃料残滓層(大別3層) 燃料の残滓。粘土大ブロック少量含む。炭化物粒を微量含む。
4	黒黒10YR3/2	粘土質シルト	燃料残滓層(大別3層) 燃料の残滓。下部に粘土粒(砂)を帯状に含む。炭化物粒を微量含む。				

第87図 4号窯跡土層断面図(2)

凸は認められず、3°の角度で傾斜する。A期は構築時床面、B期はA期の堆積層(6層)の上面を床面とし、C期はB期の堆積層(4層)上面を床面としている。焼成部との間に、20cmの階を有している。東西両側壁は中位から上部で、明瞭な屈曲を持たずにやや開いている。

前庭部との境に僅かな括れを有し、両側壁外のⅢ層の被熱痕跡が確認できなくなる部分が焚口である。床面・壁面及び窯体周囲の被熱状況は、焼成部における状況と同様であり、赤褐色化・灰白色硬化している。

燃焼部に伴う構築材は、5ヶ所で検出した。構築材は西側壁外で3ヶ所、東側壁外で1ヶ所、床面中央部で1ヶ所である。構築材は炭化し、直径は1cm前後で、横断面は円形である。

【前庭部】燃焼部で確認している焚口の南側が前庭部にあたる。長さは1.55m、幅は50cm、残存する壁高は45cmの長方形である。床面に凹凸は認められない。

前庭部からは、構築材は3ヶ所で検出した。構築材は西側壁内で1ヶ所、東側壁外で2ヶ所である。構築材は炭化し、直径は1cm前後で、横断面は円形である。

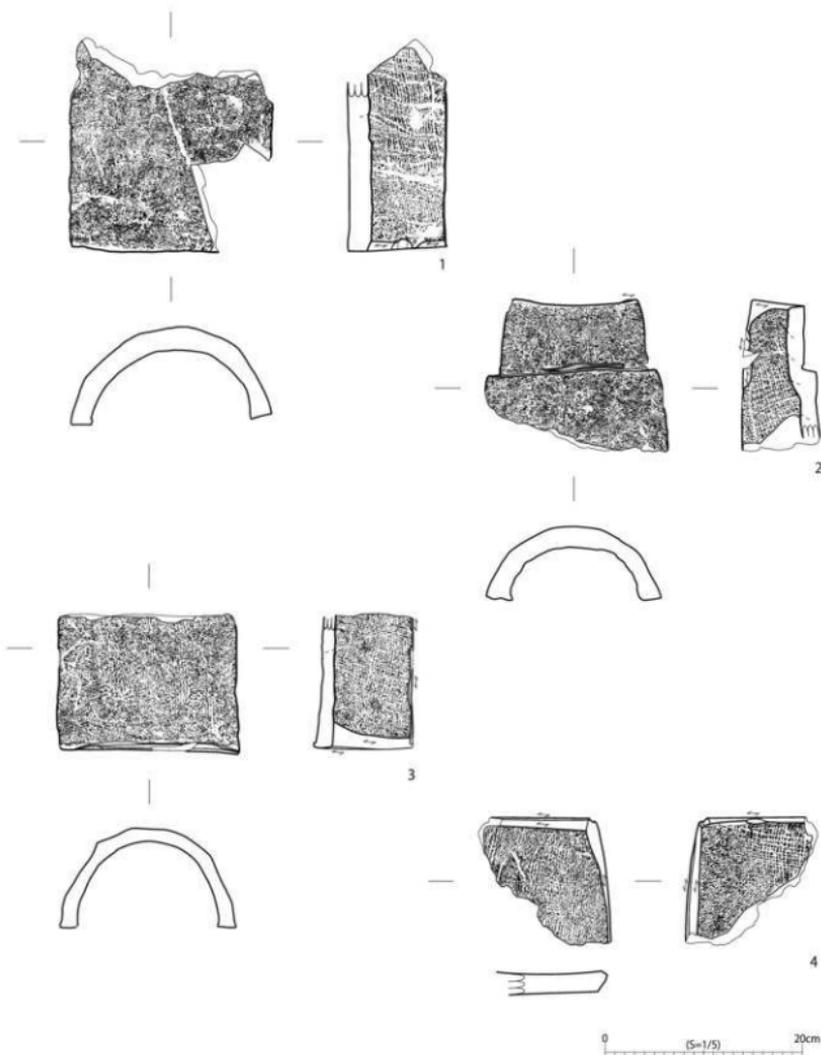
【堆積層】大別3層、細別で8層を確認した。大別1層:流入堆積層。大別2層:窯体崩壊層。大別3層:B・A期の燃焼部から灰原に広がる燃料残滓層。

【灰原】前庭部の南側斜面に認められ、長さは4.4m、幅は2.9mである。A・B期の燃料残滓層である。

【出土遺物】丸瓦・平瓦及び、土師器、須恵器が出土している。総破片数は75点で、6点を図示した。大別1層から丸瓦・平瓦・須恵器、大別2層から丸瓦・平瓦、大別3層から丸瓦・平瓦・土師器が出土している。床面直上からは、焼台として使用した丸瓦・平瓦が出土している。

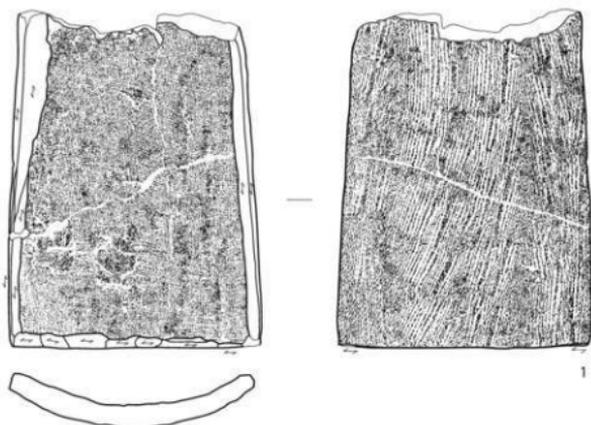
5号窯跡(S05)(第90～93図・第6表)

【確認状況】調査区北部の南側斜面、C-6、D-5・6グリッドに位置する。Ⅲ層上面で確認した。残存状態は良好で、焼成部・燃焼部・前庭部・灰原を確認した。本窯跡に伴う灰原は東側で、4号窯跡に伴う灰原の西側上部を覆っていることから、4号窯跡よりも新しい。本窯跡と、東側に隣接する4号窯跡の窯体の間隔は2.85m、西側に隣接する6号窯跡の窯体との間隔は8.25mである。本窯跡はⅢ層を掘り込み、床面・壁面としている。壁面には、スサ入り粘土を貼っているが、断ち割り調査していないために詳細は不明である。天井部は、残存していない。

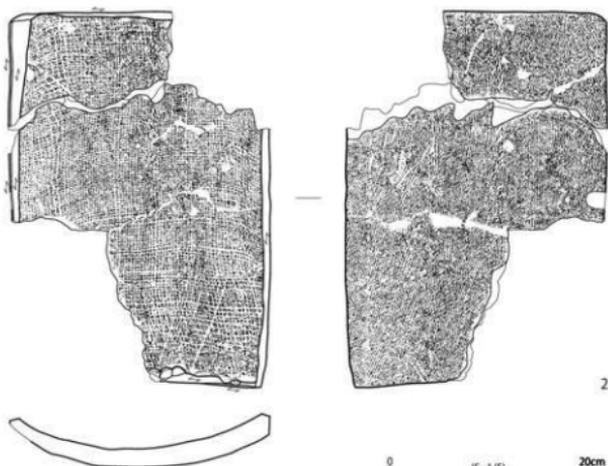


番号	遺構名 ドリット	層位	種類	最大径 (cm)	広さ幅 (cm)	狭さ幅 (cm)	厚さ (cm)	瓦当部 長(cm)	瓦当部 厚さ(cm)	色調	成形・調査 備考	登録 番号	写真 図版
1	4号築跡	床面 直上	丸瓦	21.9 - 13.9 20.3 瓦	-	2.4 瓦	-	-	-	内面：7.5YR 6/3 凸面：10YR 6/2	内面：粘土結晶→布目織 凸面：陶叩き→ナデ 経線：表面・広縁面→ラケズリ	F-028	27.7
2	4号築跡	3	丸瓦	15.6 87.1 瓦	8.15.0	16.9 8.12.3	1.9 8.1.8	-	-	内面：2.5Y 6/1 凸面：7.5YR 6/2	内面：粘土結晶→布目織 凸面：陶叩き→ロケロナデ 経線：表面・狭縁面→ラケズリ	F-029	27.8
3	4号築跡	3	丸瓦	14.3 - 瓦	18.1 瓦	-	1.8 瓦	-	-	内面：10YR 6/2 凸面：10YR 7/2	内面：布目織 凸面：陶叩き→ロケロナデ 経線：表面・広縁面→ラケズリ	F-030	27.9
4	4号築跡	床面 直上	平瓦	13.1	-	9.4	2.2	-	-	内面：5Y 7/1 凸面：10YR 6/1	内面：陶叩き→布目織→陶叩き 経線：表面・狭縁面→ラケズリ	G-114	27.10

第88図 4号窯跡出土遺物(1)



1



2

0 (S=1/5) 20cm

番号	通称名 フリップ	部位	種類	最大長 (cm)	広幅幅 (cm)	狭幅幅 (cm)	厚さ (cm)	瓦当面 径長(cm)	瓦当面 厚さ(cm)	色調	成形・装飾 備考	登録 番号	写真 図版
1	4号窯跡	床面 直上	平瓦	35.5	25.2	-	2.3	-	-	内面：7.5YR 6/3 凸面：5YR 6/3	内面：赤目肌 凸面：縄印キ 両面：黒面・広縁部へツケズリ	G-115	28-4
2	4号窯跡	1	平瓦	38.4	19.2 (25.5)	18.2 (25.8)	2.3	-	-	内面：7.5YR 6/4 凸面：7.5YR 6/3	内面：赤目肌→赤目黒→仕灰 凸面：縄印キ→赤目黒 両面：ヘラツズリ→広縁部仕灰	G-116	28-1

第89図 4号窯跡出土遺物(2)

前庭部西側及び、窯尻付近の西側には、Ⅲ層を主体とするにぶい黄褐色を示す整地層が認められる。整地層の厚さ、堆積状況は不明である。

【 窯 体 構 造 】 半地下式有階無段の竈窯である。

【 規 模 】 全長6.0m、幅70cm、残存壁高60cmである。

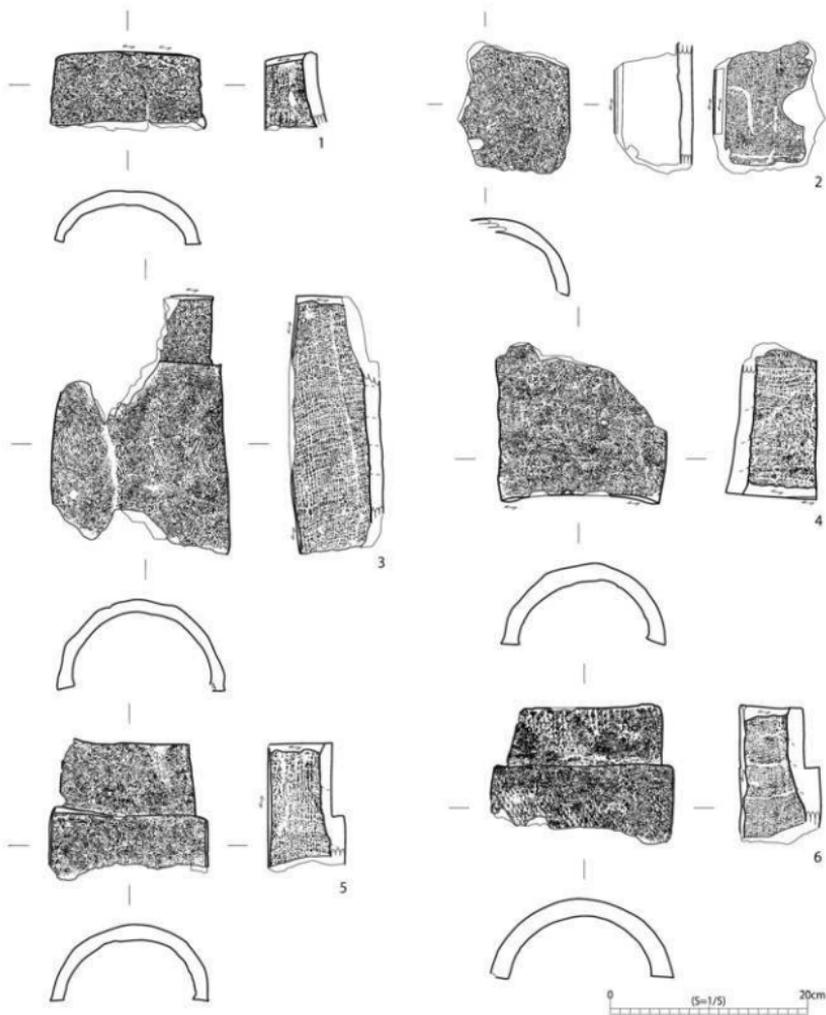
【 中軸線の方向 】 N - 56° - E

【 操 業 面 数 】 3面 (A期：構築時床面、B期：細別6層上面、C期：細別4層上面)



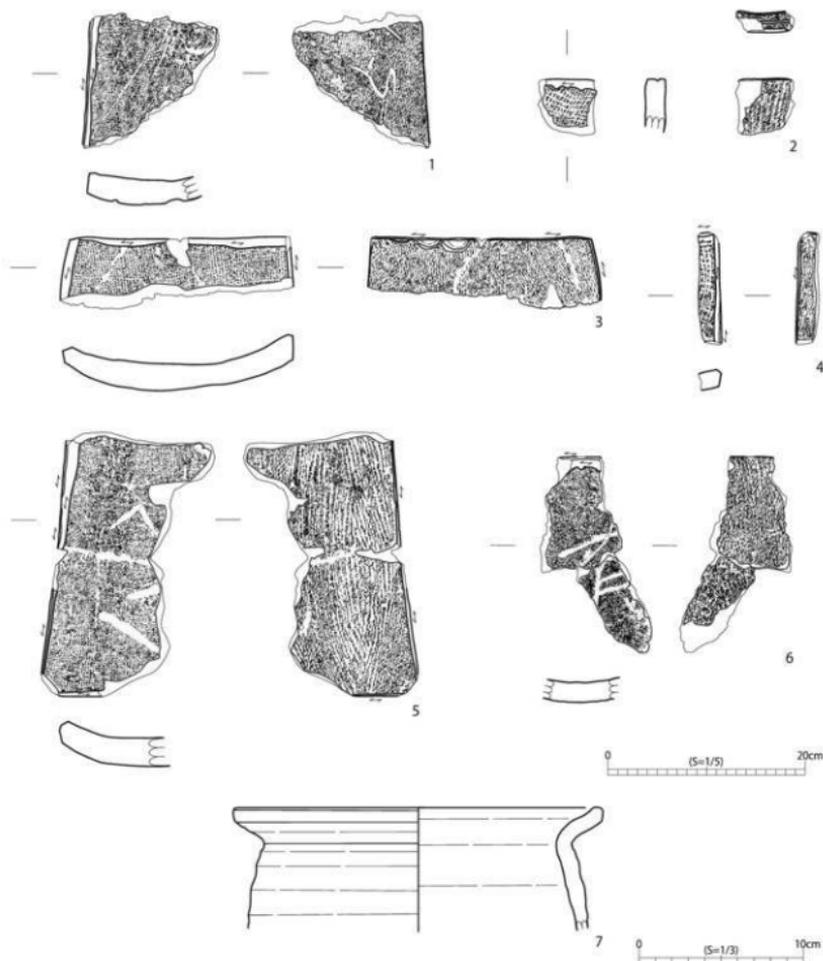
層位	土色	土性	特徴	層位	土色	土性	特徴
1	黒7.5YR4/4	粘土質シルト	灰人集積層(大塚1期) 礫を少量含む。炭化植物を散見含む。	5	黒10YR2/1	粘土質シルト	燃料残滓層(大塚3期) 燃料の残滓、粘土質シルト・焼成層と多量に含む。焼土粒を含む。礫を少量含む。炭化植物を散見含む。
2	黒黄褐色10YR6/6	砂質シルト	燃料残滓層(大塚3期) 砂質シルト(炭粉をフロック状に多く含む)。粘土質シルト(燐大フロックを少量含む)。	6	黒褐色10YR3/3	砂質シルト	燃料残滓層(大塚3期) 燃料の残滓、礫を少量含む。炭化植物を散見含む。焼土を帯びに含む。
3	黒10YR1/1	粘土質シルト	燃料残滓層(大塚3期) 燃料の残滓、砂質シルト(燐燐大フロックを少量含む)。炭化植物・焼土粒を散見含む。	7	黒10YR2/1	粘土質シルト	燃料残滓層(大塚3期) 燃料の残滓、粘土質シルト・焼成層と多量に含む。焼土粒を含む。礫を少量含む。炭化植物を散見含む。
4	黒黄10YR3/2	砂質シルト	燃料残滓層(大塚3期) 燃料の残滓、砂質シルト(燐燐大フロックを少量含む)。炭化植物・焼土粒を散見含む。	8	灰赤・黄褐色10YR6/4	粘土質シルト	燃料残滓 土層・中層に砂質シルト燐燐大フロックを多量含む。灰白色土層(灰赤・黄褐色10YR6/4)大フロックを含む。

第90図 5号窯跡平面図・土層断面図



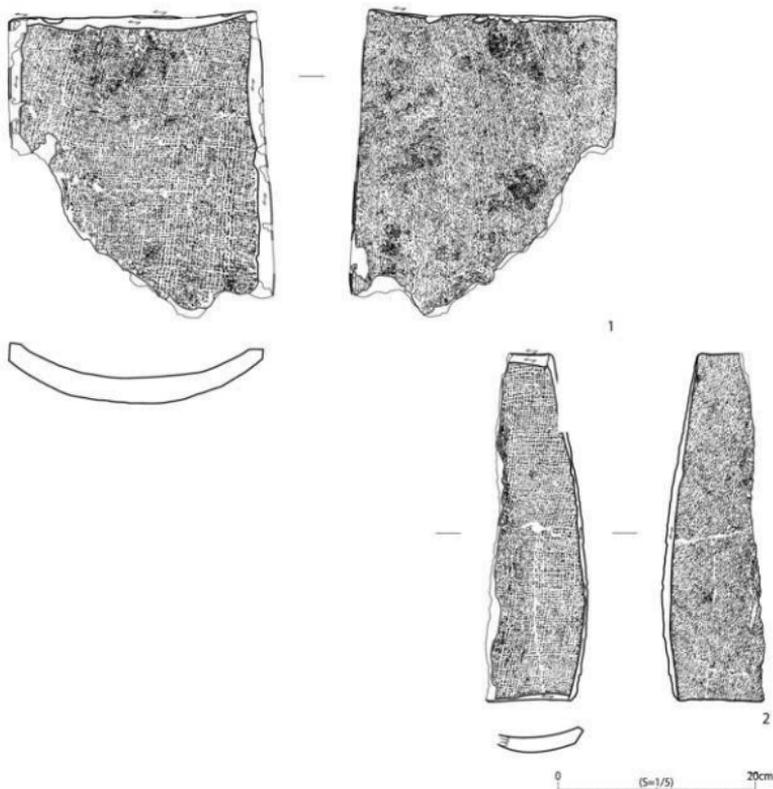
番号	遺構名 グループ	層位	種類	最大長 (cm)	最大幅 (cm)	狭幅幅 (cm)	厚さ (cm)	瓦葺納 長さ(cm)	瓦葺納 厚さ(cm)	色調	成包・調査 備考	登録 番号)	写真 掲載
1	5号竊跡	被覆 土上	丸瓦	58.1	15.5	14.4	3.7	-	-	西面：N 5/0 凸面：N 5/0	凹面：布目織→一部ナデ 凸面：縹甲き→ロクロナデ	F031	28-3
2	5号竊跡 瓦葺		丸瓦	13.4 3.5	8.3 3.5	-	1.5	-	-	西面：7.5YR 5/3 凸面：7.5YR 5/4	凹面：布目織 凸面：縹甲き→ナデ 両縁：縹面→ラケズリ	F032	28-2 106
3	5号竊跡		丸瓦	26.4 57.0	6.2 5.4	6.2 5.4	1.7 3.7	-	-	西面：N 4/0 凸面：10YR 5/1	凹面：粘土組織→布目織 凸面：縹甲き→ロクロナデ 両縁：縹面・狭幅面→ラケズリ	F033	28-7
4	5号竊跡		丸瓦	16.4	16.0	-	2.0	-	-	西面：N 5/0 凸面：N 5/0	凹面：粘土組織→布目織 凸面：縹甲き→ロクロナデ 両縁：縹面・狭幅面→ラケズリ	F034	28-8
5	5号竊跡		丸瓦	14.5 37.6	13.9 12.6	15.4 10.7	1.6 3.2	-	-	西面：N 5/0 凸面：N 5/0	凹面：粘土組織→布目織→一部ナデ 凸面：縹甲き→ロクロナデ 両縁：縹面・狭幅面→ラケズリ	F035	28-5
6	5号竊跡		丸瓦	14.3 30.5	17.5 13.5	17.5 13.5	2.3 3.8	-	-	西面：N3/0 凸面：10YR 5/1	凹面：粘土組織→布目織→ナデ 凸面：縹甲き→ロクロナデ 両縁：縹面・狭幅面→ラケズリ	F036	28-9

第91図 5号竊跡出土遺物(1)



番号	遺構名 グリッド	層位	種類	最大径 (cm)	広幅軸 (cm)	狭幅軸 (cm)	厚さ (cm)	瓦当径 長(cm)	瓦当厚 さ(cm)	色調	成形・調整 備考	登録 番号	写真 図版	
1	5号窯跡	武家 路上	平瓦	13.7*	-	-	2.7	-	-	内面：10YR 6/2 凸面：2.5Y 6/1	内面：糸切り磨→布目織 凸面：磨りき→一部ナデ→研磨 両縁：磨面ヘラケズリ	G-117	28-6 105	
2	5号窯跡 瓦面	7	平瓦	5.7*	-	3.1*	2.0	-	-	内面：2.5Y 6/1 凸面：10YR 6/2	内面：布目織 凸面：磨りき 両縁：磨面ヘラケズリ→ヘラ磨き沈積	G-118	28-10	
3	5号窯跡 瓦面	7	平瓦	7.4*	-	22.3	2.7	-	-	内面：2.5Y 4/1 凸面：2.5Y 4/1	内面：布目織 凸面：磨りき 両縁：磨面・沈積面ヘラケズリ→沈積面沈積	G-119	29-1	
4	5号窯跡 瓦面	7	平瓦	11.4*	-	1.0*	1.9	-	-	内面：10YR 6/3 凸面：10YR 6/2	内面：布目織 凸面：磨りき 両縁：磨面・沈積面ヘラケズリ 左側面：粘土剥離面	G-120	28-11	
5	5号窯跡 瓦面	7	平瓦	27.0*	4.3*	-	2.9	-	-	内面：5YR 4/2 凸面：2.5YR 4/2	内面：布目織 凸面：磨りき 両縁：磨面ヘラケズリ	凸面：ヘラ磨き解読不明	G-121	29-2 106
6	5号窯跡 瓦面	7	平瓦	11.8*	-	4.2*	2.0	-	-	内面：7.5YR 5/1 凸面：N 5/0	内面：布目織 凸面：磨りき 両縁：磨面ヘラケズリ	凸面：ヘラ磨き「有」	G-122	28-12 102
番号	遺構名 グリッド	層位	種類	口径 長さ(cm)	底径 長さ(cm)	高さ 厚さ (cm)	底さ 厚	色調				成形・調整 備考	登録 番号	写真 図版
7	5号窯跡	7	土師器 甕	G2.08	-	(7.6)	-	外面：5YR5/3 内面：5YR5/3	外面：ロクロナデ 内面：ロクロナデ		D-002	29-3		

第92図 5号窯跡出土遺物(2)



番号	遺体名 グリッド	層位	種類	最大長 (cm)	最大幅 (cm)	残存幅 (cm)	残存長 (cm)	厚さ (cm)	瓦当面 長さ(cm)	瓦当面 厚さ(cm)	色調	形状・調査 備考	登録 番号	写真 掲載
1	5号窯跡	2	平瓦	31.4	-	25.1	2.2	-	-	-	凹面：N 5/D 凸面：N 5/D	凹面：赤目瓦 凸面：脚印き→一部ナデ→庄瓦 残線：側面・残線跡ヘラクスリ→庄瓦	G-123	29-4
2	5号窯跡	2	平瓦	35.5	8.7	4.1	1.6	-	-	-	凹面：N 3/D 凸面：N 4/D	凹面：赤目瓦→一部ナデ 凸面：脚印き 残線：側面・残線跡ヘラクスリ	G-124	29-5

第93図 5号窯跡出土遺物(3)

【 煙 出 部 】 削平され、残存していない。

【 焼 成 部 】 長さは3.2m、最大幅は70cm、残存する壁高は50cmで、平面形は、長方形である。床面に凹凸は認められず、17°の角度で傾斜する。東西両側壁は中位から上部でやや開き、北側奥壁では床面から121°の角度で外傾して立ち上がる。焼台は、凸面を上にした丸瓦・平瓦を3～5枚横列に並べ、1列としている。焼台の列は長さ1.4mの間に8列が確認されている（写真12-1）。

床面・壁面及び窯体周囲の被熱状況は、赤褐色化・灰白色硬化している。

焼成部に伴う構架材は、4ヶ所で検出した。構架材は全て壁外で確認しており、西側で2ヶ所、東側で2ヶ所である。構架材は炭化し、直径は1cm前後で、横断面は円形である。

【 燃 焼 部 】 長さは1.1m、最大幅は50cm、残存する壁高は60cmで、平面形は、長方形である。A期は構築時床面、B期はA期の堆積層（6層）上面、C期はB期の堆積層（4層）上面を床面としている。床面には凹凸

は認められず、10°の角度で傾斜する。焼成部との境に40cmの階を有している（写真12-6）。東側壁は床面からほぼ垂直に立ち上がり、壁中位で屈曲し、上部ではやや開いている。西側壁は床面からほぼ垂直に立ち上がる。焼成部との段差部分には丸瓦・平瓦を横位に差し込み、あるいは貼り付けて壁としている。また、両側壁には、平瓦を垂直に立てて、壁として用いている。

前庭部との境に僅かな括れを有し、Ⅲ層の被熱痕跡が確認できなくなる部分が焚口であると考えられる。

床面・壁面及び窯体周囲の被熱状況は、赤褐色化・灰白色硬化している。

焼成部に伴う構架材及び構架材痕跡は、確認されなかった。

【前庭部】 焼成部で確認されている焚口の南側である。長さは1.7m、幅は70cm、残存する壁高は40cmの長方形である。床面には凹凸が認められる。

【堆積層】 大別3層、細別7層と整地層・流出層を確認した。大別1層：流入堆積層。大別2層：崩落した天井材・壁材を多量に含む窯体崩落層。大別3層：A～C期の焼成部に広がる燃料残滓層。細別7層：灰原からの流出層。細別8層：整地層。

【灰原】 前庭部の延長線上、南側斜面に認められ、長軸は8.1m、短軸は6.9m、厚さは40cmである。細別7層は灰原からの流出層であり、その下に整地層が認められる。整地層中には灰白色火山灰を含んでいる。

【出土遺物】 丸瓦・平瓦及び、土師器が出土している。総破片数は362点で、15点を図示した。大別1・2層から丸瓦・平瓦、大別3層から丸瓦・平瓦・土師器が出土している。そのうち細別11・12層から、遺物は出土していない。床面直上からは、焼台として使用した丸瓦・平瓦が出土している。

6号窯跡(S06) (第94～99図・第6表)

【確認状況】 調査区北部の南側斜面、C-4・5グリッドに位置する。Ⅲ層上面で確認した。残存状態は良好で、焼成部・焼成部・前庭部・灰原を確認した。他の遺構との重複関係は認められない。本窯跡と、東側に隣接する5号窯跡の窯体との間隔は8.25mである。本窯跡はⅢ層を掘り込み、床面・壁面としている。壁面には、スサ入り粘土を貼っているが、断ち割り調査していないために詳細は不明である。天井部は、残存していない。焼成部上部から中央部付近の全面と焼成部下部及び焼成部の西側には、Ⅲ層を主体とするふい黄褐色を示す整地層が認められる。焼成部下部及び、焼成部西側では褐色の整地層を検出した。両整地層の関係、厚さ、堆積状況は不明である。

【窯体構造】 半地下式有階無段の窯室である。

【規模】 全長6.3m、幅70cm、残存壁高60cmである。

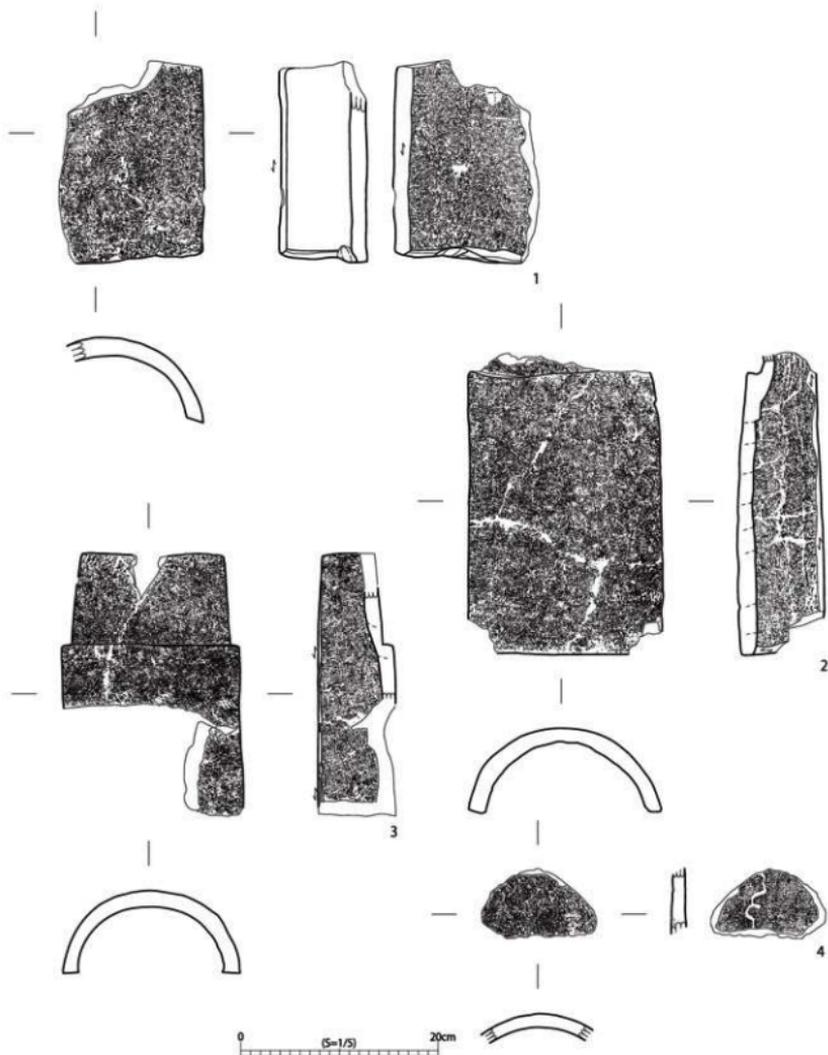
【中軸線の方向】 N-61°-E

6号窯跡土層観察表

層位	土色	土性	特徴	層位	土色	土性	特徴
1	黄7.5YR4/3	粘土質シルト	流入堆積層(大別1層) 一部に粘土質シルトに多い炭粉を少量含む。塵を少量含む。炭化物を微量含む。	12	明黄5.5Y5/8	砂質シルト	燃料残滓層(大別3層) 窯体の残存。灰原(小)ブロックを含む。炭化物を微量含む。
2	黄10YR2/1	粘土質シルト	流入堆積層(大別1層) 炭化物を少量含む。塵土を微量含む。	13	黄10YR2/1	粘土質シルト	燃料残滓層(大別3層) 窯体の残存。焼土(中)ブロックを少量含む。炭化物を微量含む。
3	黄黒10Y5/2	粘土質シルト	流入堆積層(大別1層) 粘土質シルトに多い炭粉を少量含む。塵土を微量含む。炭化物を微量含む。	14	黄7.5YR4/3	粘土質シルト	燃料残滓層(大別3層) 窯体の残存。南半部に炭化物を含む。焼土を少量含む。
4	灰黒黄10YR4/2	粘土質シルト	流入堆積層(大別1層) 灰白色火山灰(灰)に多い炭粉(中)ブロックを多量含む。炭化物を微量含む。	15	黄10YR2/1	粘土質シルト	燃料残滓層(大別3層) 窯体の残存。炭化物層。最下部に粘土質シルト(灰)を帯びる。炭化物を含む。焼土(中)ブロックを少量含む。
5	黄黒10Y3/1	粘土質シルト	流入堆積層(大別1層) 炭化物を微量含む。	16	黄黒10Y3/1	粘土質シルト	燃料残滓層(大別3層) 窯体の残存。炭化物を少量含む。焼土を微量含む。
6	黄10YR2/1	粘土質シルト	燃料残滓層(大別3層) 窯体の残存。粘土質シルト(灰黒)大ブロックを少量含む。炭化物を含む。焼土を少量含む。	17	黄黒2.5Y5/3	シルト	流入堆積層(大別3層) 一部中ブロックをなす。
7	灰黒黄黒10YR4/3	粘土質シルト	流入堆積層(大別3層) 下部に粘土質シルトに多い炭粉(黄黒)4大ブロックを含む。炭化物を少量含む。焼土(小)ブロックを微量含む。	18	黄7.5YR4/3	シルト	流入堆積層(大別3層) シルト(黄黒2.5Y5/3)中ブロックを少量含む。砂質シルト(黄黒10Y5/6)小ブロックを微量含む。炭化物を微量含む。
8	明黄7.5Y5/6	砂質シルト	窯体崩落層(大別4層) 焼土を多量含む。塵を少量含む。	19	黄黒2.5Y5/3	シルト	流入堆積層(大別3層) 一部中ブロックをなす。
9	黄黒10Y5/6	砂質シルト	窯体崩落層(大別4層) 焼土大ブロックを多量含む。炭化物を微量含む。下部にシルト(黄黒2.5Y5/3)を帯びる。含む。	20	黄7.5YR4/3	シルト	流入堆積層(大別3層) シルト(黄黒)小ブロックを少量含む。炭化物を微量含む。
10	灰赤10Y5/3-2	砂質シルト	窯体崩落層(大別4層)	21	黄黒2.5Y4/2	砂質シルト	流入堆積層(大別3層)
11	黄黒7.5Y3/3	粘土質シルト	燃料残滓層(大別3層) 窯体の残存。シルト(黄黒2.5Y5/3)中ブロック・砂質シルト(黄黒10Y5/6)中ブロックを少量含む。焼土大ブロックを少量含む。炭化物を微量含む。				

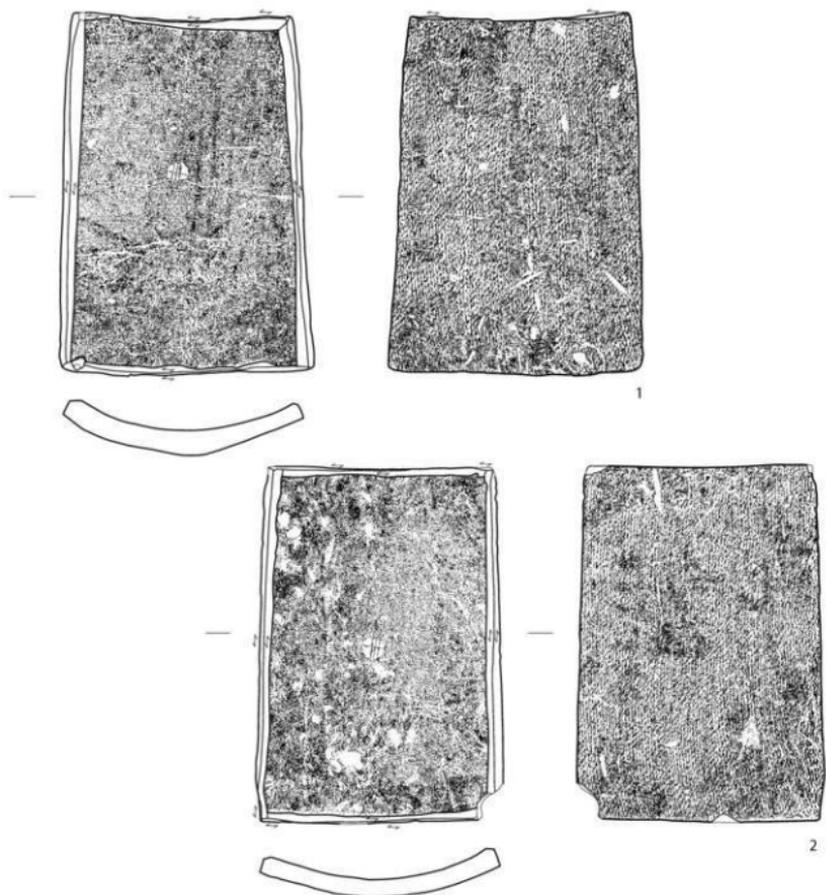


第94図 6号窯跡平面図・土層断面図



番号	遺物名 ブリード	層位	形状	最大長 (cm)	広幅幅 (cm)	狭幅幅 (cm)	厚さ (cm)	瓦当面 長(cm)	瓦当面 厚さ(cm)	色調	成形・調整 備考	登録 番号	写真 掲載
1	6号陶片	床面 直上	丸瓦	20.7 玉	12.7 玉	-	2.0 玉	-	-	内面：5Y 6/1 凸面：5Y 7/1	内面：布目織 凸面：脚甲き→ロクロナデ 周縁：脚面ヘラケズリ、広幅面注産	内面：押印①	F-037 29-6 99
2	6号陶片	11	丸瓦	30.8 52.3	13.2 (19.7) 玉	18.2 玉	1.8 玉	-	-	内面：N 4/0 凸面：10GY 4/1	内面：靴土織成→布目織 凸面：脚甲き→ロクロナデ 周縁：脚面・広幅面ヘラケズリ		F-038 29-8
3	6号陶片 瓦原	9	丸瓦	28.9 59.3	- 516.0	18.0 514.3	1.6 51.8	-	-	内面：N 5/0 凸面：N 6/0	内面：靴土織成→布目織 凸面：脚甲き→ロクロナデ 周縁：脚面・狭幅面ヘラケズリ		F-039 29-7
4	6号陶片 瓦原	3	丸瓦	6.9 玉	11.5 玉	-	1.4 玉	-	-	内面：布目織 凸面：脚甲き→ロクロナデ	内面：布目織 凸面：脚甲き→ロクロナデ	内面：ヘラ書き解説不明	F-040 29-9 106

第95図 6号窯跡出土遺物(1)



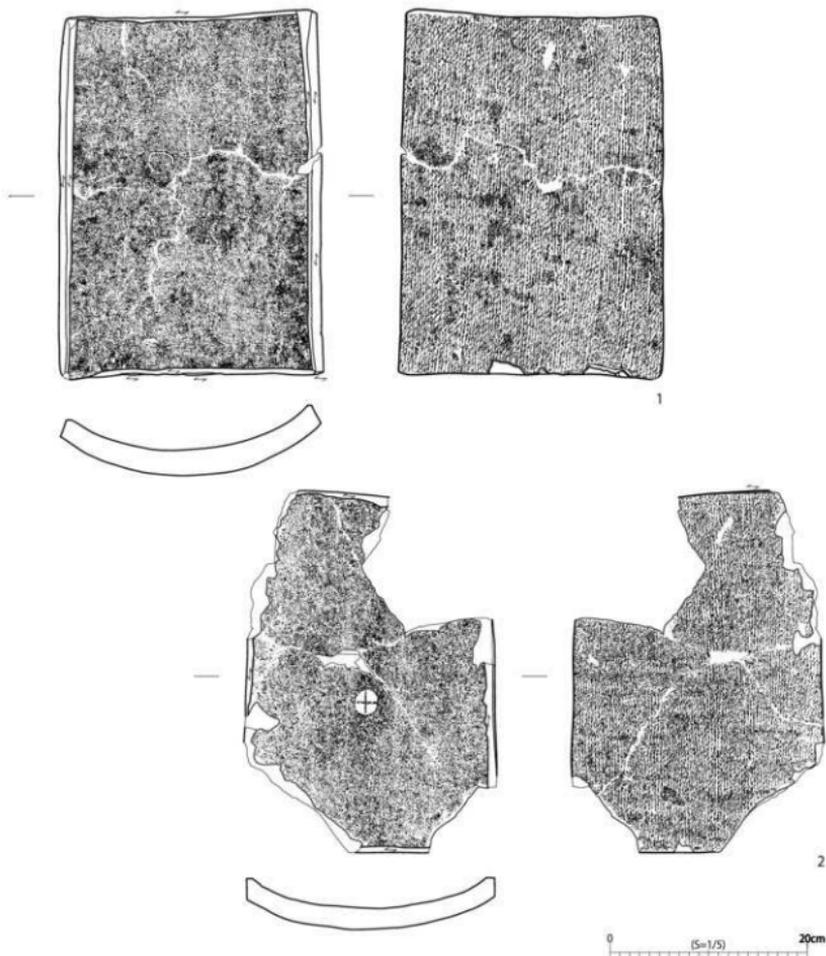
番号	遺物名 フリッド	種別	種別	最大長 (cm)	最大幅 (cm)	残存幅 (cm)	厚さ (cm)	瓦当面 長(cm)	瓦当面 厚さ(cm)	色調	成形・調査 備考	登録 番号	写真 掲載
1	6号窯跡	16	平瓦	37.2	25.5	22.1	2.6	-	-	内面：2.5Y 6/1 凸面：2.5Y 5/1	内面：赤目瓦→一部ナデ 凸面：焼甲き 周縁：ヘウズリ→赤目瓦付面	G-125	30-1 100
2	6号窯跡	16	平瓦	30.5	22.1 (24.0)	22.8	2.2	-	-	内面：7.5Y 5/1 凸面：2.5Y 6/1	内面：赤目瓦→赤目瓦→一部ナデ 凸面：焼甲き 周縁：ヘウズリ	G-126	30-2 100

第96図 6号窯跡出土遺物(2)

【 操業面数 】 4面 (A期：構築時床面、B期：細別15層上面、C期：細別13層上面、D期：細別11層上面)

【 煙出部 】 削平され、残存していない。

【 焼成部 】 長さは4m、最大幅は60cm、残存する壁高は50cmで、平面形は長方形である。床面は2面確認し、双方とも凹凸は認められない。床面は中央付近で傾斜が変化しており、上部は24°、下部が13°の角度で傾斜する。東西両側壁は中位から上部でやや開き、奥壁では床面から126°の角度で外傾して立ち上がる。焼台は、凸面を上にした丸瓦・平瓦を3～4枚横位に並び、1列としている。焼台の列は長さ1.4mの間に6列が確認され



番号	通称名 グリッド	層位	種類	最大径 (cm)	広幅幅 (cm)	狭幅幅 (cm)	厚さ (cm)	瓦当面 長さ(cm)	瓦当面 厚さ(cm)	色調	成形・調査 備考	登録 番号	写真 図版
1	6号窯跡	11	平瓦	37.7	26.5	25.3	2.6	-	-	内面：N 4/O 凸面：N 4/O	内面：赤目瓦 凸面：瓣印瓦 内面：ヘラケズリ→広幅幅汗瓦	G-127	30-3 104
2	6号窯跡	10	平瓦	36.9 (25.7)	8.1 (24.7)	0.2	2.3	-	-	内面：10V 3/I 凸面：2.2V 5/I	内面：赤目瓦 凸面：瓣印瓦 内面：ヘラケズリ	G-128	31-8 99

第97図 6号窯跡出土遺物(3)

ている（写真 12-7）。奥壁には平瓦の凹面を壁面に密着させて立てている（写真 13-5）。

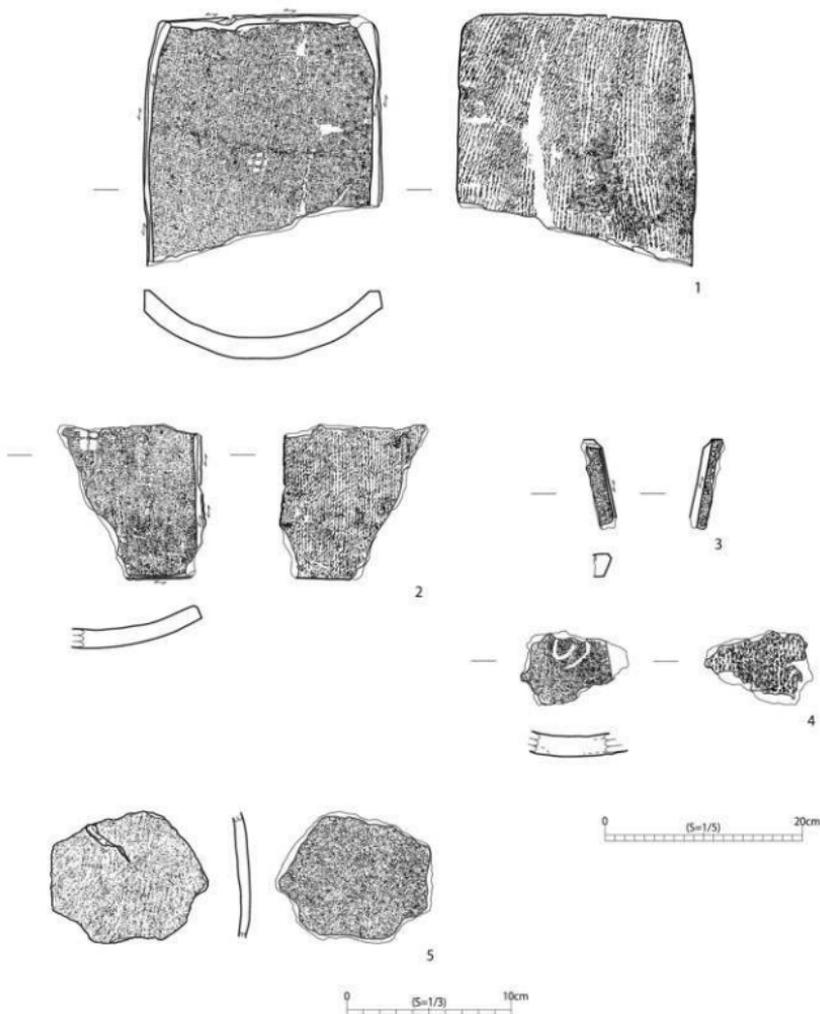
床面・壁面及び窓体周囲の被熱状況は、赤褐色化・灰白色硬化している。

焼成部に伴う構架材は、19ヶ所で検出した。構架材は、平面検出のみの調査である。構架材は西側壁外で5ヶ所、西側壁内で10ヶ所、北側奥壁外で1ヶ所、東側壁内で2ヶ所、東側壁外で5ヶ所である。構架材は炭化し、直径は1cm前後で、横断面は円形である。



番号	遺物名 グリップ	層位	種類	最大径 [cm]	広幅幅 [cm]	狭幅幅 [cm]	厚さ [cm]	互当面 長さ[cm]	互当面 厚さ[cm]	色調	成形・調整 備考	登録 番号	写真 図版
1	6号竪穴 灰皿	6	平瓦	20.9+	-	22.5	2.7	-	-	凹面: 2.5YR5/2 凸面: 2.5YR4/1	凹面: 布目織 凸面: 縞甲斐→行塚 埋緑: 縞面・波理面へラケ文字→移状直織	凹面: へろ書き「目内」	G-129 31-3 103
2	6号竪穴 灰皿	6	平瓦	33.5+	23.5	-	2.8	-	-	凹面: 10YR 5/2 凸面: 7.5YR 5/2	凹面: 布目織→注織 凸面: 縞甲斐 埋緑: 縞面・波理面へラケ文字	凹面: 押印	G-130 31-5 100
3	6号竪穴 灰皿	6	平瓦	18.1+	15.7+	-	2.3	-	-	凹面: N 6/O 凸面: 10YR 6/1	凹面: 布目織→雲字子 凸面: 縞甲斐→行塚 埋緑: 縞面・波理面へラケ文字→縞面直織	凹面: 押印	G-131 31-7 100

第98図 6号竪跡出土遺物(4)



番号	遺物名 フリッド	層位	種類	最大長 (cm)	最大幅 (cm)	狭幅幅 (cm)	厚さ (cm)	瓦当面 長(cm)	瓦当面 厚さ(cm)	色調	成形・調整 備考		登録 番号	写真 掲載
											成形	調整		
1	6号窯跡 灰原	6	平瓦	25.7+	-	20.2 (21.6)	2.1	-	-	内面：10YR 5/1 凸面：7.5YR 5/1	内面：布目織 凸面：編み織 縦線：銀面・狭幅面ヘラケズリ・狭幅面棒状圧痕	内面：押印(印)	G-132	31-2 100
2	6号窯跡 灰原	3	平瓦	15.9+	6.7+	-	1.8	-	-	内面：2.5Y 5/1 凸面：10YR 5/2	内面：布目織 凸面：編み織 縦線：銀面・広幅面ヘラケズリ	内面：押印(印)	G-133	31-4 98
3	6号窯跡 灰原	3	平瓦	9.1+	1.0+	-	2.4	-	-	内面：10YR 4/1 凸面：10YR 4/1	内面：布目織 凸面：編み織 縦線：銀面・狭幅面ヘラケズリ	断面：粘土粒付織	G-134	31-6
4	6号窯跡	3	平瓦	7.6+	10.9+	-	2.1	-	-	内面：10YR 5/1 凸面：10YR 5/1	内面：布目織 凸面：編み織 断面：たたら粘土貼り合付織	内面：へら書き「d」	G-135	31-1 104
番号	遺物名 フリッド	層位	種類	口徑 長さ(cm)	底径 幅(cm)	底径 幅(cm)	底径 幅(cm)	高さ 厚さ (cm)	色調	成形・調整 備考		登録 番号	写真 掲載	
5	6号窯跡	10	灰原 遺物	-	-	-	-	-	内面：NS/O 外面：NS/O	外面：平行タテキ 内面：当具面 瓦と繋ぎ、焼付転用		E-004	31-9	

第99図 6号窯跡出土遺物(5)

【**燃焼部**】長さは1.2m、最大幅は55cm、残存する壁高は60cmで、平面形は、長方形である。床面には凹凸は認められず、11°の角度で傾斜する。床面はA期は構築面、B期はC期の堆積層（15層）上面、C期はB期の堆積層（13層）上面、D期はC期の堆積層（12層）上面である。焼成部との境に20cmの階を有している。東西両側壁は、床面から開いて立ち上がる。両側壁には平瓦の凹面を壁面に密着させて立てている（写真13-6～8）。

前庭部との境に括れを有し、床面に段が認められる部分が、焚口であると考えられる。

床面・壁面の被熱状況は、残存する壁面の一部が灰白色硬化している。その他のほとんどの床面・壁面及び竈体周囲は、赤褐色化している。

燃焼部に伴う構築材は、確認されなかった。

【**前庭部**】前庭部と燃焼部の境は括れており、比較的明瞭に区別できる。長さは1.1m、幅は70cm、残存する壁高は30cm、平面形は不整形である。床面には凹凸は認められない。前庭部に伴う構築材は、確認されなかった。

【**堆積層**】大別4層、細別で21層を確認した。大別1層：流入堆積層。大別2層：燃焼部から灰原に広がる燃料残滓層。大別3層：流入堆積層。大別4層：崩落した天井材・壁材を多量に含む竈体崩落層。大別5層：D～A期の燃焼部に広がる燃料残滓層。

【**灰原**】前庭部の延長線上、南側斜面に認められ、長軸は6.3m、短軸は5.8m、厚さは50cmである。堆積土は堆積層の大別1・2層で、竈体からの流出堆積層及び燃料残滓層である。

【**出土遺物**】丸瓦・平瓦及び、須恵器が出土している。総破片数は652点である。16点を図示した。大別1・2層から丸瓦・平瓦・須恵器、大別3～6層から丸瓦・平瓦が出土している。床面直上からは、焼台として使用した丸瓦・平瓦が出土している。

7号窯跡 (S07) (第100・101図・第6表)

【**確認状況**】調査区北部の南斜面、A・B-3グリッドに位置する。Ⅲ層上面で確認した。残存状態は良好であるが、焼成部の一部と燃焼部は調査区外へ延びる。他の遺構との重複関係は認められない。本窯跡の南側に隣接する8号窯跡の竈体との間隔は3.5mである。本窯跡はⅢ層を掘り込み、床面・壁面としている。壁面には、スサ入り粘土を貼っている。天井部は、残存していない。本窯跡から10号窯跡にかけてⅢ層を主体とするにぶい黄褐色を示す整地層が認められる。本窯跡及びその周囲では、焼成部上部の南西側、燃焼部南西側で認められる。焼成部上部・中央部の北東側では褐色の整地層を検出した。一連の整地層に構築されていることから考えて、本窯跡から10号窯跡の4基の窯跡は一連の窯跡と考えられるが、詳細は不明確である。

【**竈体構造**】半地下式無階無段の竈窓である。

【**規模**】全長4.8m以上、幅50cm、残存壁高40cmである。

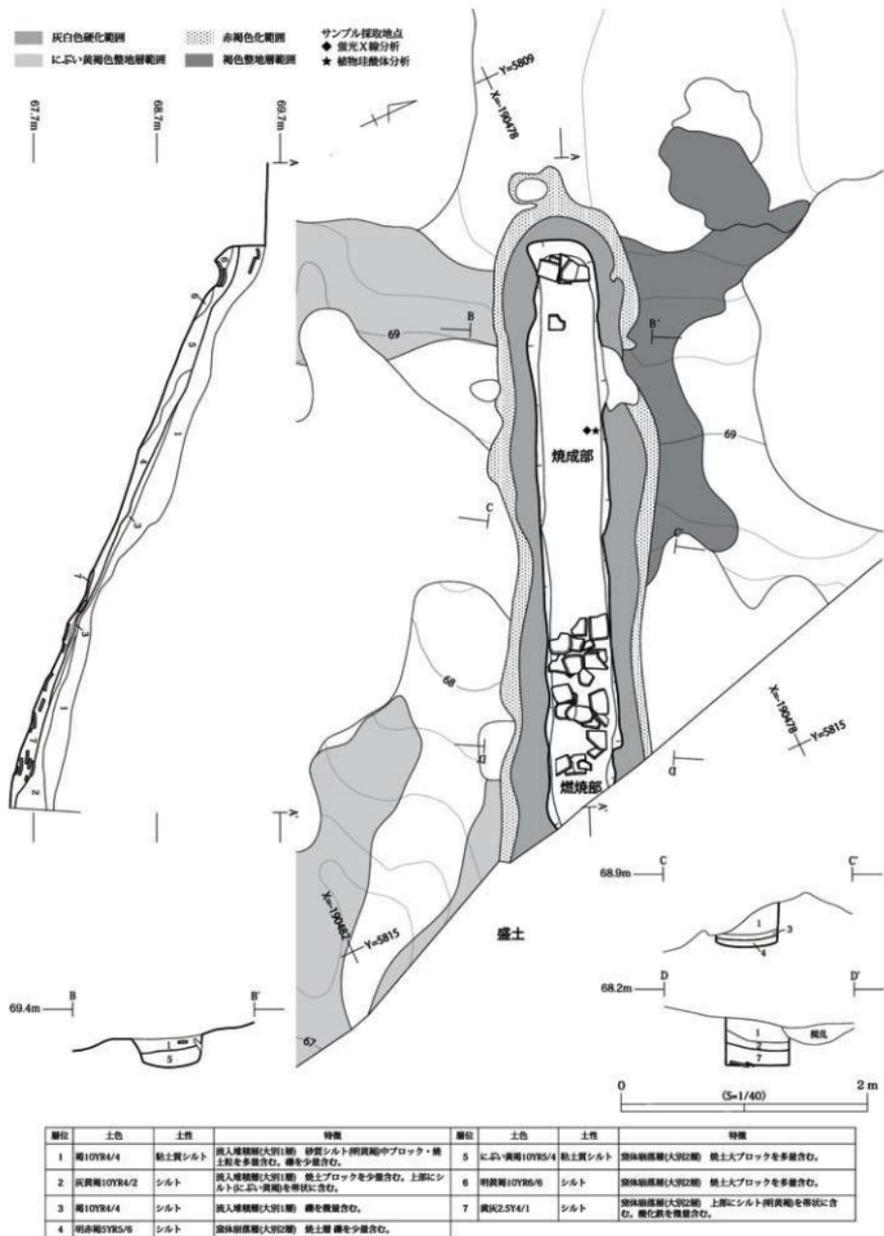
【**中軸線の方向**】N-66°-W

【**作業面数**】1面（構築面）

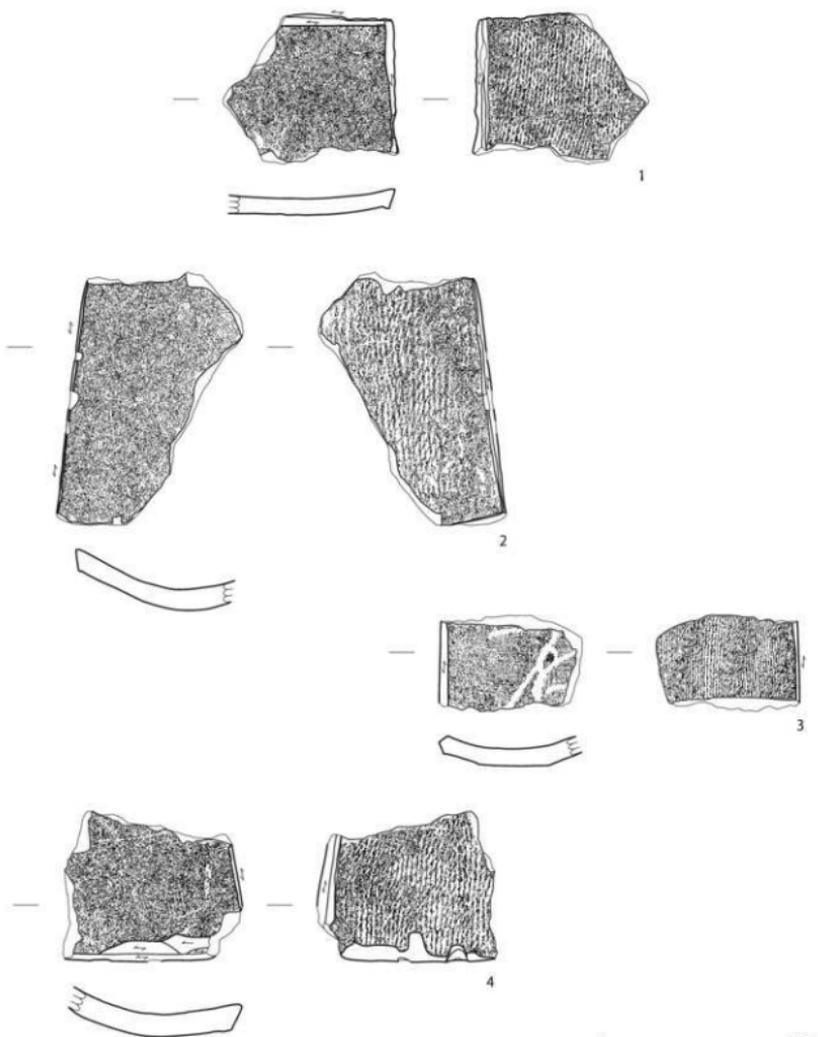
【**煙出部**】削平され、残存していない。

【**焼成部**】長さは4.35m、最大幅は50cm、残存する壁高は40cmである。平面形は、長方形である。床面に凹凸は認められず、22°の角度で傾斜する。南北両側壁は燃焼部に近い東側では垂直に立ち上がっているが、奥壁に向かうに従い、中位から上部で開く。奥壁は床面から135°の角度で外傾して立ち上がり、中位から上部で垂直に立ち上がっている（写真14-7）。焼台は、凸面を上にした平瓦を3～4枚横に並べ、1列としている。焼台の列は長さ4.3mの間に6列が確認されている（写真14-4）。

床面・壁面及び竈体周囲の被熱状況は、赤褐色化・灰白色硬化している。



第100図 7号窯跡平面図・土層断面図



番号	通称名 グリッド	層位	種類	最大径 (cm)	広径幅 (cm)	狭径幅 (cm)	厚さ (cm)	瓦当面 長さ(cm)	瓦当面 厚さ(cm)	色調	成形・調整 備考	登録 番号	写真 掲載	
1	7号窯跡	1	平瓦	13.4+	-	11.3+	1.9	-	-	内面：5Y 7/1 凸面：N 5/D	内面：布目織 自然釉 凸面：刷明き 凹型台付窯 瓦縁：刷面・洗線刷ヘラケズリ	G-136	32-1	
2	7号窯跡	1	平瓦	25.9+	7.1+	-	2.2	-	-	内面：N 6/D 凸面：7.5YR 5/1	内面：布目織+ナデ 凸面：刷明き 凹型台付窯 瓦縁：刷面・ヘラケズリ	G-137	32-2	
3	7号窯跡	1	平瓦	9.7+	14.2+	-	2.0	-	-	内面：7.5YR 5/1 凸面：7.5YR 5/1	内面：布目織 凸面：刷明き 瓦縁：刷面・ヘラケズリ	凹面「ヘラ書き「有」	G-138	32-4 102
4	7号窯跡	1	平瓦	15.4+	15.3+	-	2.5	-	-	内面：10YR 6/1 凸面：5YR 6/1	内面：糸切り織+布目織+一部ナデ 凸面：刷明き 凹型台付窯 瓦縁：刷面・洗線刷ヘラケズリ→北端面付窯	G-139	32-6	

第101図 7号窯跡出土遺物

焼成部に伴う構架材は、確認されなかった。

【**燃焼部**】ほとんどが調査区外に延びている。長さは45cm以上、最大幅は50cm、残存する壁高は40cmで、平面形は長方形である。構築面を床面としている。床面に凹凸は認められず、10°の角度で傾斜する。南北両側壁は床面から垂直に立ち上がっている。

床面・壁面及び窯体周囲の被熱状況は、赤褐色化しており、一部が灰白色硬化している。

燃焼部に伴う構架材は、確認されなかった。

【**前庭部**】調査区内では確認できなかった。

【**堆積層**】大別で2層、細別で7層を確認した。大別1層：流入堆積層。大別2層：焼成部に見られる窯体崩落層。

【**灰原**】調査区内では確認できなかった。1号灰原の一部が、本窯跡に伴う灰原の可能性がある。

【**出土遺物**】平瓦及び須恵器が出土している。総破片数は39点である。4点を図示した。大別1層から平瓦・須恵器、大別2層から平瓦が出土している。床面直上からは、焼台として使用した平瓦が出土している。

8号窯跡(S08) (第102～104図・第6表)

【**確認状況**】調査区西部の東側斜面、B-2・3グリッドに位置する。整地層上面で確認した。残存状態は良好とはいえないが、焼成部・燃焼部・前庭部を確認した。他の遺構との重複関係は認められない。本窯跡の南側に隣接する9号窯跡の窯体との間隔は5.1m、北側に隣接する7号窯跡の窯体との間隔は3.5mである。本窯跡はⅢ層を掘り込み、そのまま床面・壁面としている。壁面には、スサ入り粘土を貼っているが、断ち割り調査していないために詳細は不明である。天井部は、残存していない。前述した通り、7号窯跡から10号窯跡にかけてⅢ層を主体とするにぶい黄褐色を示す整地層が認められる。本窯跡の周囲では、焼成部上部の南側と北側、中央部から下部の北側、燃焼部・前庭部のほぼ全面に認められる。

【**窯体構造**】半地下式無階無段の窯室である。

【**規模**】前庭部を除いた全長6.9m、幅80cm、残存壁高60cmである。

【**中軸線の方向**】N-64°-W

【**作業面数**】2面(A期：構築時床面、B期：細別20層上面)

【**煙出部**】削平され、残存していない。

【**焼成部**】長さは5.1m、最大幅は80cm、残存する壁高は60cmである。平面形は、長方形である。床面には凹凸は認められず、21°の角度で傾斜する。南北両側壁は奥壁付近では床面から垂直に立ち上がり、燃焼部に向かうに従い中位から上部で外傾気味に開いている。奥壁は、床面から108°の角度で立ち上がっている。現存する床面で焼台は、確認されなかった。奥壁に平瓦の凹面を壁面に密着させて立てている(写真15-5)。奥壁部最下部の構造を示していると考えられる。

床面・壁面及び窯体周囲の被熱状況は、床面の一部が赤褐色化しているが、殆どの床面・壁面は、灰白色硬化している。

焼成部に伴う構架材は、8ヶ所で検出した(写真15-8)。構架材は、全て壁外で確認した。南側で6ヶ所、北側で1ヶ所、西側で1ヶ所である。構架材は炭化し、残存していた構架材の直径は1cm前後であり、横断面は円形である。

【**燃焼部**】長さは1.8m、最大幅は70cm、残存する壁高は60cmである。平面形は、長方形である。A期は構築面、B期はA期の堆積層(20層)上面を床面としている。床面に凹凸は認められず、3°の角度で傾斜する。南北両側壁は床面から垂直に立ち上がり、中位から上部で外傾気味に開いている。北側壁には丸瓦・平瓦の凹面を壁面に密着させ、垂直に立てている。南側壁の焚口先端部分と推定される壁構築土内から、補強材として用いられた

たとえられる軒平瓦を確認した（写真 15-7）。

床面・壁面及び窠体周囲の被熱状況は、床面は赤褐色化し、壁面は灰白色硬化している。

燃焼部に伴う構架材は、床面で4ヶ所で検出した。構架材は炭化し、残存していた構架材の直径は1cm前後であり、横断面は円形である。

【前庭部】 焚口前面で確認された、長軸3.2m、短軸2.5m、深さ50cm、不整形の土坑状の落ち込みである。東側に隣接する1号灰原の堆積土と類似しており、位置関係が近いことから前庭部とした。

【堆積層】 大別3層、細別16層を確認した。大別1層：流入堆積層。大別2層：窠体崩落層。大別3層：A・B期の燃焼部前庭部に見られる燃料残滓層。

【灰原】 前庭部の堆積土及び1号灰原の堆積土と類似しており、相互の位置関係が近接していることから、1号灰原の一部が本窠跡の灰原であると考えられる。

【出土遺物】 丸瓦・軒平瓦・平瓦が出土している。総破片数は61点で、4点を図示した。大別1層から丸瓦・平瓦、大別2層から平瓦、大別3層から丸瓦・軒平瓦・平瓦が出土している。A期の床面直上からは、遺物は出土していない。

9号窠跡（SO9）（第105・106図・第6表）

【確認状況】 調査区西部の東側斜面、B-2・3、C3グリッドに位置する。Ⅲ層上面で確認した。残存状態は良好とはいえないが、焼成部・燃焼部・前庭部を確認した。焼成部の奥壁側上部は、後の攪乱により削平されている。他の遺構との重複関係は認められない。本窠跡と南側に隣接する10号窠跡の窠体との間隔は1.9m、北側に隣接する8号窠跡の窠体との間隔は5.1mである。本窠跡はⅢ層を掘り込み、そのまま床面としている。壁面には、スサ入り粘土を貼っているが、断ち割り調査していないために詳細は不明である。天井部は残存していない。前述した通り、7号窠跡から10号窠跡にかけてⅢ層を主体するにぶい黄褐色を示す整地層が認められる。本窠跡では焼成部・燃焼部南側、前庭部のほぼ全面に認められる。

【窠体構造】 半地下式無階無段の窠室である。

【規模】 前庭部を除いた全長5.3m以上、幅70cm、残存壁高55cmである。

【中軸線の方向】 N-66°-W

【作業面数】 4面（A期：構築時床面、B期：14層上面、C期：11層上面、D期：6層上面）

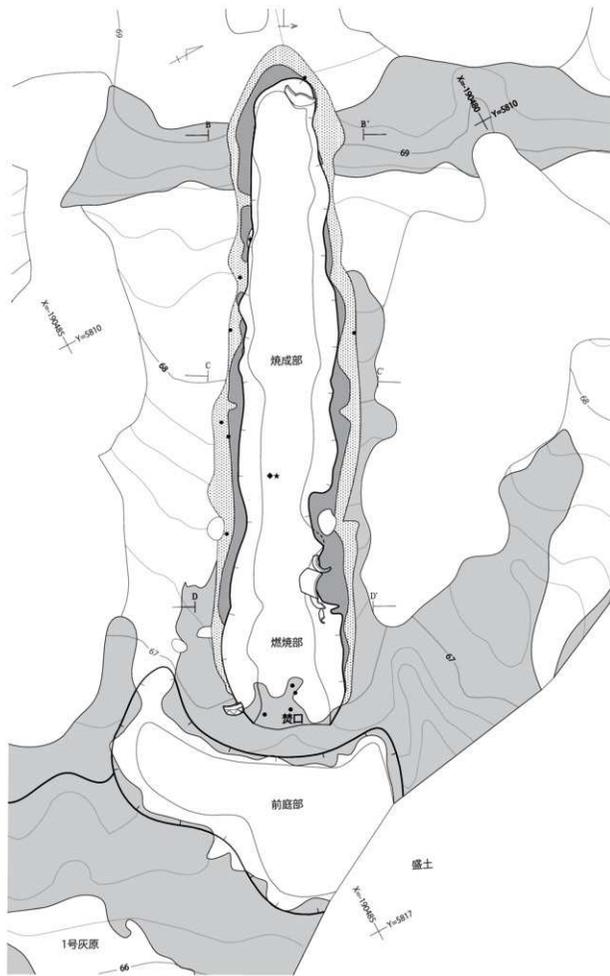
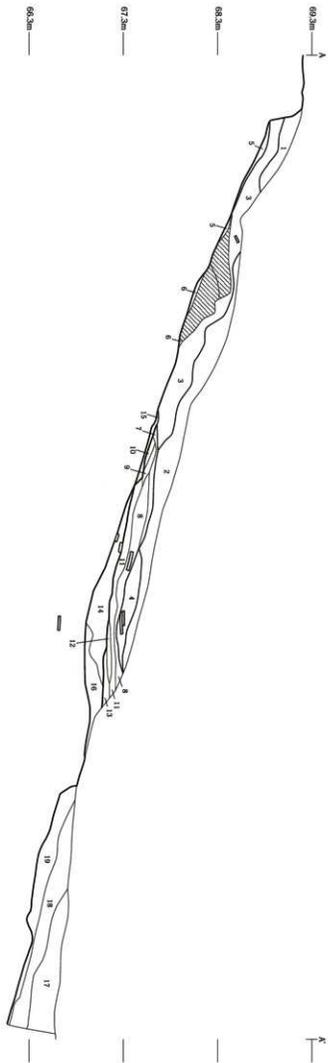
【煙出部】 削平され、残存していない。

【焼成部】 長さは3.9m以上、最大幅は60cm、残存する壁高は55cmである。床面に凹凸は認められない。焼成部の床面は中央部付近で傾斜が変化しており、上部は20°、下部は14°の角度で傾斜する。側壁は奥壁に近い部分では外傾しており、燃焼部に向かうに従って垂直に立ち上がる。焼台は、凸面を上にした平瓦を2～3枚横列に並べ、1列としている。焼台の列は長さ1.8mの間に7列が確認されている。

床面・壁面の被熱状況は全面が灰白色硬化し、窠体周囲は灰白色硬化、赤褐色化している。

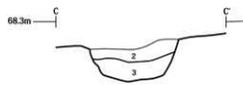
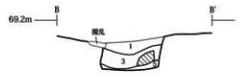
焼成部に伴う構架材は、9ヶ所で検出した。構架材は、南側壁外で3ヶ所、南側壁内で1ヶ所、北側壁外で5ヶ所である。構架材は炭化し、直径は1cm前後で、横断面は円形である。

【燃焼部】 長さは1.4m、最大幅は70cm、残存する壁高は50cmで、平面形は、長方形である。A期は構築面、B期はA期の堆積層（14層）上面、C期はB期の堆積層（13層）上面、D期はC期の堆積層（10層）上面、E期はD期の堆積層（8層）上面を床面としている。床面に凹凸は認められず、11°の角度で傾斜する。南北両側壁は床面から垂直に立ち上がり、中位から上部で外傾気味に開いている。南側壁には平瓦を二重にして、北側壁には丸瓦・平瓦の凹面を壁面に密着させ、垂直に立てている（写真 16-2）。



■ 灰白色硬化範囲 ● 構築材
 ■ 赤褐色化範囲 ■ 灰白色地盤硬化範囲
 ■ 腐体ブロック

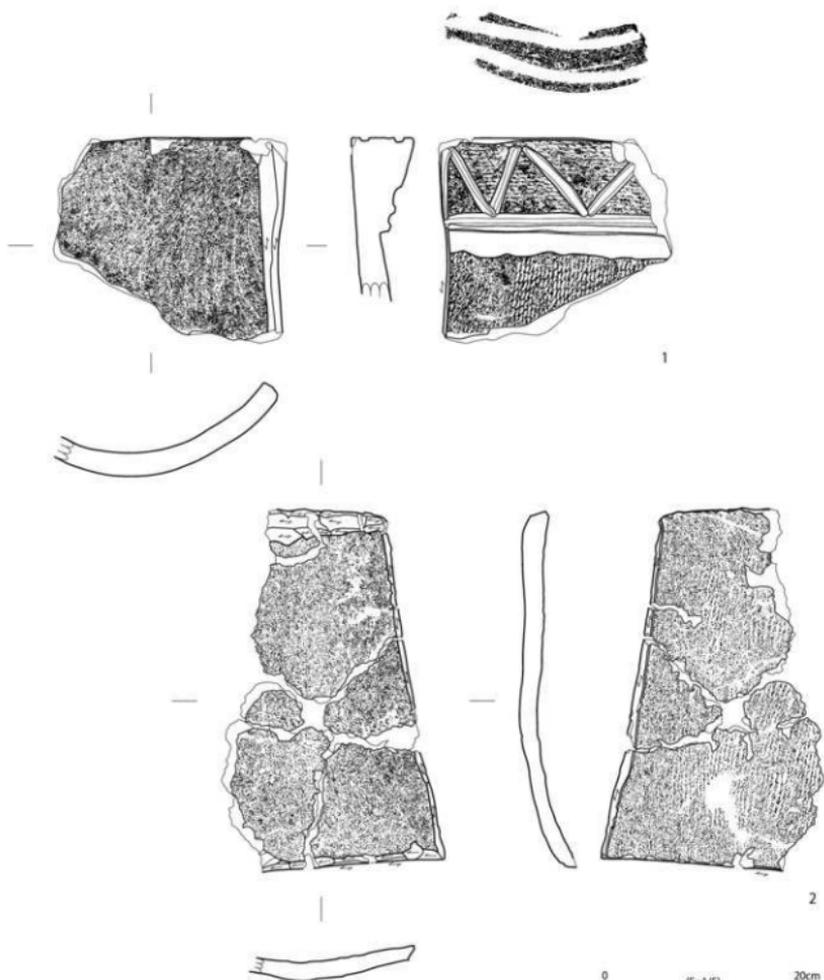
● サンプル採取地点
 ◆ 蛍光X線分析
 ★ 植物遺体分析



0 (S=1/40) 2m

層位	土色	土性	特徴	層位	土色	土性	特徴
1	7.SYR4/4	シルト	灰土層(焼成(大器3期) 砂質シルト)腐体大ブロックを多数含む。粘土を少量含む。炭化物散在を認めない。	9	にぶ・黄褐色10YR5/4	シルト	燃料残滓層(大器3期) 燃料の残滓。下部にシルト(焼)を帯びて含む。礫を少量含む。
2	7.SYR4/3	粘土質シルト	灰土層(焼成(大器3期) 砂質シルト)腐体大ブロックを多数含む。シルト(炭化物散在)ブロックを含む。粘土を少量含む。炭化物散在を認めない。	10	黒層10YR2/2	シルト	燃料残滓層(大器3期) 燃料の残滓。炭化物散在を認めない。
3	7.SYR4/3	シルト	灰土層(焼成(大器3期) 砂質シルト)腐体大ブロック・シルト(炭化物散在)ブロックを多数含む。粘土を少量含む。炭化物散在を認めない。	11	7.SYR4/4	粘土質シルト	燃料残滓層(大器3期) 燃料の残滓。礫を含む。炭化物散在を認めない。
4	7.SYR4/4	粘土質シルト	灰土層(焼成(大器3期) 粘土質シルト)腐体大ブロック・シルト(炭化物散在)ブロックを多数含む。粘土を少量含む。炭化物散在を認めない。	12	にぶ・黄褐色10YR5/4	粘土質シルト	燃料残滓層(大器3期) 燃料の残滓。シルト(炭化物散在)ブロックを多数含む。炭化物散在を認めない。
5	7.SYR4/4	粘土質シルト	燃料残滓層(大器3期) 燃料の残滓。砂質シルト(腐体大ブロック)を多数含む。粘土を少量含む。炭化物散在を認めない。	13	黒層10YR3/1	粘土質シルト	燃料残滓層(大器3期) 燃料の残滓。粘土質シルト(腐体大ブロック)を多数含む。炭化物散在を認めない。
6	明赤層7YR5/6	粘土質シルト	燃料残滓層(大器3期)	14	10YR4/6	粘土質シルト	燃料残滓層(大器3期) 燃料の残滓。下部に礫を少量含む。
7	明赤層7YR5/6	砂質シルト	燃料残滓層(大器3期) 燃料の残滓。粘土質シルト(腐体大ブロック)・砂質シルト(腐体大ブロック)を少量含む。炭化物散在を認めない。	15	黒層7YR3/2	粘土質シルト	燃料残滓層(大器3期) 燃料の残滓。シルト(腐体大ブロック)を多数含む。炭化物散在を認めない。
8	にぶ・黄褐色10YR4/3	砂質シルト	燃料残滓層(大器3期) 燃料の残滓。礫を含む。	16	黄褐色2.5Y4/1	粘土質シルト	燃料残滓層(大器3期) 燃料の残滓。粘土質シルト(腐体大ブロック)を多数含む。粘土を少量含む。炭化物散在を認めない。

第102図 8号窯跡平面図・土層断面図

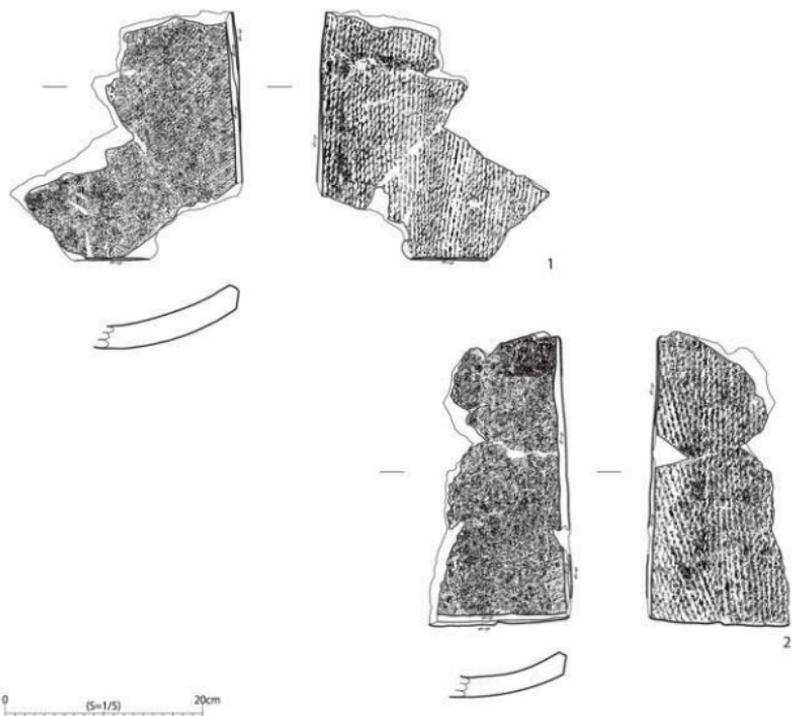


番号	遺構名 アフリッド	部位	種類	最大長 (cm)	広径幅 (cm)	狭径幅 (cm)	厚さ (cm)	瓦当面 長さ(cm)	瓦当面 厚さ(cm)	色調	成形・調整	備考	登録 番号	写真 図版
1	8号窯跡	壁面 強材	軒平瓦	20.9	19.8	-	2.4	6.4	-	瓦当面：1OYR5/1 側面：1OYR6/1 凹面：25GY 5/1 凸面：1OYR 5/1	瓦当面：ヘラケズリへの掘き雲文 側面：彫りきへの掘き雲文 凹面：糸切り歯への目線 凸面：彫りきへのナデ	瓦当面：側面ヘラケズリ	G-140	32-5
2	8号窯跡	16	平瓦	37.2	18.5	12.1	1.9	-	-	凹面：N 5/O 凸面：N 6/O	凹面：糸目歯へのヘラナデ 凸面：糸切り歯への彫りき 側面：ヘラケズリ	G-141	32-7	

第103図 8号窯跡出土遺物(1)

燃焼部の端部に接して、前庭部として把握できる落ち込みを確認した。燃焼部と前庭部の接合する部分が焚口と考えられる。

床面・壁面の被熱状況は灰白色硬化し、窯体周囲は灰白色硬化、赤褐色化している。



番号	遺物名	種類	形状	最大長 (cm)	最大幅 (cm)	最大厚 (cm)	最大径 (cm)	最大径 (cm)	最大径 (cm)	色調	説明・調査備考	目録番号	写真番号
1	8号窯跡	3	平瓦	25.6	7.8	-	2.6	-	-	断面：5Y 5/1 凸面：10YR 5/2	断面：赤切り筋→布目織 凸面：陶甲き→一部ナデ 内縁：黒面・広縁面ヘラケズリ	G-142	32.3
2	8号窯跡	1	平瓦	30.1	14.1	-	2.1	-	-	断面：N 4/O 凸面：10YR 6/1	断面：赤切り筋→布目織→一部ナデ 凸面：陶甲き 内縁：黒面・広縁面ヘラケズリ	G-143	32.8

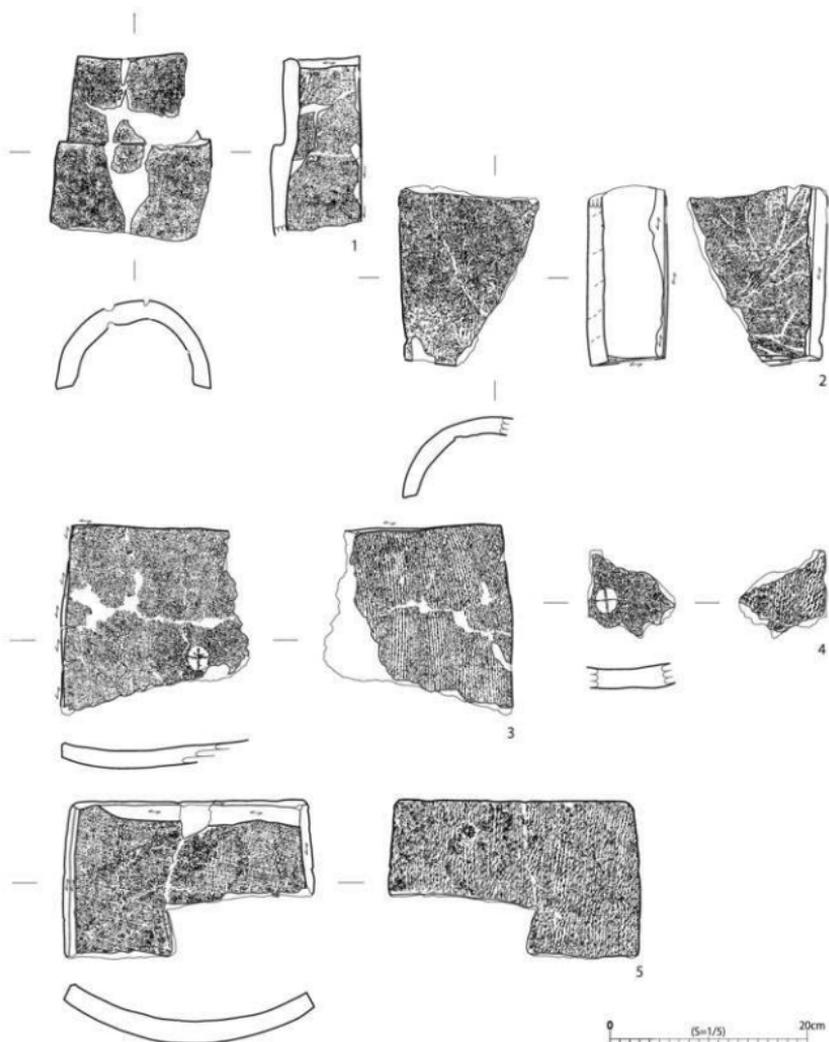
第104図 8号窯跡出土遺物(2)

9号窯跡土層観察表

層位	土色	土性	特徴	層位	土色	土性	特徴
1	黄10YR4/4	シルト	灰入堆積層(大塚2層) 砂質シルト(黄濁層)中ブロック・砂質シルト(黄濁層)大ブロックを含む。焼土粒を少量含む。炭化物粒を微量含む。	10	灰1黄10YR5/4	シルト	燃料残滓層(大塚2層) 炭体の残滓。焼土中ブロックを含む。
2	黒10YR3/1	シルト	燃料残滓層(大塚2層) 炭体の残滓。砂質シルト(黄濁層)大ブロックを含む。炭化物粒を微量含む。	11	黄7.5YR5/6	シルト	燃料残滓層(大塚2層) 炭体の残滓。焼土粒を少量含む。下部に砂質シルト(灰1)黄濁層大ブロックを少量含む。炭化物粒を微量含む。
3	黄7.5YR4/4	シルト	燃料残滓層(大塚2層) 炭体の残滓。砂質シルト(黄濁層)中ブロックを含む。焼土ブロック・炭化物粒を微量含む。	12	黄7.5YR4/4	粘土質シルト	燃料残滓層(大塚2層) 炭体の残滓。炭化物粒を含む。焼土粒を少量含む。
4	灰1黄10YR5/3	粘土質シルト	燃料残滓層(大塚2層) 炭体の残滓。粘土質シルト(灰1)黄濁層(10YR5/4)中ブロックを少量含む。炭化物粒を少量含む。	13	黒10YR2/1	粘土質シルト	燃料残滓層(大塚2層) 炭体の残滓。シルト(黄)中ブロックを少量含む。
5	黒10YR2/1	粘土質シルト	燃料残滓層(大塚2層) 炭体の残滓。砂質シルト(黄濁層)大ブロックを少量含む。炭化物粒・焼土粒を少量含む。	14	オレンジ黄2.5Y4/3	シルト	燃料残滓層(大塚2層) 炭体の残滓。中部にシルト(灰)層を帯状に含む。礫を微量含む。
6	黄7.5YR5/6	粘土質シルト	燃料残滓層(大塚2層) 炭体の残滓。焼土粒を微量含む。	15	黄10YR3/4	粘土質シルト	燃料残滓層(大塚2層) 炭体の残滓。焼土中ブロックを少量含む。
7	黒10YR2/1	シルト	燃料残滓層(大塚2層) 燃料の残滓。砂質シルト(灰1)黄濁層(10YR5/4)を含む。炭化物粒・焼土粒を含む。	16	黄7.5YR4/4	粘土質シルト	燃料残滓層(大塚2層) 炭体の残滓。下部に砂質シルト(黄濁層)中ブロックを含む。炭化物粒を微量含む。
8	灰1黄10YR4/4	シルト	燃料残滓層(大塚2層) 炭体の残滓。砂質シルト(黄濁層)大ブロックを微量含む。焼土(黄)層中ブロックを含む。	17	灰1黄10YR4/4	粘土質シルト	燃料残滓層(大塚2層) 炭体の残滓。焼土(灰1)黄濁層中ブロックを少量含む。焼土粒を微量含む。
9	黒10YR3/1	シルト	燃料残滓層(大塚2層) 炭体の残滓。シルト(灰1)黄濁層中ブロック・砂質シルト(黄)大ブロックを微量含む。焼土粒を含む。	18	黒10YR2/1	シルト	燃料残滓層(大塚2層) 燃料の残滓。炭化物粒を微量含む。焼土粒を微量含む。



第105図 9号窯跡平面図・土層断面図



番号	遺物名 ブリード	層位	種類	最大長 (cm)	最大幅 (cm)	狭幅幅 (cm)	厚さ (cm)	瓦当面 長(cm)	瓦当面 厚さ(cm)	色調	成形・調整	備考	登録 番号	写真 図説
1	9号窯跡	8	丸瓦	19.1 39.2	15.4 513.6	5.109 (11.4)	2.3	-	-	内面：10YR 6/2 凸面：10YR 7/2	内面：布目織 凸面：縄甲子→ロクロナデ 周縁：雲面・鉄燻面ヘラケズリ		F 041	32.9
2	9号窯跡	1	丸瓦	18.4+ 5.3+	5+	-	1.7	-	-	内面：2.5Y 6/2 凸面：10YR 6/2	内面：粘土細織→布目織、凸面：縄甲子→ロクロナデ、工具割突織 周縁：雲面・鉄燻面ヘラケズリ	内面：ヘラ骨金「ト」	F 042	33.1 105
3	9号窯跡	3	平瓦	19.4+	15.8+	-	1.8	-	-	内面：10YR 6/1 凸面：2.5YR 4/1	内面：布目織、凸面：縄甲子 周縁：雲面・鉄燻面ヘラケズリ	内面：押印㊦	G-144	33.2 99
4	9号窯跡	1	平瓦	9.0+	8.8+	-	2.2	-	-	内面：2.5YR 5/2 凸面：7.5YR 6/2	内面：布目織 凸面：縄甲子	内面：押印㊦	G 145	33.3 99
5	9号窯跡	1	平瓦	10.2+	23.8	-	2.3	-	-	内面：10YR 6/2 凸面：10YR 6/2	内面：布目織、凸面：縄甲子、粘土付着 周縁：雲面・鉄燻面ヘラケズリ	内面：ヘラ骨無図不明	G-146	33.4 106

第106図 9号窯跡出土遺物

燃焼部に伴う構架材は、確認されなかった。

【前庭部】 焚口前面で確認した、長軸 1.1m、短軸 75cm、深さ 10cm、楕円形の土坑状の落ち込みである。燃焼部の堆積土と類似していること、位置関係から前庭部とした。

【堆積層】 大別 3層、細別 18層を確認した。大別 1層：流入堆積層。大別 2層：窯体崩落層。大別 3層：流入堆積層。C～E期の焼成部・燃焼部に広がる燃料残滓層。A・B期の焼成部・燃焼部に広がる燃料残滓層。

【灰原】 燃焼部・前庭部の堆積土と 1号灰原の堆積土が類似していること、相互の位置関係が近接していることから、1号灰原の一部が本窯跡の灰原であると考えられる。

【出土遺物】 丸瓦・平瓦及び、須恵器、土師器が出土している。総破片数は 102点であり、5点を図示した。大別 1層から丸瓦・平瓦・須恵器・土師器、大別 2層から丸瓦・平瓦・土師器・須恵器が出土している。床面直上からは、焼台として使用した丸瓦が出土している。

10号窯跡(SO10) (第107～109図・第6表)

【確認状況】 調査区西部の東側斜面、B-2、C-2・3グリッドに位置する。Ⅲ層上面で確認した。残存状態は良好とはいえないが、焼成部・燃焼部・前庭部を確認した。焼成部の奥壁側上部は、後の掘削により削平されている。他の遺構との重複関係は認められない。本窯跡と北側に隣接する 9号窯跡の窯体との間隔は 1.9mである。本窯跡はⅢ層を掘り込み、床面・壁面としている。壁面には、スサ入り粘土を貼っている。天井部は残存していない。前述した通り、7号窯跡から 10号窯跡にかけてⅢ層を主体とするにふい黄褐色を示す整地層が認められる。本窯跡では燃焼部南側、前庭部のほぼ全面に認められる。

【窯体構造】 半地下式無階無段の窯室である。

【規模】 前庭部を除いた全長 4.25m以上、幅 90cm、残存壁高 50cmである。

【中軸線の方向】 N-65°-W

【操業面数】 3面(A期：構築面、B期：4層上面、C期：2層上面)

【煙出部】 削平され、残存していない。

【焼成部】 長さは 3.05m以上、最大幅は 60cm、残存する壁高は 40cmである。床面には凹凸は認められず、17°の角度で傾斜する。側壁は、上部が開いて立ち上がる。焼台は、凸面を上にした丸瓦・平瓦を 3枚横位に並べ、1列としている。焼台の列は長さ 0.5mの間に 2列が確認されている。

床面・壁面の被熱状況は、下部では赤色化し、その他は灰白色硬化している。窯体周囲は、灰白色硬化、赤褐色化している。

焼成部に伴う構架材は、7ヶ所で検出した。構架材は、床面で 1ヶ所、北側壁外で 6ヶ所である。構架材は炭化し、直径は 1cm前後で、横断面は円形である。

【燃焼部】 長さは 1.2m、最大幅は 90cm、残存する壁高は 50cmで、平面形は不整形である。A期は構築面、B期はA期の堆積層(4層)上面、C期はB期の堆積層(2層)上面を床面としている。床面には凹凸は認められず、11°の角度で傾斜する。側壁の残存状況が悪く、詳細は不明であるが、南北両側壁は床面から垂直に立ち上がり、中位から上部で明瞭な屈曲を持たずに外傾気味に開くと考えられる。北側壁には平瓦の凹面を壁面に密着させ、垂直に立てている。

床面・壁面の被熱状況は灰白色硬化し、窯体周囲は灰白色硬化、赤褐色化している。

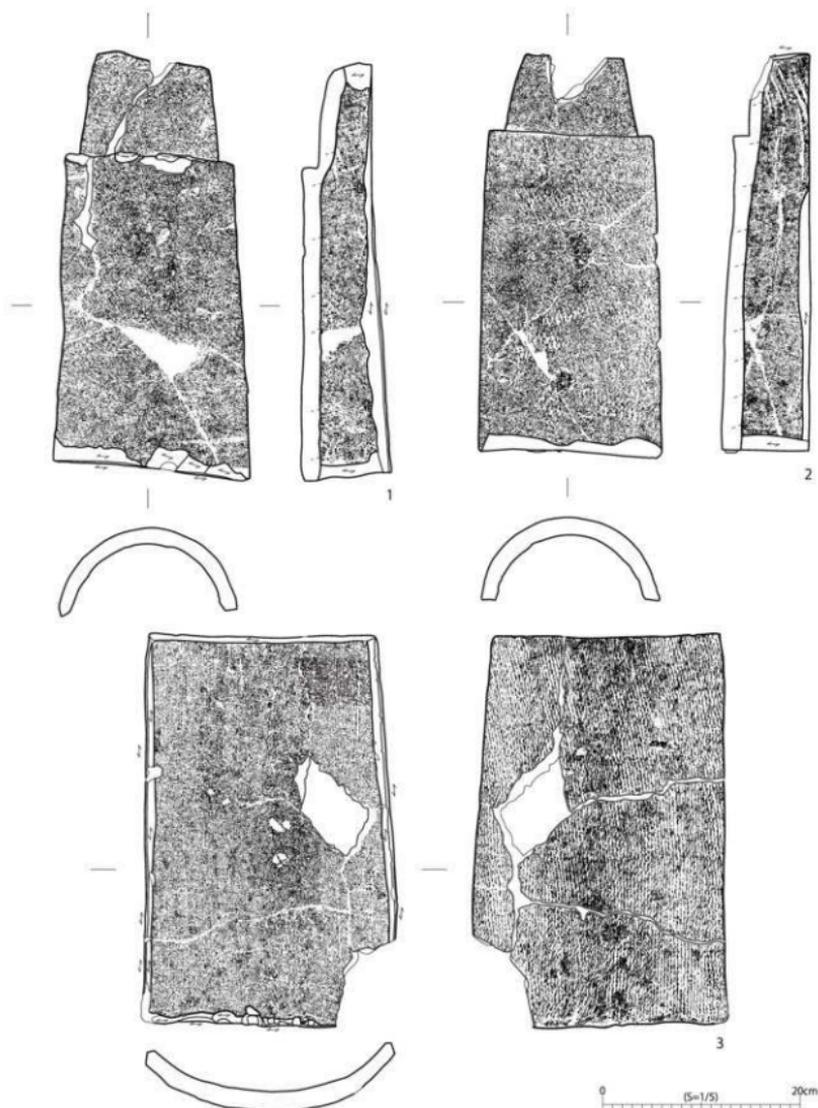
燃焼部に伴う構架材は、3ヶ所で検出した。構架材は、南側壁外で 1ヶ所、南側壁内で 2ヶ所である。構架材は炭化し、直径は 1cm前後で、横断面は円形である。

【前庭部】 焚口前面で確認した、長軸 1.4m、短軸 90cm、深さ 10cm、楕円形の土坑状の落ち込みである。



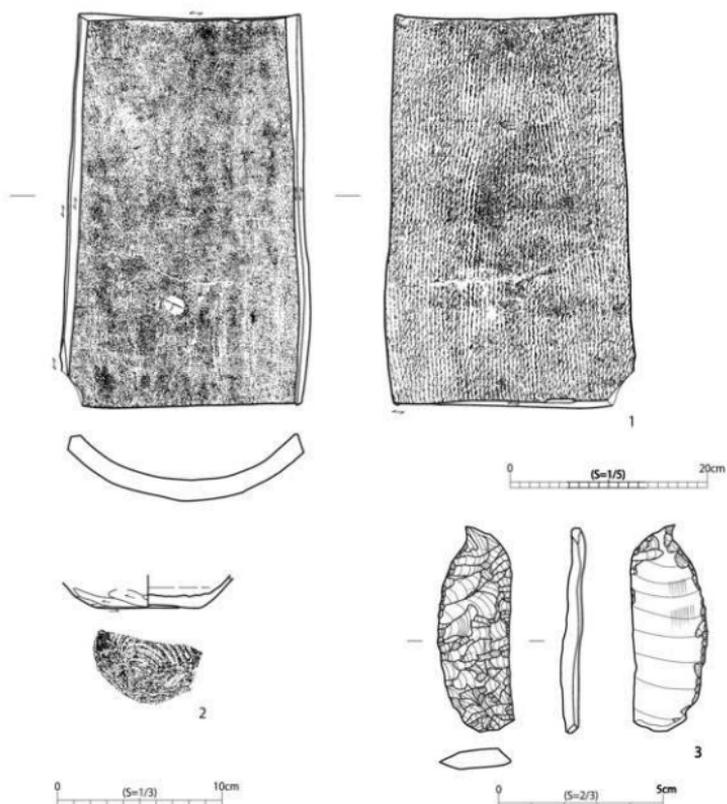
層位	土色	土性	特徴	層位	土色	土性	特徴
1	黒黒10YR3/1	粘土質シルト	燃料残滓層(大羽1層) 燃料の残滓、砂質シルト(灰濁)小ブ ロックを少量含む。炭土中ブロックを少量含む。礫を少量 含む。炭化物粒を散見含む。	4	濃い黄黒10YR4/3	シルト	燃料残滓層(大羽1層) 炭体の残滓。上部・下部にシルト 層に大ブロックを少量含む。炭土層を少量含む。炭化物粒 を少量含む。中層に砂質シルト(炭濁)を帯状に含む。
2	濃い黄黒10YR4/3	粘土質シルト	燃料残滓層(大羽1層) 炭体の残滓。炭土大ブロックを多量 含む。礫を少量含む。炭化物粒を散見含む。	5	灰黄黒10YR4/2	粘土質シルト	燃料残滓層(大羽1層) 炭体の残滓。炭化物粒を少量含む。 礫・炭土粒を散見含む。下部に粘土質シルト(濃い黄濁) を帯状に含む。
3	黒10YR2/1	粘土質シルト	燃料残滓層(大羽1層) 燃料の残滓。砂質シルト(濃い黄 濁)中ブロックを含む。礫を少量含む。炭化物粒を散見含む。 炭土粒を散見含む。	6	黒10YR2/1	粘土質シルト	燃料残滓層(大羽1層) 燃料の残滓。炭化物粒 炭化物中ブ ロックを多量含む。

第107図 10号窯跡平面図・土層断面図



番号	遺構名	部位	種類	最大径 (cm)	広端幅 (cm)	狭端幅 (cm)	厚さ (cm)	瓦当面長 (cm)	瓦当面厚さ (cm)	色調	成形・調整	備考	登録番号	写真掲載	
1	10号窯跡	壁残	丸瓦	44.0	20.0	16.9	1.7	-	-	凹面：10YR 5/1 凸面：10YR 6/1	凹面：粘土結晶→布目織 凸面：ヘラツズリ	凸面：焼印キ→ロクロナデ	F-043	33-5	
2	10号窯跡	壁残	丸瓦	41.2	17.9	16.2	1.9	-	-	凹面：5Y 6/1 凸面：10YR 6/2	凹面：粘土結晶→布目織 凸面：ヘラツズリ	凸面：焼印キ→ロクロナデ 磨痕	F-044	33-6	
3	10号窯跡	2	平瓦	40.3	18.5	22.8	2.1	-	-	凹面：10YR 5/1 凸面：2.5Y 6/1	凹面：布目織→一部ナデ 凸面：ヘラツズリ→広端面粗瓦	凸面：焼印キ	凹面：押印◎	G-147	33-7 90

第108図 10号窯跡出土遺物(1)



番号	遺構名	層位	種別	最大長 (cm)	広さ幅 (cm)	深さ幅 (cm)	厚さ (cm)	瓦当面 長さ(cm)	瓦当面 厚さ(cm)	色調	成形・調整	備考	登録 番号	写真 図版	
1	10号窯跡	2	平瓦	40.3	22.2 (24.7)	22.3	2.2	-	-	内面：5YR 6/1 凸面：5YR 6/1	内面：布目織—一部ナデ 凸面：縄目織	西面：ヘラズリ→狭幅面行直	西面：押田 (D)	G-148	34-1 100
番号	遺構名	層位	種別	口径 長さ(cm)	底径 幅(cm)	高さ 厚さ(cm)	底径 幅(cm)	高さ 厚さ(cm)	色調	成形・調整	備考	登録 番号	写真 図版		
2	10号窯跡	4	須恵器 灰	-	6.1	(2.0)	-	-	外面：10YR7/2 内面：10YR7/2	外面：ロケロナデ→下半手特ヘラズリ 底面：細幅糸切り→増幅手特ヘラズリ		E-005	33-B		
3	10号窯跡	6	神戶石窯 心土	6.3	2.3	0.6	9.0	-	-	石材：経貫瓦割		K-002	33-C		

第109図 10号窯跡出土遺物(2)

燃焼部の層位と類似していること、位置関係が近接していることから前庭部とした。

【堆積層】大別1層、細別6層を確認した。大別1層：A～C期の焼成部・燃焼部に広がる燃料残滓層。

【灰原】燃焼部・前庭部の堆積土と1号灰原の堆積土が類似していること、相互の位置関係が近接していることから、1号灰原の一部が本窯跡の灰原であると考えられる。

【出土遺物】丸瓦・平瓦及び、須恵器、土師器、石匙が出土している。総破片数は78点で、6点を図示した。大別1層から丸瓦・平瓦・須恵器・土師器・石匙が出土している。床面直上から焼台が出土している。

灰 原

1号灰原 (SQ1) (第110～113図)

調査区の西側斜面、B・C-3・4グリッドに位置する。北側は、調査区外へ延びる。堆積土は、13・15号土坑の一部と、1号溝・14号土坑の全面を覆う。範囲は、長軸14.2m以上、短軸7.0mである。平面形は不整形である。断面観察より、新期・古期の2時期に分けられる。

堆積土は大別5層、細別13層を確認した。堆積層から新期・古期の燃料残滓層が認められる。大別1層：周囲からの流入堆積層。大別2層：新期の燃料残滓層。大別3層：新期・古期間における周囲からの流入堆積層。大別4層：古期の燃料残滓層上層。大別5層：古期の燃料残滓層下層。層厚は、新期が40～70cm、古期が10～50cmである。

遺物は、軒丸瓦・丸瓦・軒平瓦・平瓦、硯・須恵器・土師器が出土している。総破片数は1051点で、13点を図示した。大別2層から軒丸瓦・丸瓦・平瓦、大別4層から軒丸瓦・丸瓦・軒平瓦・平瓦、硯・須恵器・土師器、大別5層から丸瓦が出土している。大別1・3層から遺物は出土していない。

溝

1号溝 (SD1) (第115図・第7表)

調査区の北側斜面、B・C-4グリッドに位置する。北側から南方向に、直線的に延びる。1号灰原の直下で確認した。規模は長さ2.70m、幅40cm、深さ5cmである。底面には凹凸が見られず、ほぼ平坦である。壁面は、底面から急角度で立ち上がる。断面形は「U」字形である。堆積土は、灰黄褐色粘土質シルトの単一層で、流入堆積層である。

遺物は、堆積土から丸瓦・平瓦が出土している。総破片数は4点である。抽出・図示できるものはない。

土 坑

1号土坑 (SK1) (第115図・第8表)

調査区の北側斜面、C-5グリッドに位置する。他の遺構との重複関係は認められない。平面形は、直径1.15mの円形である。深さは25cmである。底面は凹凸があり、斜面と同じ方向に傾斜している。壁面は、底面から緩やかに立ち上がる。堆積土は2層に分けられ、ともに流入堆積層である。

遺物は出土していない。

4号土坑 (SK4) (第115図・第8表)

調査区の東側斜面、E-8グリッドに位置する。他の遺構との重複関係は認められない。平面形は、長軸70cm、短軸50cmの楕円形である。深さは35cmである。底面は平坦である。壁面は、底面から急角度で立ち上がる。堆積土は2層に分けられ、ともに流入堆積層である。

遺物は、1・2層から平瓦が出土している。総破片数は3点で、図示できるものはない。

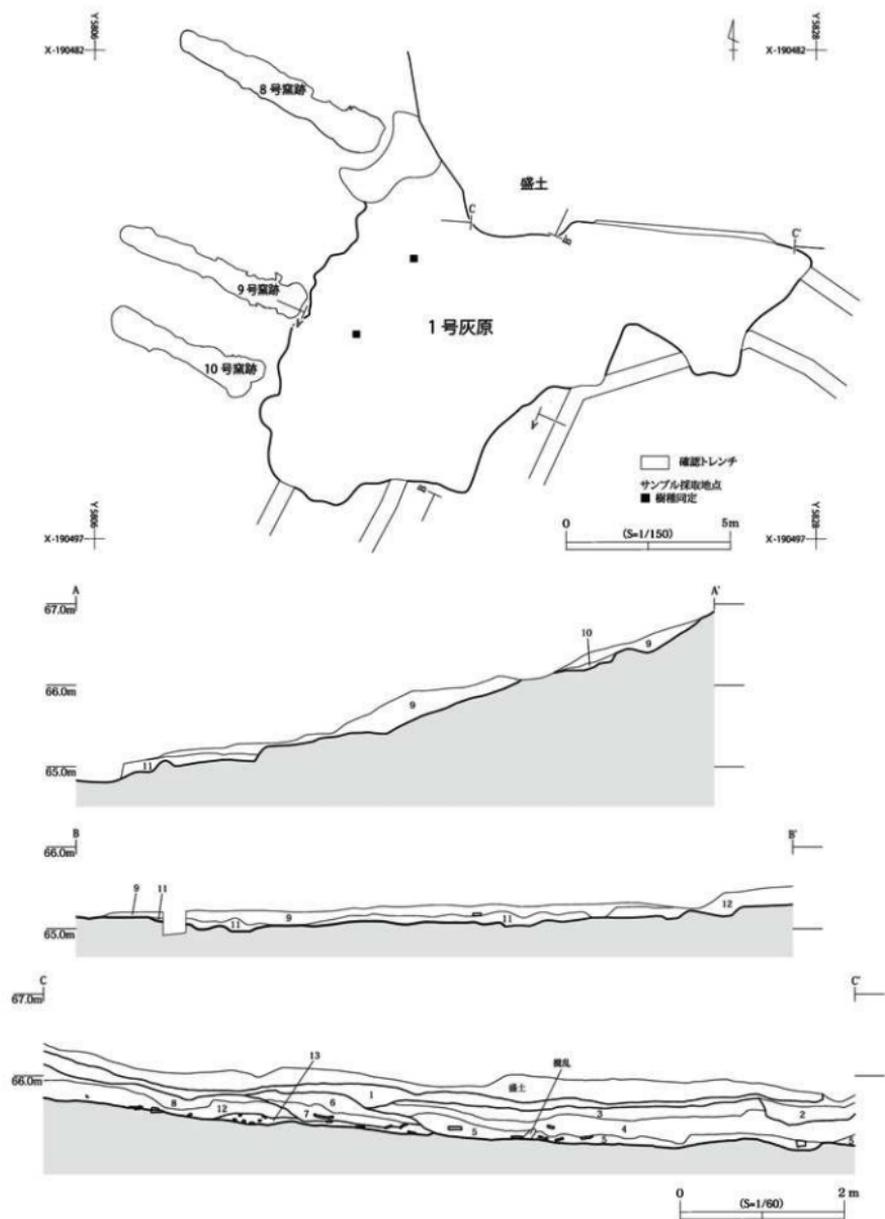
6号土坑 (SK6) (第115図・第8表)

調査区の東側斜面、H-7グリッドに位置する。他の遺構との重複関係は認められない。平面形は、長軸1.0m、短軸60cmの不整形である。深さは30cmである。底面は凹凸があり、斜面と同じ方向に緩やかに傾斜している。壁面は、底面から緩やかに立ち上がる。堆積土は暗褐色砂質シルトの単一層であり、流入堆積層である。

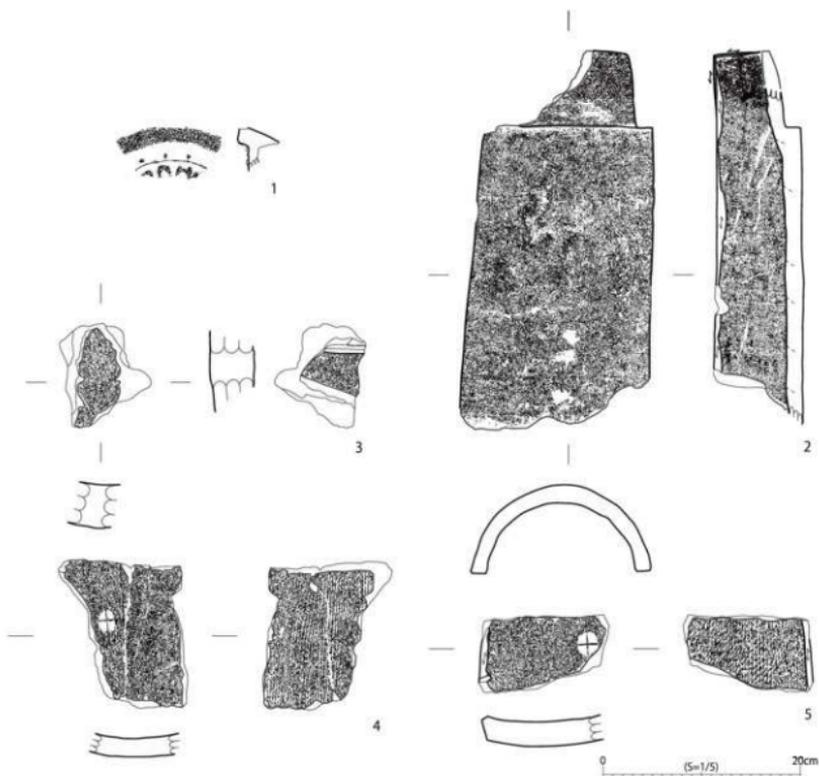
遺物は、堆積土から平瓦が出土している。総破片数は3点で、図示できるものはない。

8号土坑 (SK8) (第115図・第8表)

調査区の東側斜面、G-6グリッドに位置する。他の遺構との重複関係は認められない。平面形は、長軸95cm、短軸70cmの楕円形である。深さは15cmである。底面はほぼ平坦である。壁面は、底面から緩やかに立ち上がる。



第110図 1号灰原平面図・土層断面図

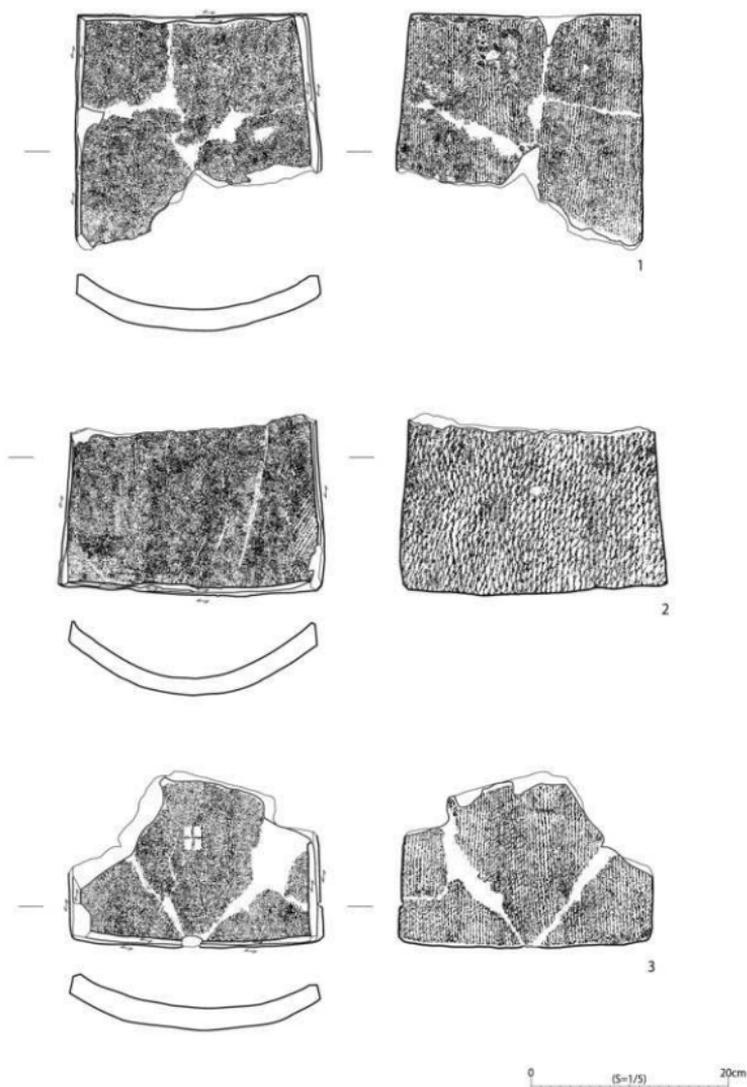


番号	遺物名 フリット	層位	種類	最大長 (cm)	広さ幅 (cm)	狭幅幅 (cm)	厚さ (cm)	瓦当面 長(cm)	瓦当面 厚さ(cm)	色調	成形・調整 備考	登録 番号	写真 図版
1	1号灰原	4	軒瓦瓦	4.2	-	-	-	4.3	2.0	瓦当面表: 2.5Y 5/1 凸面: 2.5Y 6/1	瓦当面: 泡 凸面: ヘラケズリ→ナデ	F045	34-2
2	1号灰原	9	丸瓦	38.7 33.6	11.8	15.8 (17.0 至4.2)	1.9 1.7	-	-	凹面: N 5/0 凸面: N 5/0	凹面: 粘土結晶→有目織 凸面: 刷印キ→ロコナデ 周縁: 刷印キ→刷印面ヘラケズリ	F046	34-3
3	1号灰原	9	軒平瓦	10.0	8.5	-	4.4	-	-	側面: 7.5Y 4/2 凹面: 2.0Y 5/1	瓦当面: 欠損 調整: ナデ→ヘラケズリ後削	G-149	34-3
4	1号灰原	9	平瓦	15.1	12.3	-	2.0	-	-	凹面: 10YR 6/1 凸面: 10YR 6/1	凹面: 有目織→ナデ 凸面: 刷印キ	凹面: 押印㊦	G-150 34-4 99
5	1号灰原	5	平瓦	7.9	12.4	-	1.5	-	-	凹面: 10YR 5/1 凸面: 10YR 5/1	凹面: 有目織→ナデ ナデ 凸面: 刷印キ 周縁: 刷印面ヘラケズリ	凹面: 押印㊦	G-151 34-5 99

第111図 1号灰原出土遺物(1)

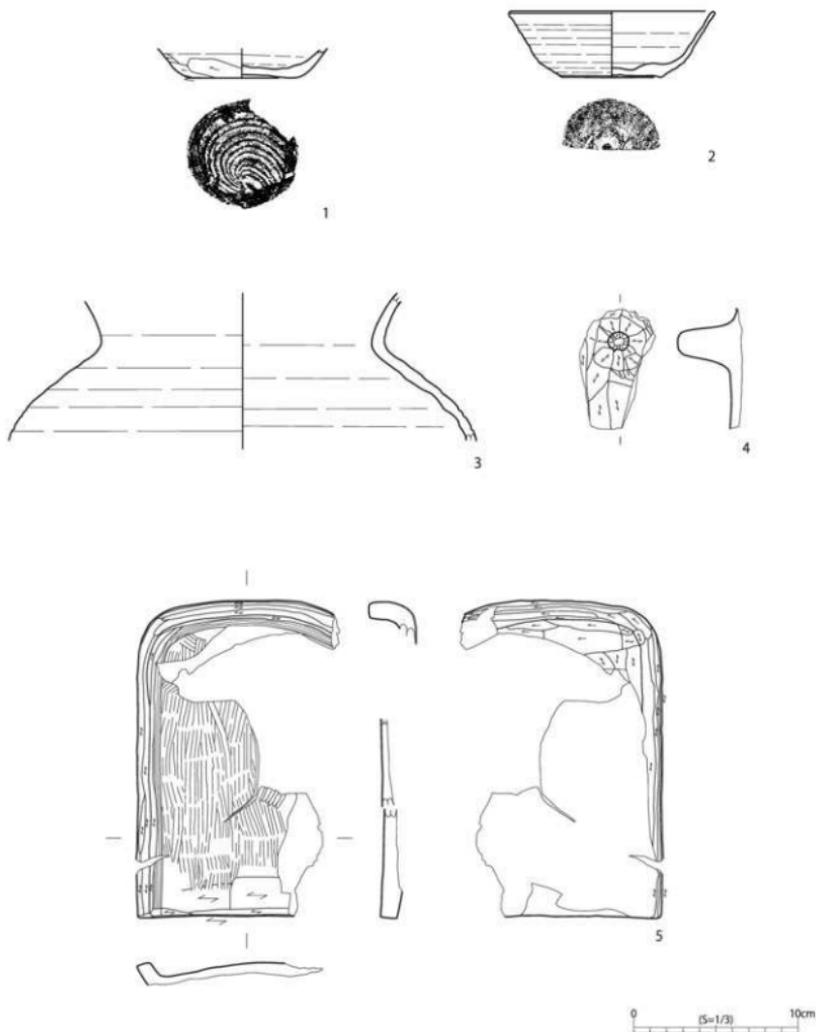
1号灰原土層観察表

層位	土色	土性	特徴	層位	土色	土性	特徴
1	黒黒10YR3/2	粘土質シルト	炭入層(炭層(大宮1層) 炭層上層 現代の整地以前の表土)	8	黒黒10YR3/2	粘土質シルト	燃料残滓層(大宮4層) 炭化植物を微量含む。
2	黒10YR2/2	粘態シルト	炭入層(炭層(大宮1層) 炭化植物を微量含む。	9	黒黒10YR2/2	粘土質シルト	燃料残滓層(大宮4層) 炭化植物を含む。粘土質シルトを少量含む。粘土質シルトを少量含む。炭入層(炭層(大宮2層) 炭化植物を微量含む。
3	黒黒10YR3/1	粘土質シルト	燃料残滓層(大宮2層) 炭化植物・糠を微量含む。	10	黒7.5YR4/0	砂質シルト	燃料残滓層(大宮4層) 粘土大ブロックを極多量含む。炭化植物を微量含む。
4	黒10YR2/1	粘土質シルト	燃料残滓層(大宮2層) 炭化植物を微量含む。	11	黒黒10YR3/3	粘土質シルト	燃料残滓層(大宮4層) 粘土(炭層)大ブロックを含む。
5	黒10YR2/1	粘土質シルト	燃料残滓層(大宮2層) 炭化植物・粘土を含む。糠を少量含む。	12	黒黒10YR3/1	粘土質シルト	燃料残滓層(大宮4層) 粘土(炭層)を含む。中部→下部に砂質シルトを含む。炭質ブロックを少量含む。炭化植物を少量含む。
6	黒黒黒10YR4/2	粘土質シルト	炭入層(炭層(大宮3層) 炭化植物を微量含む。	13	黒黒10YR3/2	粘土質シルト	燃料残滓層(大宮5層) 炭化植物を少量含む。
7	黒黒10YR3/2	粘土質シルト	炭入層(炭層(大宮3層) 炭化植物を微量含む。				



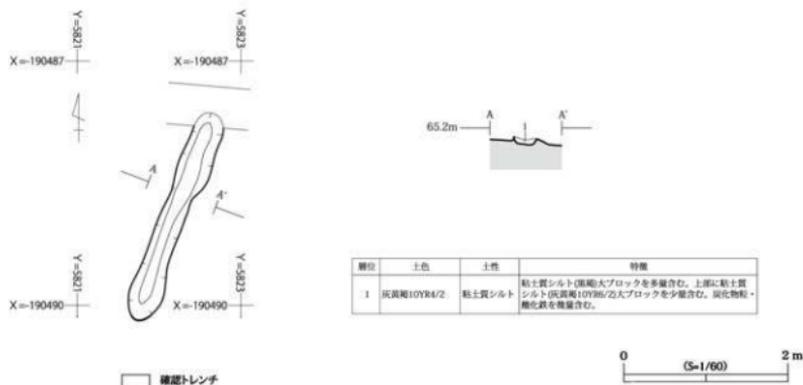
番号	遺物名 グリップ	部位	種類	最大長 (cm)	最大幅 (cm)	挿入幅 (cm)	厚さ (cm)	瓦当面 長(cm)	瓦当面 厚さ(cm)	色澤	成形・調査 備考	登録 番号	写真 図版
1	1号灰原	9	平瓦	24.1+	-	23.2	2.2	-	-	内面：N 5/0 凸面：N 4/0 周縁：側面・裏面面ヘラケズリ	内面：布目織→一部子子 凸面：縞甲子→一部子子	G-152	34-7
2	1号灰原	9	平瓦	18.7+	26.2	-	2.1	-	-	内面：10YR 4/1 凸面：10YR 5/2 周縁：側面・裏面面ヘラケズリ	内面：糸切り織→布目織 凸面：縞甲子	G-153	34-8
3	1号灰原	9	平瓦	18.1+	25.6	-	2.5	-	-	内面：2.5Y 6/1 凸面：2.5Y 6/1 周縁：側面・裏面面ヘラケズリ	内面：布目織 凸面：縞甲子→一部子子 周縁：側面・裏面面ヘラケズリ	G-154	35-1 99

第112図 1号灰原出土遺物(2)



番号	遺構名 グリッド	層位	種類 遺形	口径 径(cm)	底径 幅(cm)	高さ 厚(cm)	重さ (g)	色調	成形・調整 備考	登録 番号	写真 掲載
1	1号灰原	9	灰土器 鉢	-	6.6	(2.0)	-	外底：2.5YR5/1 内底：7.5YR5/1	外底：ロクロナデ→ド手締ヘラケズリ 底面：切り返し不明→ド手締ヘラケズリ	E-007	34-10
2	1号灰原	9	灰土器 鉢	(10.3)	6.0	4.1	-	外底：NS/0 内底：NS/0	外底：ロクロナデ 底面：切り返し不明→ド手締ヘラケズリ 内底：ロクロナデ	E-008	34-11
3	1号灰原	9	灰土器 壺	-	-	残存高 9.6	-	外底：10YR5/1 内底：10YR5/1	外底：平打タタキ→ロクロナデ 内底：ロクロナデ	E-009	34-12
4	1号灰原	9	灰土器 壺	(7.3)	(4.6)	(3.9)	-	裏面：2.5Y/1 裏底：2.5Y/1	裏面：文割 裏底：ヘラケズリ 裏底：ヘラケズリ	E-010	34-13
5	1号灰原	9	灰土器 壺	20.0	(12.4)	(2.8)	-	裏面：10YR5/1 裏底：10YR5/1	裏面：ヘラケズリ→ナデ 裏底：ヘラケズリ	E-006	34-9

第113図 1号灰原出土遺物(3)



第114図 1号溝平面図・土層断面図

堆積土にはぶい黄褐色砂質シルトの単一層で、流入堆積層である。

遺物は、出土していない。

9号土坑 (SK9) (第115図・第8表)

調査区の東側斜面、G-6グリッドに位置する。他の遺構との重複関係は認められない。西側は、削平のため残存していない。平面形は、長軸1.30m、短軸55cmの不整形である。深さは25cmである。底面はほぼ平坦である。壁面は、底面から緩やかに立ち上がる。堆積土にはぶい黄褐色砂質シルトの単一層で、流入堆積層である。

遺物は、出土していない。

10号土坑 (SK10) (第115図・第8表)

調査区の東側斜面、H・I-7グリッドに位置する。他の遺構との重複関係は認められない。平面形は、長軸50cm、短軸45cmの楕円形である。深さは20cmである。底面には凹凸が見られる。壁面は、底面から急角度で立ち上がる。堆積土は明褐色砂質シルトの単一層で、炭化物を極めて多量に含む。人為的な堆積の可能性が考えられる。

遺物は、出土していない。

11号土坑 (SK11) (第116・117図・第8表)

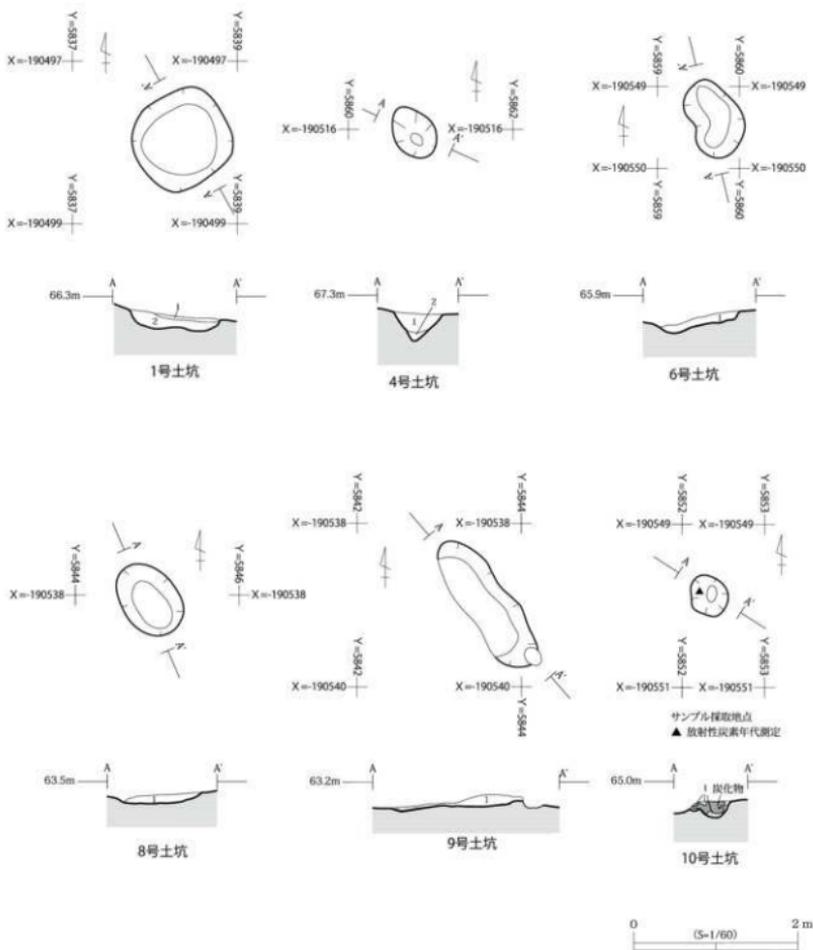
調査区の東側斜面、H-7グリッドに位置する。1号竈跡と重複しており、本遺構が新しい。平面形は、長軸2.40m、短軸1.50mの楕円形である。深さは65cmである。底面は凹凸が見られる。壁面は、底面から急角度で立ち上がる。堆積土は大別4層、細別7層を確認した。大別1層：流入堆積層。大別2層：焼土。大別3層：流入堆積層。大別4層：焼土である。

遺物は、大別1層から丸瓦・平瓦が出土している。総破片数は214点で、4点を図示している。

12号土坑 (SK12) (第116図・第8表)

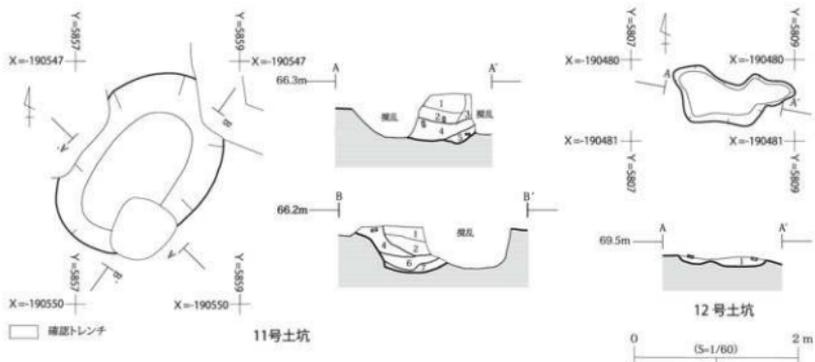
調査区の西側斜面、B-2グリッドに位置する。17号土坑と重複しており、本遺構が新しい。平面形は、長軸1.55m、短軸50cmの不整形である。深さは15cmである。底面は凹凸が見られる。壁面は、底面から緩やかに立ち上がる。堆積土にはぶい黄褐色砂質シルトの単一層で、焼土を多量に含む。

遺物は、堆積土から平瓦及び土師器が出土している。総破片数は12点で、図示していない。



1号土坑			8号土坑				
層位	土色	土性	特徴	層位	土色	土性	特徴
1	黒褐色10YR3/2	砂質シルト	砂質シルトに灰・炭屑を含む。礫を少量含む。炭化物粒を微量含む。	1	灰褐色10YR5/4	砂質シルト	礫を含む。
2	灰褐色10YR4/3	シルト質粘土	中～下部に砂質シルトに灰・炭屑・中ブロックを含む。				
4号土坑			9号土坑				
層位	土色	土性	特徴	層位	土色	土性	特徴
1	灰褐色10YR5/4	砂質シルト	砂質シルト(間)小・中ブロックを多量含む。礫を微量含む。	1	灰褐色10YR5/4	砂質シルト	礫を少量含む。
2	灰褐色10YR4/3	粘土質シルト	炭化物粒を微量含む。				
6号土坑			10号土坑				
層位	土色	土性	特徴	層位	土色	土性	特徴
1	黒褐色10YR3/3	砂質シルト	下部に砂質シルト(灰)質粘土を導状に含む。礫を少量含む。	1	明褐色10YR6/6	砂質シルト	炭化物・大・極大ブロックを多量含む。

第115図 1・4・6・8～10号土坑平面図・土層断面図



11号土坑

層位	土色	土性	特徴	層位	土色	土性	特徴
1	黄10YR4/4	粘土質シルト	流入堆積層(大別1層) 礫を少量含む。	5	黄7.5YR4/3	粘土質シルト	流入堆積層(大別3層) 焼土小ブロック・炭化物粒を少量含む。
2	にぶい・黄褐10YR5/4	粘土質シルト	流入堆積層(大別1層) 焼土中ブロックを含む。礫を少量含む。	6	にぶい・黄褐10YR5/4	粘土質シルト	流入堆積層(大別3層) 礫を含む。焼土小ブロックを少量含む。
3	黄褐10YR5/6	粘土質シルト	流入堆積層(大別1層) 粘土にぶい・黄褐中ブロックを多量含む。礫を少量含む。	7	にぶい・黄褐10YR4/4	粘土質シルト	焼土層(大別4層) 粘土質シルトにぶい・黄褐・灰黄褐中ブロックを含む。
4	にぶい・赤褐5YR4/4	粘土質シルト	焼土層(大別2層) 焼土小ブロック・礫を多量含む。				

12号土坑

層位	土色	土性	特徴
1層	にぶい・黄褐10YR5/4	シルト	焼土大ブロックを多量含む。焼土中ブロックを少量含む。炭化物粒・礫を微量含む。

第116図 11・12号土坑平面図・土層断面図

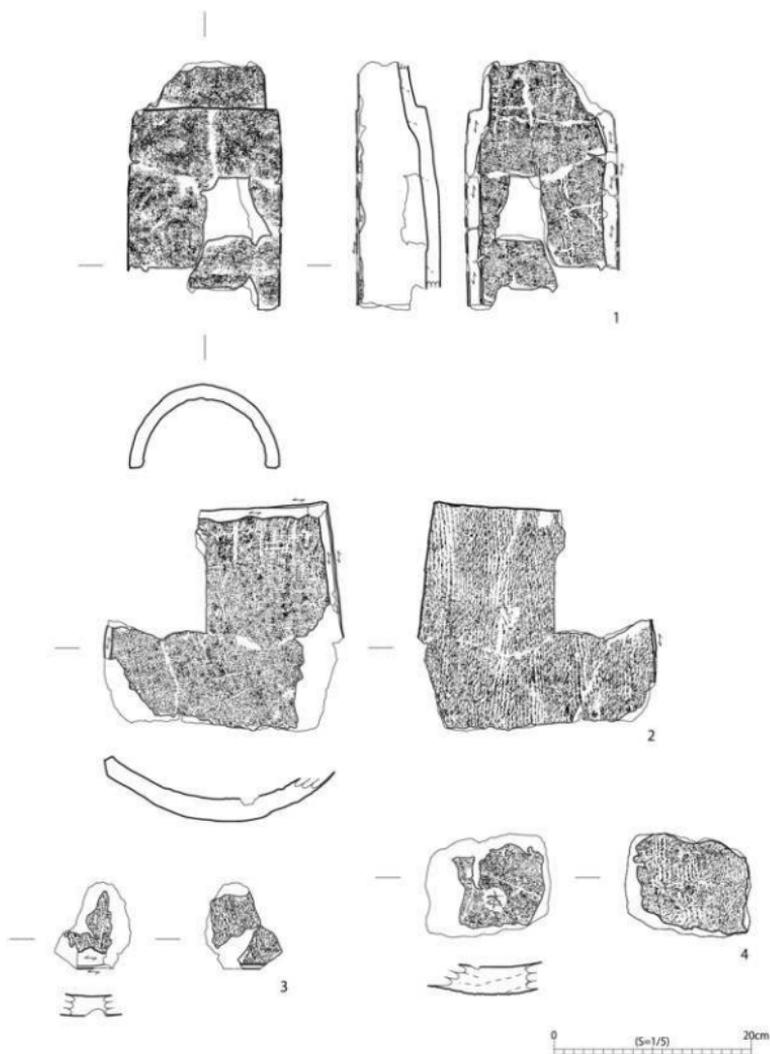
13号土坑 (SK13) (第118～121図・第8表)

調査区の西側斜面、B-2・3グリッドに位置する。1号灰原と重複関係にあり、灰原の下面で確認した。平面形は、長軸4.15m、短軸2.75mの楕円形である。深さは1.05mである。底面は斜面と同じ方向に緩やかに傾斜する。壁面は、底面から急角度で立ち上がる。東壁と西壁の外側には、それぞれ溝が付設されている。東側の溝は、長さ1.30m、幅20cm、深さ20cmで、西側の溝は長さ2.60m、幅0.30m、深さ0.15mである。底面には、直径40cm、深さ5cmのピットがあり、直径10cmの柱痕跡が認められる。堆積土は大別5層、細別9層に分けられる。大別1～3層は流入堆積層で、大別2層中には灰白色火山灰が極めて多量に混入する。大別4層は炭化物層で、極めて多量の遺物を含む。大別5層は流入堆積層で、炭化物粒を含んでいる。

遺物は細別1～9層及び東・西側の溝から、丸瓦・平瓦及び須恵器・土師器・土師器が出土している。総破片数は1293点で、11点を図示した。

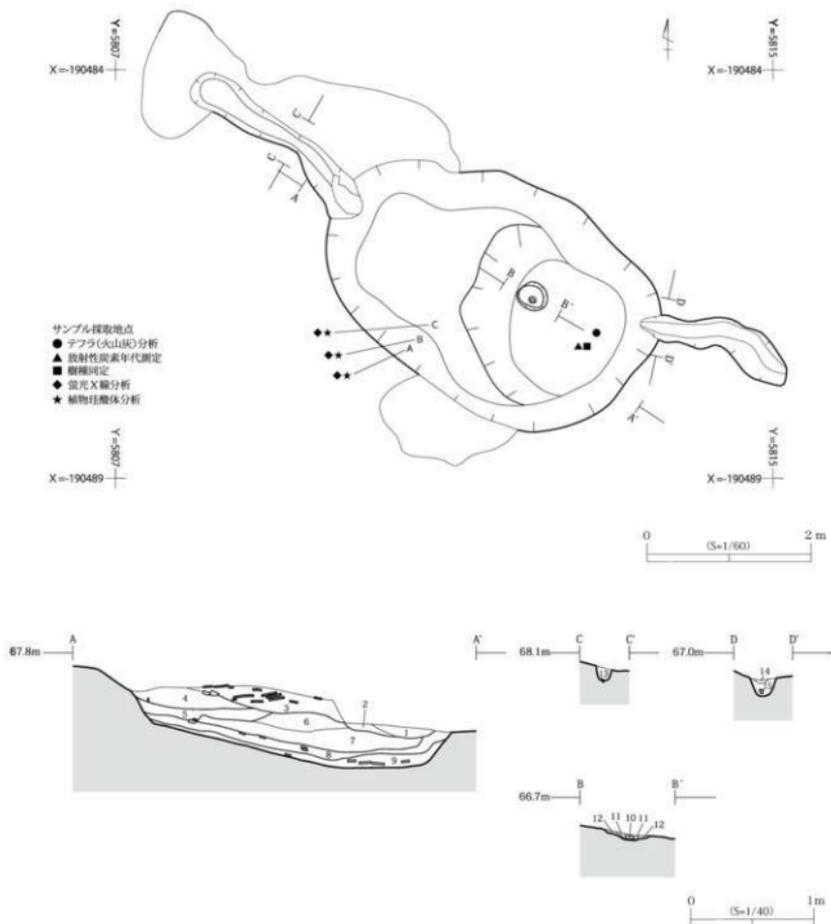
14号土坑 (SK14) (第122～124図・第8表)

調査区の西側斜面、C-3グリッドに位置する。1号灰原と重複している。平面形は、楕円形と楕円形が結合したような形である。2基の土坑が重複していることも考慮したが、灰原の堆積土によって完全に覆われている状況が同様であること、平面上では切り合い関係を確認することができなかったこと、底面直上の堆積土(6層)が同一であることから、単独の遺構と判断した。規模は長軸5.35m、短軸2.0m、深さは1.0mである。北側の楕円形部分は長軸2.70m、短軸2.00m、深さは70cmで、南側の楕円形部分は長軸2.80m、短軸2.65m、深さは1.0mである。底面に凹凸は認められず、斜面と同じ方向に緩やかに傾斜している。壁面は、底面から急角度で立ち上がる。堆積土は6層に分けられ、すべて流入堆積層である。1層：Ⅲ層ブロックを極多量、火山灰ブロックをやや多量に含む黒褐色砂質シルト。2・3層：黒色砂質シルト・暗褐色の砂質シルト。4層：炭化物層。5層：暗灰黄色の粘土質土。6層：炭化物層。



番号	遺物名 フリッド	部位	形状	最大長 (cm)	広さ幅 (cm)	狭さ幅 (cm)	厚さ (cm)	瓦当面 長さ(cm)	瓦当面 厚さ(cm)	色調	成形・調整 備考	登録 番号	写真 図版
1	11号土坑	1	丸瓦	23.9- 54.8	- 512.4	13.6 (14.6) %	1.6 51.2	-	-	凹面：NS/O 凸面：10YR5/1	凹面：粘土細曲→布目織 凸面：縄目キ→クワナテ 周縁：縹面ヘラケズリ 凹面：ヘラ書き「井」	F-047	35-2 101
2	11号土坑	1	平瓦	23.4	-	12.8 (22.5)	2.3	-	-	凹面：2.5Y 5/1 凸面：NS/O	凹面：布目織 凸面：縄目キ 周縁：縹面・黄緑面ヘラケズリ 凹面：ヘラ書き「井」	G-155	35-3 101
3	11号土坑	1	平瓦	8.7	1.3	-	2.1	-	-	凹面：2.5Y 4/1 凸面：2.5Y5/2	凹面：布目織 凸面：縄目キ 周縁：広瀬面ヘラケズリ 凹面：小口付近ヘラ書き横線文	G-156	35-4
4	11号土坑	1	平瓦	10.7	10.6	-	2.9	-	-	凹面：10YR 5/1 凸面：5YR5/1	凹面：布目織→一部ナテ 凸面：縄目キ 断面：丸たら瓦貼土貼り合付織 凹面：押印印 ヘラ書き「×」	G-157	35-5 99

第117図 11号土坑出土遺物



層位	土色	土性	特徴	層位	土色	土性	特徴
1	灰~黄褐色10YR6/4	粘土質シルト	流入堆積層(大別1期) 炭化物粒・粘土を豊富含む。粘土質シルト(前期)を準底に含む。	9	灰黄褐色10YR6/2	粘土質シルト	流入堆積層(大別3期) 酸化鉄を豊富含む。炭化物粒を含む。
2	黒黄10YR3/1	粘土質シルト	流入堆積層(大別1期) 焼土粒・炭化物粒を少量含む。粘土質シルトに灰~黄褐色小ブロックを豊富含む。	10	黒黄10YR4/1	粘土質シルト	ビツト材材腐砕 砂質シルトに灰~黄褐色小ブロックを少量含む。焼土土質ブロックを豊富含む。
3	黒黄10YR3/1	粘土質シルト	流入堆積層(大別1期) 上部に砂質シルトに灰~黄褐色大ブロックを少量含む。焼土粒を豊富含む。炭化物粒を極微量含む。	11	黒黄10YR5/1	粘土質シルト	ビツト柱腐砕 粘土質シルト(灰黄褐色)小ブロックを豊富含む。炭化物粒を含む。
4	黒10YR2/1	粘土質シルト	流入堆積層(大別1期) シルトに灰~黄褐色大ブロックを豊富含む。炭化物粒を豊富含む。焼土粒を極微量含む。	12	浅黄2.5YR7/4	粘土質シルト	ビツト層の方型土 粘土質シルト(浅黄褐色)大ブロックを豊富含む。一部はグライ化する。酸化鉄を豊富含む。
5	黒黄10YR4/1	粘土質シルト	流入堆積層(大別1期) 灰白色火山灰に灰~黄褐色大ブロックを豊富含む。炭化物粒を豊富含む。焼土粒を極微量含む。	13	灰~黄褐色10YR6/4	砂質シルト	流入堆積層 砂質シルト(浅黄褐色)小ブロック・炭化物粒・酸化鉄を豊富含む。
6	灰~黄褐色10YR6/3	粘土質シルト	流入堆積層(大別1期) シルトに灰~黄褐色中ブロックを含む。砂質シルトに灰~黄褐色10YR5/4中ブロックを含む。炭化物粒を少量含む。	14	灰~黄褐色10YR7/3	粘土	流入堆積層 炭化物粒を豊富含む。粘土質シルト(前期)中ブロックを少量含む。
7	灰黄褐色10YR4/2	粘土質シルト	流入堆積層(大別1期) 砂質シルトに灰~黄褐色10YR5/4中ブロック・炭化物粒・焼土粒を豊富含む。	15	灰黄褐色10YR5/2	シルト質砂	流入堆積層 炭化物粒を豊富含む。シルト質砂(灰~黄褐色)中ブロックを少量含む。酸化鉄を豊富含む。
8	黒10YR2/1	粘土質シルト	燃料高炉前(大別2期) 炭化物粒 粘土質シルトに灰~黄褐色中ブロックを含む。炭化物粒・焼土粒を豊富含む。				

第118図 13号土坑平面図・土層断面図



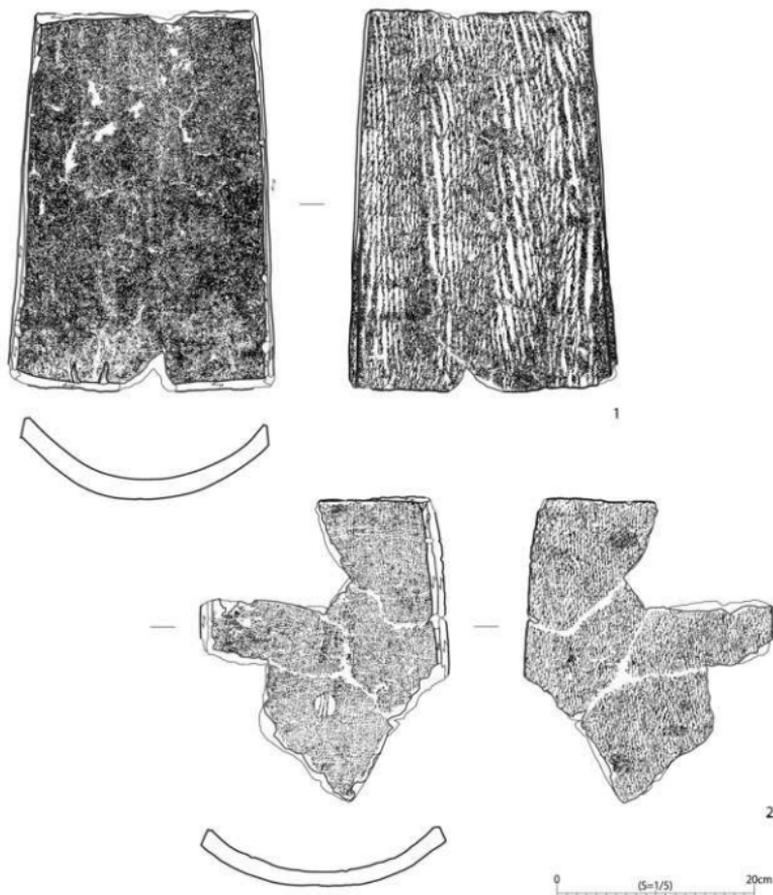
番号	遺物名 フリット	層位	種類	最大径 (cm)	広軸幅 (cm)	狭軸幅 (cm)	厚さ (cm)	瓦当面 長(cm)	瓦当面 厚さ(cm)	色調	形状・調整 備考	登録 番号	写真 図説
1	13号土坑	8	丸瓦	25.7 至72	17.1 至14.6	1.9 至2.0	-	-	西面：84/0 凸面：84/0	西面：新土器面→布目織、凸面：縞甲子→ロクロナダ 織物	F-048	35-6	
2	13号土坑	西側 溝北縁	平瓦	40.8	6.9	8.3	2.4	-	西面：N5/0 凸面：10YR5/1	西面：布目織、凸面：縞甲子 西縁：ヘラズリ→注産	西面：ヘラズリ「カ」	G-108	35-7 105

第119図 13号土坑出土遺物(1)

遺物は、1・2・4・6層から軒丸瓦・丸瓦・平瓦及び須恵器・土師器が出土している。総破片数は407点で、8点を図示した。

15号土坑 (SK15) (第125～127図・第8表)

調査区の北側斜面、C-4グリッドに位置する。北側で1号灰原と接しているが、他の遺構との重複関係は認められない。平面形は、長軸5.0m、短軸1.65mの中央が括れた長楕円形である。深さは45cmである。底面は、西から東に緩やかに傾斜する。壁面は、底面から緩やかに立ち上がる。堆積土は2層に分けられ、ともに流入堆積層である。1層：灰白色火山灰層。2層：炭化物ブロックを含む。



番号	遺物名 グリッド	層位	種別	最大長 [cm]	最大幅 [cm]	最大厚 [cm]	最大厚 [cm]	瓦当面 厚さ[cm]	瓦当面 厚さ[cm]	色調	成形・調整 備考	登録 番号	写真 掲載	
1	13号土坑	8	平瓦	39.0	22.8 (27.4)	22.6	2.2	-	-	凹面：10YR6/2 凸面：10YR4/1	凹面：糸切り歯→布目歯→一帯ナデ 凸面：鑿りき 溝線：ヘラケズリ→一帯ナデ→鋸歯・広端部注線	凹面付瓦葺	G-159	35-8
2	13号土坑	1	平瓦	31.1+	-	10.8 (23.3)	1.8	-	-	凹面：NS/O 凸面：NS/O	凹面：布目歯 凸面：鑿りき 溝線：鋸歯・鉄端部ヘラケズリ	凹面	G-160	36-1 100

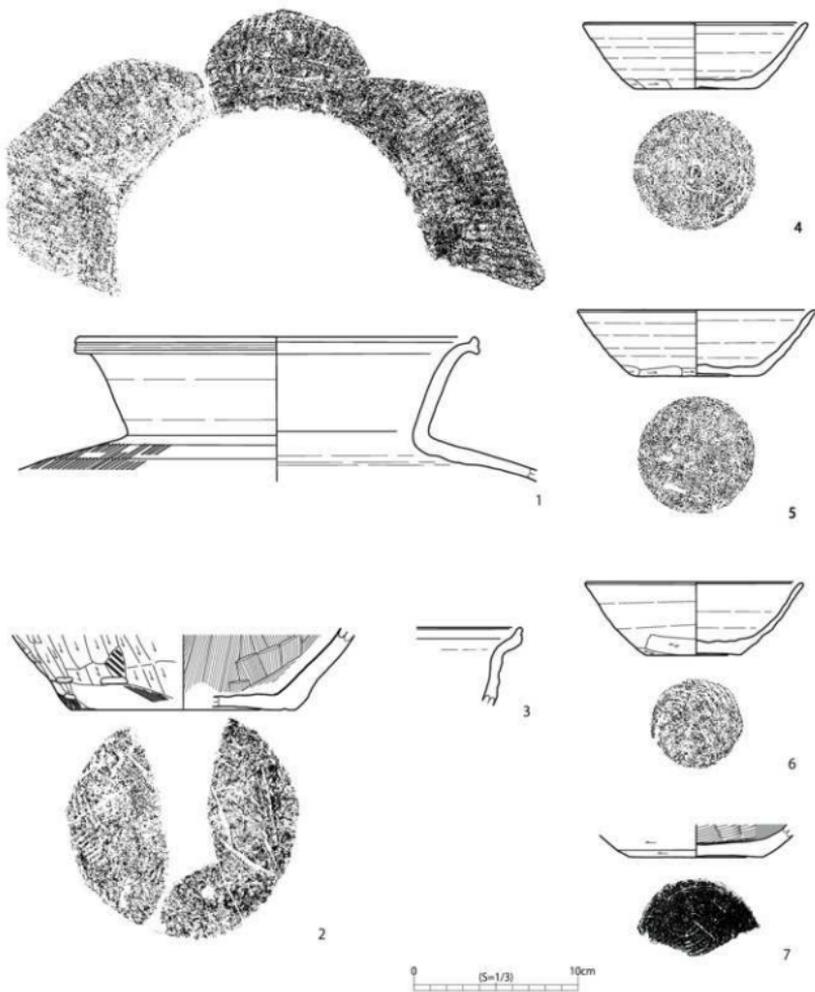
第120図 13号土坑出土遺物(2)

遺物は、2層から丸瓦・軒平瓦・平瓦及び須恵器・土師器が出土している。総破片数は316点で、8点を図示した。

16号土坑(SK16) (第128・129図・第8表)

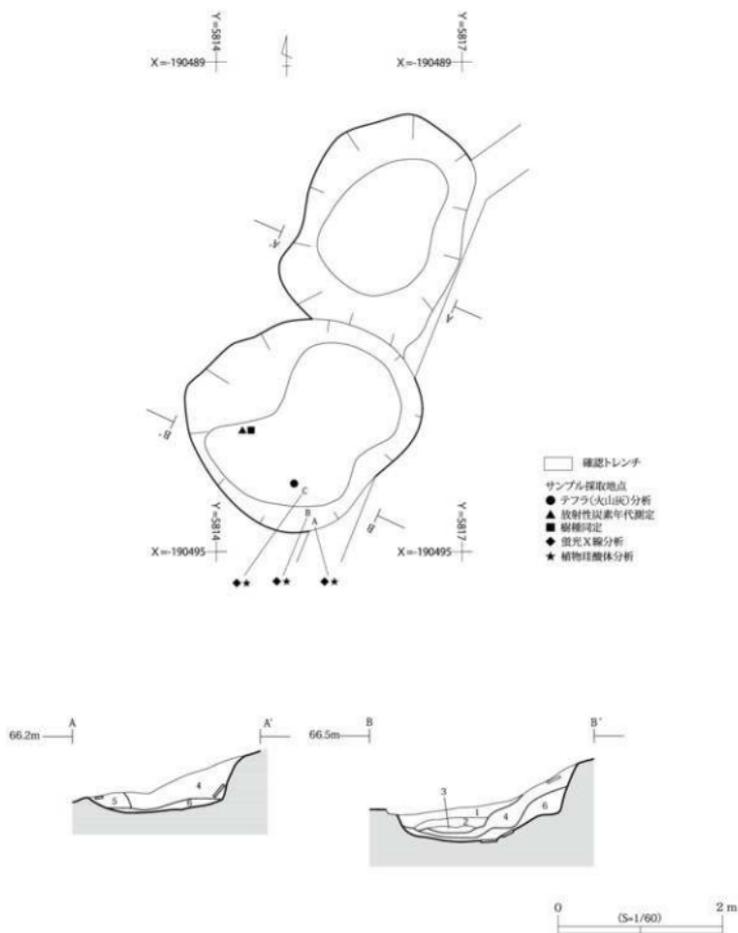
調査区の西側斜面、A-3グリッドに位置する。他の遺構との重複関係は認められない。北側及び東側は、調査区外に延びる。平面形は、円形あるいは楕円形を基調としたものであると思われる、長さ2.90m以上、深さ85cmである。底面はほぼ平坦である。壁面は、底面から急角度で立ち上がる。堆積土は5層に分けられ、全て流入堆積層である。

遺物は、1層及び床面直上から丸瓦・平瓦及び須恵器が出土している。総破片数は55点で、2点を図示した。



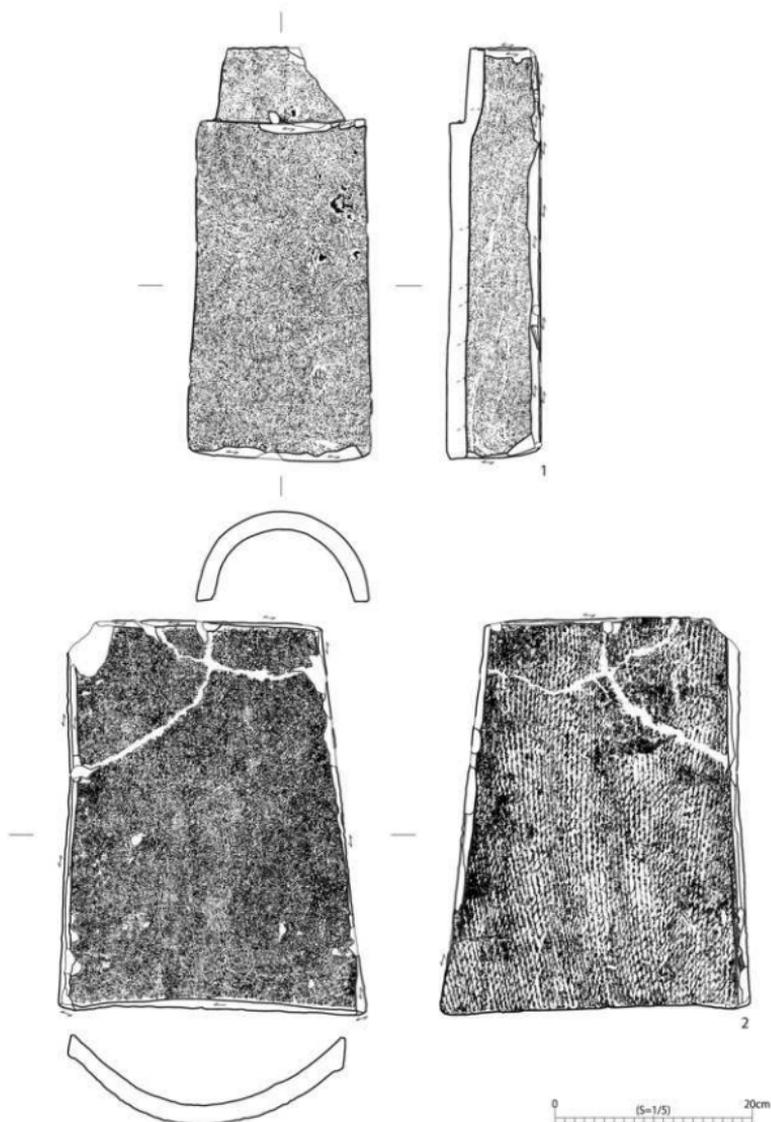
番号	遺物名 フリット	層位	産出 層位	口径 長さ(mm)	底径 幅(mm)	器高 深1cm	重さ (g)	色調	形状・調整 備考	登録 番号	写真 掲載
1	13号土坑	8	築造前 層	(24.0)	-	(9.0)	-	外面：2.5Y5/1 内面：7.5Y8/2	外面：口縁部ロクロナデ 体部タタキ→ロクロナデ 内面：ナデ	E-011	35-9
2	13号土坑	8	築造前 層	-	13.6	(5.0)	-	外面：5Y6/1 内面：2.5Y5/1	外面：タタキ→ヘラケズリ・ナデ 底面：ヘラケズリ→ナデ 内面：ヘラナデ	E-012	35-11
3	13号土坑	2	築造前 層	-	-	(4.8)	-	外面：10R4/1 内面：7.5Y5/1	外面：ロクロナデ 内面：ロクロナデ	E-013	35-10
4	13号土坑	8	築造前 層	(13.5)	(7.0)	4.0	-	外面：10Y87/2 内面：10Y86/1	外面：ロクロナデ→下端手持ヘラケズリ 底面：ヘラケズリ 内面：ロクロナデ	E-014	36-3
5	13号土坑	8	築造前 層	(13.5)	(7.1)	4.1	-	外面：5Y7/1 内面：10Y87/1	外面：ロクロナデ→下端手持ヘラケズリ 底面：ヘラケズリ 内面：ロクロナデ	E-015	36-4
6	13号土坑	1	築造前 層	13.1	5.7	4.5	-	外面：10Y87/2 内面：10Y87/2	外面：ロクロナデ→下端手持ヘラケズリ 底面：鉤籠糸切り→手持ヘラケズリ 内面：ロクロナデ	E-016	36-5
7	13号土坑	1	土師器 層	-	(8.0)	(1.8)	-	外面：7.5Y8/4 内面：N3/0	外面：鉤籠ヘラケズリ 底面：鉤籠糸切り→鉤籠ヘラケズリ 内面：ヘラミダキ→藍色肌焼	D-003	36-2

第121図 13号土坑出土遺物(3)



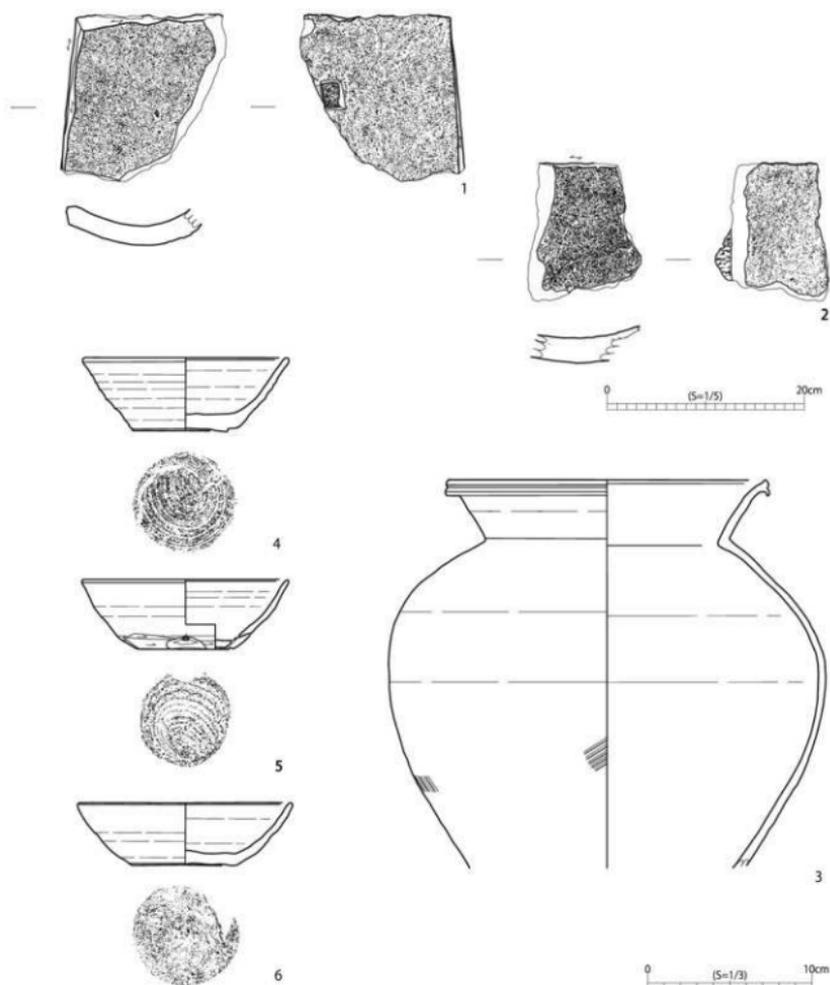
層位	土色	土性	特徴	層位	土色	土性	特徴
1	黒褐色10YR3/2	粘土質シルト	炭入埋積層(大別1期) 粘土質シルトに多い(黄褐色)極大ブロックを極多量含む。大山田(明治中期)中ブロックを多量含む。炭化物粒を微量含む。	4	黒10YR2/1	粘土質シルト	燃料用洋灰(大別2期) 炭化物粒を多量含む。粘土粒を少量含む。
2	黒10YR2/1	砂質シルト	炭入埋積層(大別1期) 炭化物粒・粘土粒を少量含む。礫を微量含む。	5	暗灰黄2.5Y4/2	粘土質シルト	炭入埋積層(大別3期) 粘土質シルトに多い(黄褐色)中ブロックを微量含む。
3	暗褐色7.5YR3/4	砂質シルト	炭入埋積層(大別1期) 塵土粒・炭化物粒を少量含む。	6	黒10YR2/1	砂質シルト	燃料用洋灰(大別4期) 炭化物大ブロックを極多量含む。粘土質シルト(黄褐色)中ブロックを少量含む。

第122図 14号土坑平面図・土層断面図



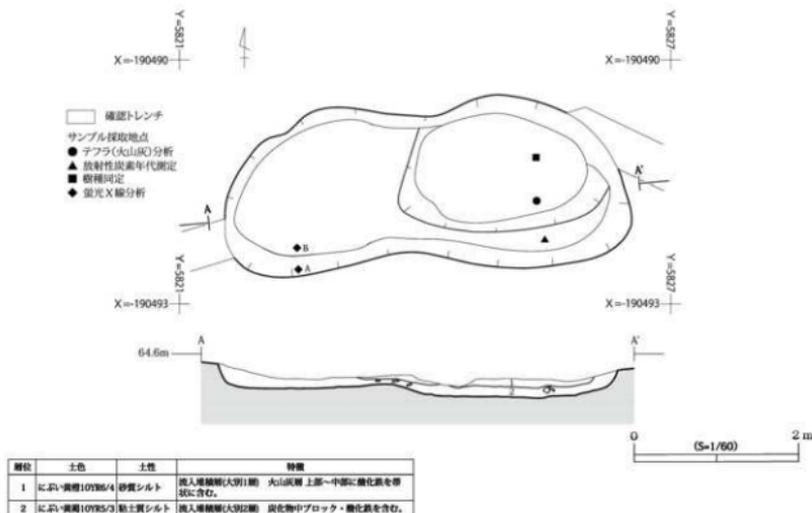
番号	遺構名	層位	種類	最大径 (cm)	広幅幅 (cm)	狭幅幅 (cm)	厚さ (cm)	瓦当面 径(cm)	瓦当面 厚さ(cm)	色調	成形・調整 備考	登録 番号	写真 図版
1	14号土坑	1	丸瓦	42.2	18.4	16.7	1.9	-	-	内面：10YR6/1 外面：2.5Y5/1	内面：粘土粘着→布目織 外面：織り糸→立タテナシ 織物 瓦縁：ヘラケズリ→敷面注産	F-049	36-6
2	14号土坑	6	平瓦	34.0	30.8	22.7 (25.3)	2.3	-	-	内面：10R5/1 外面：10YR6/1	内面：織り糸→布目織 外面：織り糸→瓦織 内面付注産 瓦縁：ヘラケズリ→敷面・狭幅面注産	G-161	36-8

第123図 14号土坑出土遺物(1)



番号	遺構名	層位	形状	最大径 (cm)	広幅幅 (cm)	狭幅幅 (cm)	高さ (cm)	口内径 (cm)	口外径 (cm)	底径 (cm)	器高 (cm)	重さ (g)	色調	成形・調整	備考	登録 番号	写真 図版
1	14号土坑	4	平瓦	17.1	-	14.8	2.3	-	-	-	-	-	外面：2.5Y6/1 凸面：2.5Y5/1	外面：ナゲケン 凸面：陶町キーンナゲケン 肩縁：黒陶・黄緑ヘラケズリ→黒陶面区画	凸面：方形突出	G-162	36-9
2	14号土坑	1	平瓦	14.1	-	8.0	2.6	-	-	-	-	-	外面：10Y8/1 凸面：2.5Y6/1	外面：布巾面→一部ナゲ 凸面：陶町キーンナゲ 肩縁：黄緑面ヘラケズリ	自然動	G-163	36-10
番号	遺構名	層位	形状	口径 径(cm)	底径 幅(cm)	器高 径(cm)	重さ (g)	色調	成形・調整	備考	登録 番号	写真 図版					
3	14号土坑	底面直上	黒陶煎 釜	(19.2)	-	(23.6)	-	外面：10Y8/1 内面：NS/O	外面：口縁部ロクロナデ 内面：ロクロナデ	体部タタキ→ロクロナデ	E-017	36-14					
4	14号土坑	2	黒陶煎 釜	(12.4)	5.6	4.5	-	外面：10Y8/1 内面：10Y8/1	外面：ロクロナデ 底面：自然赤切り 内面：ロクロナデ	-	E-018	36-11					
5	14号土坑	2	黒陶煎 釜	(12.1)	5.8	4.3	-	外面：5Y6/1 内面：3Y8/1	外面：ロクロナデ→手捻ヘラケズリ 内面：ロクロナデ	底面：自然赤切り→肩縁手捻ヘラケズリ	E-019	36-12					
6	14号土坑	1	黒陶煎 釜	(12.8)	(8.3)	3.8	-	外面：NS/O 内面：NS/O	外面：ロクロナデ 底面：ヘラ切リ→ナゲ 内面：ロクロナデ	-	E-020	36-13					

第124図 14号土坑出土遺物(2)



第125図 15号土坑平面図・土層断面図

17号土坑 (SK17) (第128・130・131図・第8表)

調査区の西側斜面、A・B-2・3グリッドに位置する。12号土坑と重複しており、本遺構が古い。平面形は、長軸2.8m、短軸2.5mの楕円形である。深さは50cmである。底面はほぼ平坦である。壁面は、底面から急角度で立ち上がる。堆積土は5層に分けられ、すべて流入堆積層である。2層に灰白色火山灰を多量に含む。

遺物は、1・3・4・5層から丸瓦・平瓦及び須恵器・土師器が出土している。総破片数は147点で、3点を図示した。

18号土坑 (SK18) (第132・133図・第8表)

調査区の西側斜面、B-3グリッドに位置する。他の遺構との重複関係は認められない。平面形は、長軸1.90m、短軸1.70mの楕円形である。深さは55cmで、断面形は上部が開く「U」字形である。底面はほぼ平坦である。壁面は、底面から急峻に立ち上がる。東壁下には溝が付設されている。長さ3.20m、幅45cm、深さ15cmである。堆積土は4層に分けられ、すべて流入堆積層である。1・2層は灰白色火山灰が混入する。

遺物は、1・4層から平瓦が出土している。総破片数は12点で、1点を図示した。

19号土坑 (SK19) (133・134図・第8表)

調査区の東側斜面、1-7グリッドに位置する。南・西側は覆乱で削平されている。他の遺構との重複関係は認められない。平面形は、長軸2.50m以上、短軸2.15m以上の方形を基調としたものと考えられる。深さは50cmである。底面は、凹凸が著しい。壁面は、底面から緩やかに立ち上がる。堆積土は3層に分けられ、1・3層は流入堆積層、2層は瓦が多量に混入する焼土層である。

遺物は、1・2層から丸瓦・平瓦が出土している。総破片数は147点で、3点を図示した。

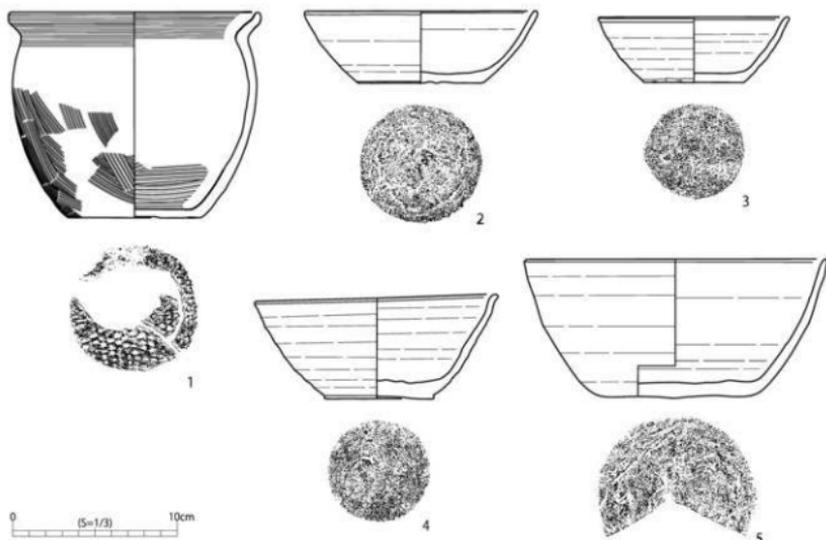
20号土坑 (SK20) (第135・136図・第8表)

調査区の東側斜面、E-6グリッドに位置する。中央上部で3号窯跡排水溝(3号溝)と重複しており、排水溝の堆積土除去中に確認した。本遺構は、排水溝が埋まる途中で掘り込まれ、最終的に排水溝と同時に埋まったもので、



番号	遺物名 フリット	層位	種類	最大径 (cm)	広径幅 (cm)	狭径幅 (cm)	厚さ (cm)	瓦当面 径(cm)	瓦当面 厚さ(cm)	色調	成形・調整 備考	登録 番号	写真 図版	
1	15号土坑	2	丸瓦	41.5 (21.25 514.6)	17.3 (21.25 514.6)	17.2 511.9	2.4 51.6	-	-	凹面：10R5/1 凸面：N4/0	凹面：粘土細網→有目筋 凸面：刷印キ→ロクロナデ→彫ヘラケズリ 埋藏：ヘラケズリ	F-050	36.7	
2	15号土坑	2	軒平瓦	100+	109+	-	-	3.5 (4.5)	-	瓦当面：N6/0 凹面：7.5R25/1 凸面：2.5V6/1	凹面：本目筋→ナデ 凸面：刷印キ→ナデケシ→ヘラ細網埋藏	平瓦と織物	G-164	37.1
3	15号土坑	2	平瓦	38.3	27.5	8.5+ (22.0)	1.5	-	-	凹面：N5/0 凸面：N5/0	凹面：糸切り線→有目筋→ナデ 凸面：糸切り線→刷印キ 埋藏：ヘラケズリ→広縁面圧痕	G-165	37.3	

第126図 15号土坑出土遺物(1)



番号	遺物名 グリッド	部位	種類 図形	口径 長さ(cm)	底径 幅(cm)	器高 厚さ(cm)	重量 (g)	色調	成形・調整	備考	登録 番号	写真 番号
1	15号土坑	2	土師器 環	(15.0)	8.0	12.6	-	外面：SVR5/4 内面：7.5VRS/3	外面：口縁部ヨコナデ 内面：口縁部ヨコナデ	体部上半横減、中位～下半ハケメ 体部上半横減、下半ハケメ	C-001	37-5
2	15号土坑	2	土師器 鉢	(14.0)	(7.7)	4.5	-	外面：SVR7/4 内面：7.5VRS/3	外面：ロクロナデ 内面：ロクロナデ	底面：ヘラ切りナデ	E-021	37-6
3	15号土坑	2	土師器 鉢	(11.5)	(6.1)	4.1	-	外面：NS/O 内面：NS/O	外面：ロクロナデ 内面：ロクロナデ	下端子母ちつくり 底面：切り磨し不明→母母ちつくり	E-022	37-7
4	15号土坑	2	土師器 鉢	14.7	6.5	6.5	-	外面：NS/O 内面：NS/O	外面：ロクロナデ 内面：ロクロナデ	底面：鋸輪削り	E-023	37-8
5	15号土坑	2	土師器 鉢	(18.2)	(8.6)	8.5	-	外面：NS/O 内面：NS/O	外面：ロクロナデ 内面：ロクロナデ	底面：切り磨し不明→ナデ 底面：突出	E-024	37-9

第127図 15号土坑出土遺物(2)

本遺構が新しい。平面形は、長軸 4.35m、短軸 2.95m のやや不整な楕円形である。深さは 75cm である。底面は凹凸が見られる。壁面は、底面から緩やかに立ち上がる。堆積土は 5 層に分けられ、すべて流入堆積層である。2 層には灰白色火山灰が流入している。

遺物は、2 層から丸瓦・平瓦・棟平瓦及び土師器が出土している。総破片数は 71 点で、2 点を図示した。

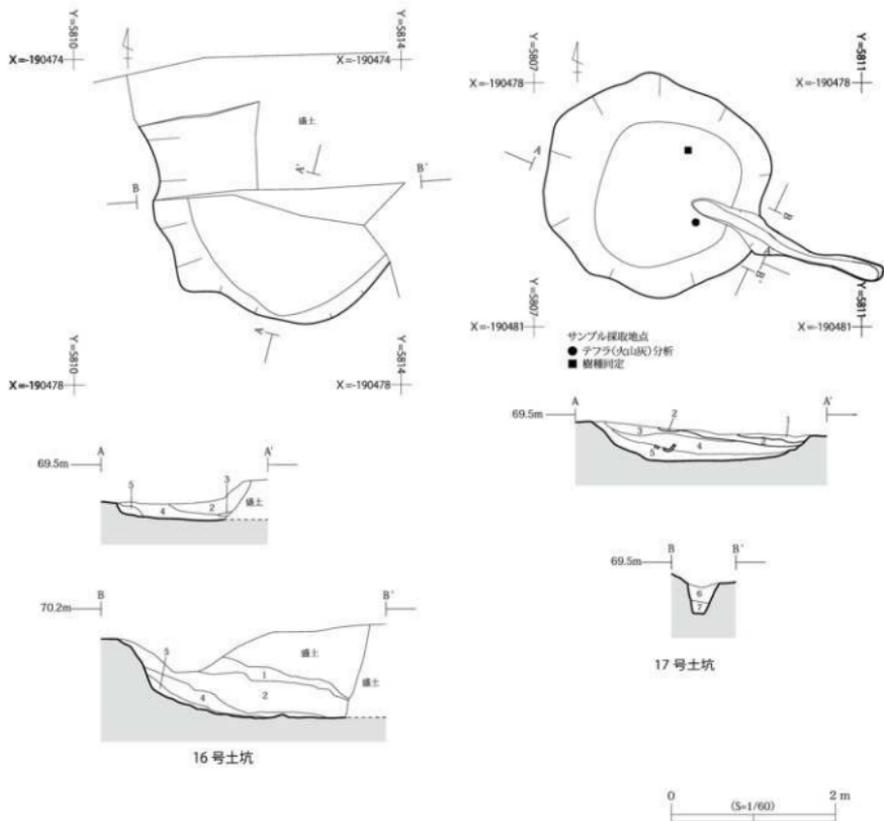
21号土坑 (SK21) (第135図・第8表)

調査区の東側斜面、E-7 グリッドに位置する。他の遺構との重複関係は認められない。南側部分は残存していない。平面形は、長軸 1.55m、短軸 1.20m 以上の楕円形を基調としたものである。深さは 25cm である。底面はほぼ平坦であるが、東側に低い段を有する。壁面は、底面から緩やかに立ち上がる。堆積土は 2 層に分けられる。1 層は炭化物ブロックを多量に含む。2 層は焼土層である。

遺物は、1 層から丸瓦・平瓦が出土している。総破片数は 4 点で、図示できるものはない。

22号土坑 (SK22) (第137・138図・第8表)

調査区の東側斜面、E-6・7 グリッドに位置する。南側で 3 号窯跡排水溝 (3 号溝) と重複しており、排水溝の堆積土除去中に確認した。本遺構は、排水溝が埋まる途中で掘り込まれ、最終的に排水溝と同時に埋まったものであり、本遺構が新しい。平面形は、長軸 4.35m、短軸 3.75m の不整形である。深さは 55cm である。底面はほぼ平坦である。壁面は、底面から緩やかに立ち上がる。堆積土は 3 層に分けられ、すべて流入堆積層である。2 層には灰白色火山灰が流入している。



16号土坑

層位	土色	土性	特徴	層位	土色	土性	特徴
1	にがい黄褐色10YR4/3	砂質シルト	洗入堆積層 粘土質シルトににがい黄褐色中ブロックを多量含む。炭化物粒・腐土塊・腐れ堆積層含む。	4	にがい黄褐色10YR5/4	粘土質シルト	洗入堆積層 腐土大ブロック・腐れ粘土大ブロックを少量含む。砂質シルト(腐れ)中ブロック・炭化物粒を複数含む。上部に粘土質シルト(腐れ)を帯びに含む。
2	にがい黄褐色10YR5/4	粘土質シルト	洗入堆積層 上部に粘土ににがい黄褐色大ブロックを多量・腐れ炭素を少量含む。腐れ粘土を含む。腐れ中黄褐色を少量含む。	5	にがい黄褐色10YR5/4	粘土質シルト	洗入堆積層 腐土粒を複数含む。炭化物粒を複数含む。
3	灰黄褐色10YR6/2	粘土質シルト	洗入堆積層 腐れ炭素を多量含む。炭化物粒を複数含む。				

17号土坑

層位	土色	土性	特徴	層位	土色	土性	特徴
1	黒褐色10YR3/1	粘土質シルト	洗入堆積層(大層1層) シルト(腐れ)中ブロックを少量含む。灰白色土(腐れ)ににがい黄褐色小ブロックを複数含む。	5	褐色10YR4/4	粘土質シルト	洗入堆積層(大層3層) 粘土質シルト(腐れ)中大ブロックを含む。粘土(腐れ)中ブロック・粘土質シルトににがい黄褐色小ブロックを複数含む。腐れ土塊大ブロック・腐れ炭素大ブロックを少量含む。炭化物中ブロックを複数含む。
2	にがい黄褐色10YR4/3	粘土質シルト	洗入堆積層(大層2層) 下部に灰白色土(腐れ)ににがい黄褐色大ブロックを少量含む。炭化物粒を複数含む。	6	にがい黄褐色10YR5/4	砂質シルト	洗入堆積層 粘土質シルトににがい黄褐色小ブロックを少量含む。炭化物粒・腐れ炭素を複数含む。
3	にがい黄褐色10YR4/3	粘土質シルト	洗入堆積層(大層3層) 炭化物中ブロックを含む。腐れ中ブロックを少量含む。腐れ炭素大ブロックを複数含む。	7	明黄褐色10YR6/6	砂質シルト	洗入堆積層 炭化物粒・腐れ炭素を複数含む。
4	にがい黄褐色10YR5/4	粘土質シルト	洗入堆積層(大層3層) 下部に腐れ炭素を少量。腐れ土塊大ブロック・炭化物粒を複数含む。				

第128図 16・17号土坑平面図・土層断面図



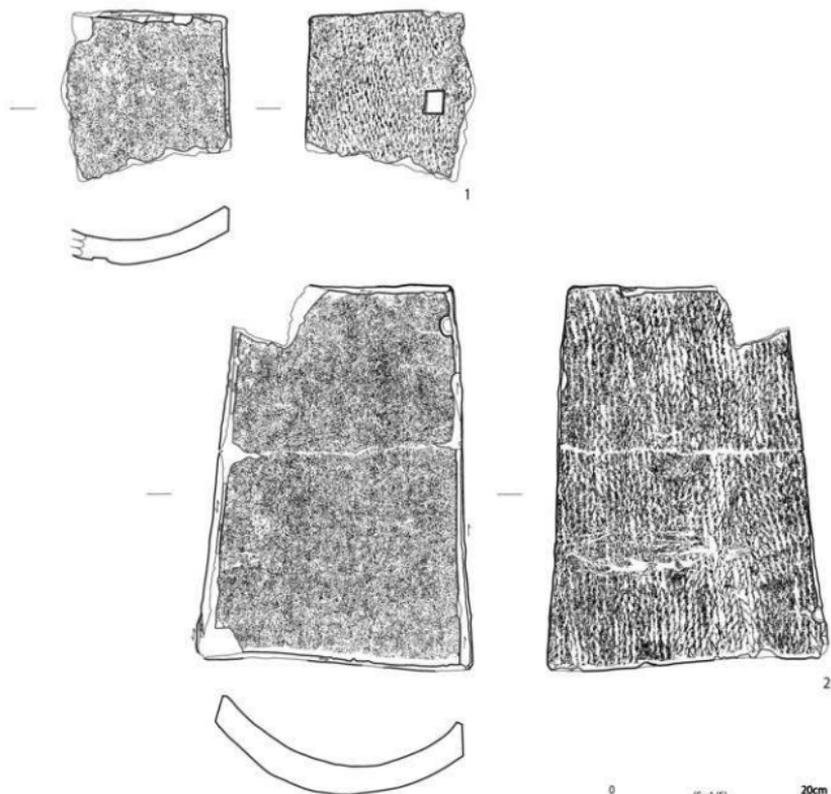
番号	遺構名 グリッド	階位	種別	最大長 (cm)	最大幅 (cm)	残存幅 (cm)	厚さ (cm)	瓦当面 長(cm)	瓦当面 厚さ(cm)	色調	成形・調整 備考	登録 番号	写真 図版
1	16号土坑	底面 直上	丸瓦	33.0 38.3	16.8 21.4	2.2 2.2	-	-	-	凹面：7.5YR5/1 凸面：7.5YR5/1	凹面：粘土絞漉・布目織 凸面：脚甲き→ロウロナデ 両縁：脚面・脱模面ヘラズリ→仕直	F-051	37-2
2	16号土坑	底面 直上	平瓦	39.0	27.2 (25.4)	17.2 (22.3)	1.9	-	-	凹面：NS/O 凸面：3B/O	凹面：赤目織→一部ナデ 凸面：脚甲き 両縁付底織 両縁→ヘラズリ	G-106	37-4

第129図 16号土坑出土遺物

遺物は、1・3層から丸瓦・平瓦・及び土師器が出土している。総破片数は37点で、1点を図示した。

24号土坑 (SK24) (第137図・第8表)

調査区の東側斜面、D・7・8グリッドに位置する。他の遺構との重複関係は認められない。平面形は、長軸1.8m、短軸70cmの隅丸長方形である。深さは35cmである。底面はほぼ平坦である。底面・壁面は、被熱している。



番号	遺構名 グリッド	層位	種類	最大長 (cm)	広軸幅 (cm)	狭軸幅 (cm)	厚さ (cm)	瓦当面 長(cm)	瓦当面 厚さ(cm)	色調	成形・調整 備考	登録 番号	写真 掲載
1	17号土坑	4	平瓦	17.4+	-	11.2+	2.5	-	-	内面：NS/O 凸部：NS/O	内面：春日袋→ナデ 凸部：柳甲吉 内面：新堀・新堀南ヘウケズリ 凸部：方型瓦	G-167	37-10
2	17号土坑	1	平瓦	39.0	27.1 (28.2)	14.2 (21.8)	3.2	-	-	内面：10YR5/1 凸部：7.5YR5/1	内面：春日袋→一部ナデ 凸部：柳甲吉→一部ナデ、庄蔵 内面：ヘウケズリ→新堀・新堀南庄蔵	G-168	38-1

第130図 17号土坑出土遺物(1)

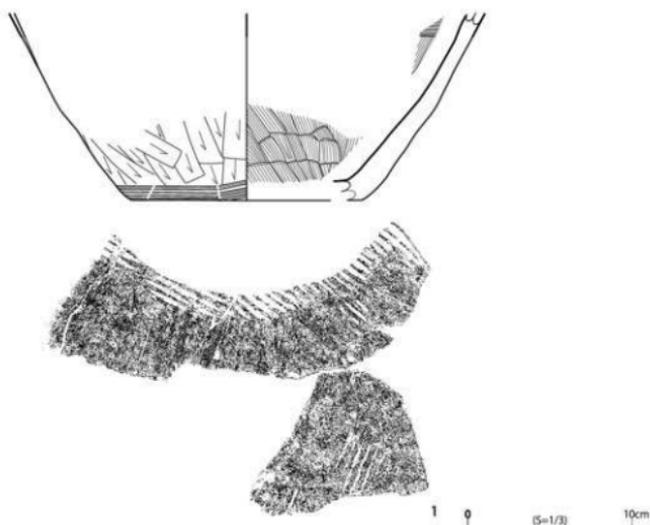
壁面は、底面から直立気味に立ち上がり、南東側壁は内湾して立ち上がる。堆積土は5層に分けられる。1・2層は流入堆積層。3・5層は炭化物層。4層は焼土層である。

遺物は、出土していない。

25号土坑 (SK25) (第139・140図・第8表)

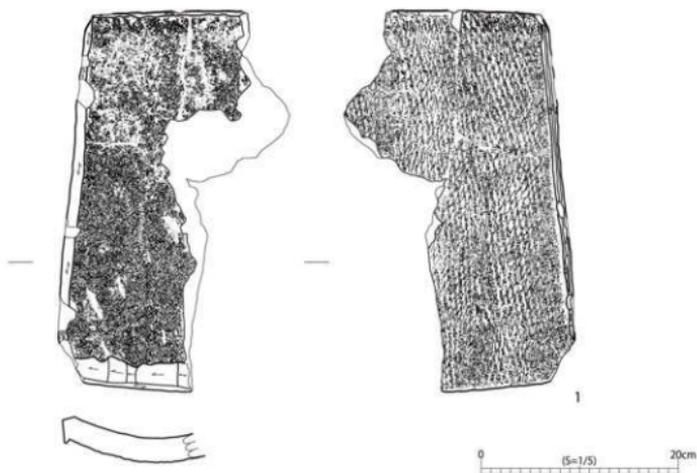
調査区の東側斜面、G・H-7グリッドに位置する。1号窯跡排水溝(2号溝)と重複しており、排水溝の堆積土除去中に確認した。本遺構は、排水溝が埋まる途中で掘り込まれ、最終的に排水溝と同時に埋まったもので、本遺構が新しい。平面形は、長軸3.7m、短軸2.8mの不整形である。深さは50cmである。底面はほぼ平坦である。壁面は、底面から緩やかに立ち上がる。堆積土は2層に分けられ、ともに流入堆積層である。1層には灰白色火山灰層が多量に流入する。

遺物は、1層から丸瓦・平瓦が出土している。総破片数は45点で、3点を図示した。



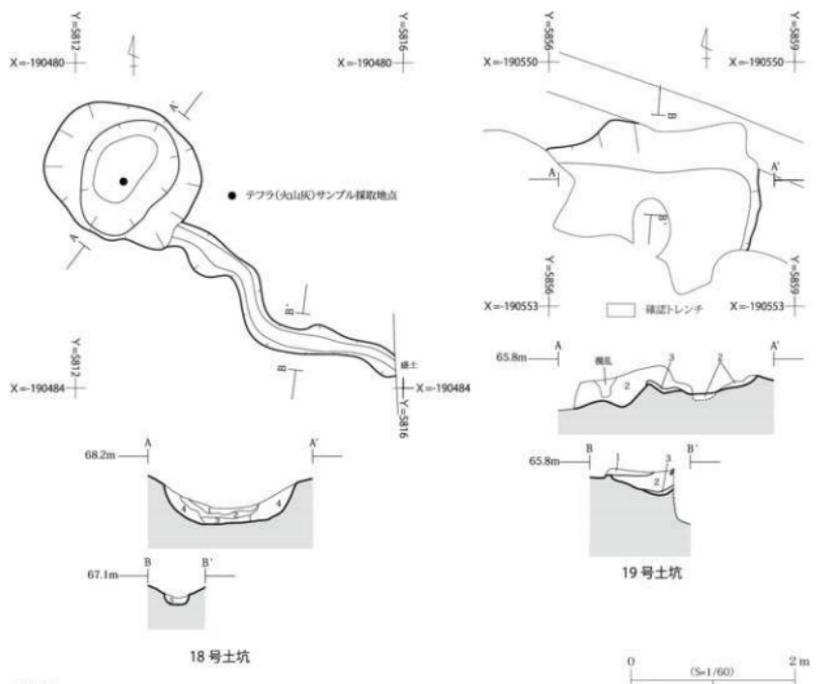
番号	遺構名	層位	種別	口徑 長さ(cm)	底径 幅(cm)	器高 深さ(cm)	重量 (g)	色調	成形・調整	備考	登録 番号	写真 図版
1	17号土坑	4	実用器 篋	-	14.0	(11.5)	-	外面：7.5YR6/1 内面：10R5/1	外面：シタネ→ヘラケズリ 内面：ヘラケズリ	底面：ヘラケズリ	E-025	37-11

第131図 17号土坑出土遺物(2)



番号	遺構名	層位	種別	最大径 長(cm)	広径幅 幅(cm)	狭径幅 幅(cm)	厚さ 高さ(cm)	互目面 長さ(cm)	互目面 厚さ(cm)	色調	成形・調整	備考	登録 番号	写真 図版
1	18号土坑	4	平瓦	38.9	11.1+	14.5+	2.5	-	-	外面：NS/O 凸面：N/O/D	凸面：糸切り筋→布目織→ナデ 底面：ヘラケズリ→底面圧痕	凸面：織甲巻 凹面圧痕	G-169	38-4

第132図 18号土坑出土遺物



18号土坑							
層位	土色	土性	特徴	層位	土色	土性	特徴
1	にぶい黄2.5Y6/4	シルト	洗入堆積層 火山灰層	4	にぶい黄褐色10YR5/4	粘土質シルト	洗入堆積層 酸化鉄を多量含む、粘土粒を少量含む、礫を散見含む。
2	にぶい黄褐色10YR5/4	粘土質シルト	洗入堆積層 火山灰混入層 火山灰ににぶい黄褐色大ブロックを多量含む。酸化鉄を少量含む。炭化植物を散見含む。	5	にぶい黄褐色10YR5/4	砂質シルト	洗入堆積層 酸化鉄を少量含む、炭化植物を散見含む。
3	灰5Y6/1	粘土質シルト	洗入堆積層 礫を少量含む、酸化鉄を散見含む。				

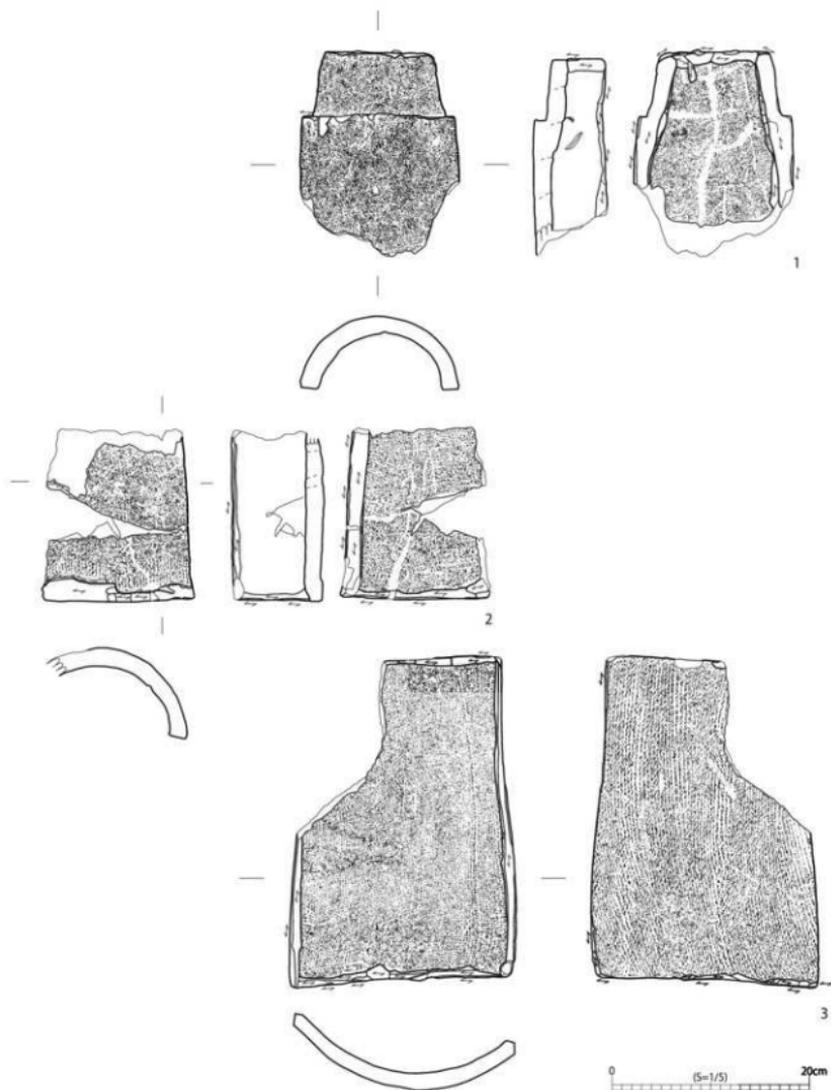
19号土坑			
層位	土色	土性	特徴
1	明黄褐色10YR6/6	砂質シルト	洗入堆積層(大層1層) 礫を含む。
2	明黄7.5YR5/8	砂質シルト	堆土層(大層2層) 下面に砂質シルト(明黄褐色)大ブロックを多量含む。礫を少量含む。
3	明黄褐色10YR6/6	粘土	洗入堆積層(大層3層) 明確な混入土・混入物なし。

第133図 18・19号土坑平面図・土層断面図

ピット(第139・141図・第9表)

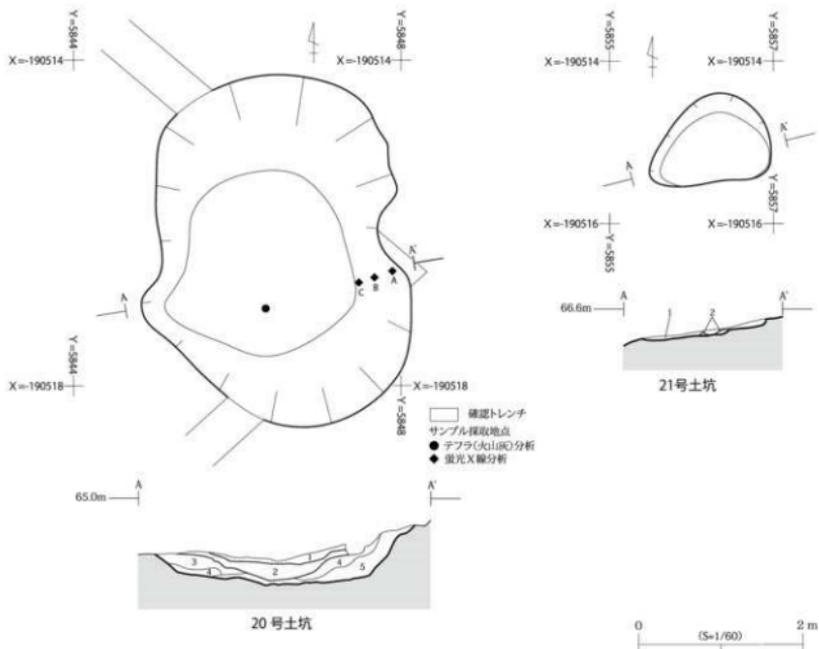
新堤地区で、確認したピットは5基である。

ピットは、調査区の東側斜面から4基(ピット5・6・10・15)、西側斜面から1基(ピット1)を確認した。他の遺構との重複関係は認められない。平面形は一定しておらず、円形・楕円形・不整形円形・不整形の各形状が認められる。規模は、長軸0.25～0.85m、短軸0.25～0.6mで、均一性は認められないが、深さは、0.1～0.25mと浅い。5基中の4基の底面は、ほぼ平坦であるが、ピット15のみ、凹凸が認められる。壁面は、底面から緩やかに立ち上がっている。堆積土はいずれも単一層で、柱痕跡は認められない。遺物が出土しているのは、西側斜面で調査したピット1のみであり、1層から平瓦が出土している。総破片数は2点で、1点を抽出・図示した。



番号	遺構名 アソッド	層位	種類	最大長 (cm)	広さ幅 (cm)	狭さ幅 (cm)	厚さ (cm)	瓦当側 長(cm)	瓦当側 厚さ(cm)	色調	成形・調整 備考	登録 番号	写真 図版	
1	19号土坑	2	丸瓦	21.1- 30.5	- 至13.5	15.4 至10.9 (11.4)	2.1 至1.8	-	-	凹面：7.5Y06/3 凸面：7.5Y07/4	凹面：粘土類焼→布目織 凸面：縞印き→ロクロナ子 周縁：縞面・狭端部ヘラケズリ	凹面：ヘラ書き「下」	F-052	38.3 105
2	19号土坑	2	丸瓦	17.2- 玉	15.2- 玉	-	1.9 玉	-	-	凹面：7.5Y06/3 凸面：7.5Y07/4	凹面：粘土類焼→布目織 凸面：縞印き→ロクロナ子 周縁：縞面・広端部ヘラケズリ→広端部圧着	凹面：ヘラ書き「下」	F-053	38.6 105
3	19号土坑	2	平瓦	33.0	22.5	9.2 (19.3)	1.8	-	-	凹面：N4/0 凸面：7.5Y05/1	凹面：布目織→擦ナデ 凸面：縞印き 周縁：ヘラケズリ→広端・狭端部圧着	凹面：ヘラ書き「上」	G-170	38.5 102

第134図 19号土坑出土遺物



20号土坑

層位	土色	土性	特徴	層位	土色	土性	特徴
1	にぶい-黄褐色10YR5/3	粘土質シルト	流入堆積層(大形1層) 一部グライ化。礫を少量含む。	4層	にぶい-黄褐色	粘土質シルト	流入堆積層(大形3層) 酸化鉄を極多量含む。礫を含む。
2	にぶい-黄褐色10YR7/4	伊賀シルト	流入堆積層(大形2層) 火山灰層(シルト)と互層をなす。	5層	にぶい-黄褐色10YR6/3	粘土質シルト	流入堆積層(大形3層) 粘土ににぶい-黄褐色10YR7/3と互層をなす。酸化鉄・礫を含む。炭化物粒を数量含む。
3	にぶい-黄褐色10YR7/4	粘土質シルト	流入堆積層(大形3層) 酸化鉄を極多量含む。礫を含む。				

21号土坑

層位	土色	土性	特徴
1	にぶい-黄褐色10YR4/3	伊賀シルト	燃料用砕屑(大形1層) 炭化物中・大ブロックを多量含む。粘土粒を数量含む。
2	黄7.5YR4/6	伊賀シルト	粘土層(大形2層) 粘土小・中ブロックを多量含む。

第135図 20・21号土坑平面図・土層断面図

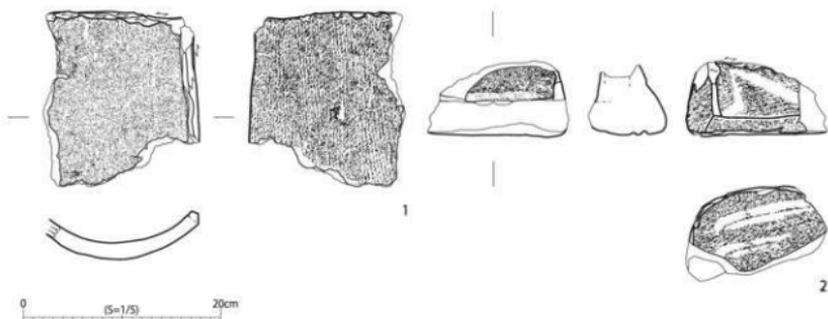
瓦集中部 (第142～150図)

新堤地区で確認した瓦集中部は11ヶ所である。調査区の東側斜面から8ヶ所、北側斜面から3ヶ所を確認した。瓦は表土直下から出土しており、掘り込みや特別な堆積土は認められない。瓦が集中する範囲の平面形は、楕円形・不整楕円形・長楕円形・不整長楕円形・不整形と一定しない。規模は、長軸0.5～4.65m、短軸0.3～2.9mである。

それぞれの瓦集中部から出土した遺物の破片数は、11～458点と一定しない。瓦集中部全体からは、軒丸瓦・丸瓦・平瓦、土師器が出土している。総破片数は、1,225点で、19点を図示した。

遺構外出土遺物 (第153～160図)

表土・掘乱・風倒木痕から軒丸瓦・丸瓦・軒平瓦・平瓦・隅切瓦・棟平瓦・鬼瓦・硯・土師器・土師器・須恵器・石器・石製品(砥石)・陶器・近世瓦が出土した。総破片数は22,198点で、43点を図示した。



番号	遺物名 ブリード	種別	種類	最大長 (cm)	広端幅 (cm)	狭端幅 (cm)	厚さ (cm)	瓦当面 長さ(cm)	瓦当面 厚さ(cm)	色調	成形・調整 備考	登録 番号	写真 図説	
1	20号土坑	2	平瓦	17.9	-	13.2	1.8	-	-	凹面：7.5R5/I 凸面：10R5/I	凹面：布目織 凸面：縄甲子 側面：粘土紐作り	調整：側面・狭端部へラケズリ-狭端部三角	G171	38.7
2	20号土坑	2	棟平瓦	7.8	13.9	-	-	6.6	7.3	瓦当面：2.5Y5/I 裏面：5Y5/I 凹面：10Y8R/I	瓦当面：縄甲子-一帯 側面：縄甲子-へラケズリ調整 凹面：布目織-ユビナデ 調整：側面・狭端部		H018	38.2

第136図 20号土坑出土遺物

新堤地区の遺物

新堤地区で出土した遺物は、軒丸瓦・丸瓦・軒平瓦・平瓦・道具瓦などの瓦類と、土師器・須恵器・硯がある。瓦類は軒丸瓦 12点・丸瓦 6,882点・軒平瓦 17点・平瓦 29,480点・道具瓦 58点（隅切瓦 2点・棟平瓦 20点・鬼瓦 36点）の計 36,449点である。窯内出土は丸瓦 1,362点・軒平瓦 3点・平瓦 5,940点・棟平瓦 9点・鬼瓦 4点の計 7,318点である。出土瓦の大部分が平瓦であり、全体の 80.1%を占めている。以下、図示遺物を中心にそれぞれの特徴を述べていく。なお、瓦の分類は『多賀城跡』（1982）に準拠した。

〔軒丸瓦〕

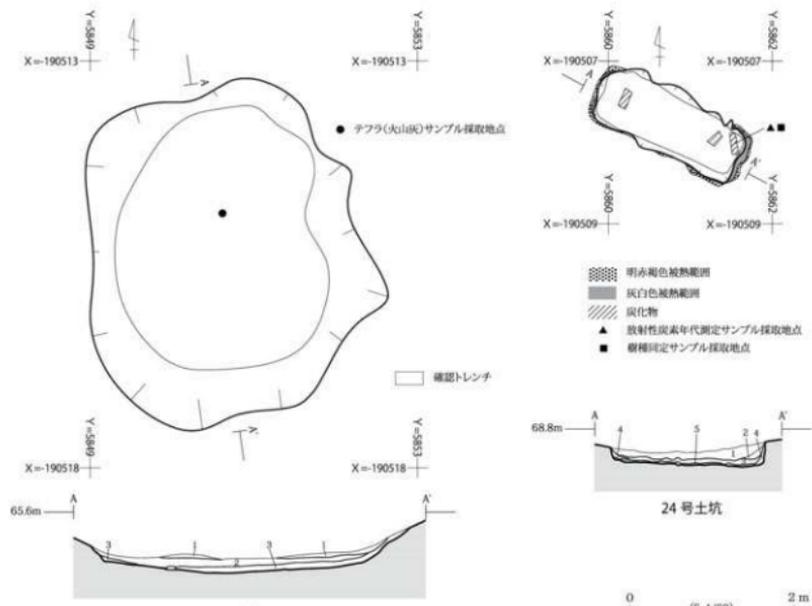
軒丸瓦の総破片数は 12点で、7点図示した。瓦類全体の 0.03%である。今回与兵衛沼窪跡で出土した軒丸瓦は、瓦当文様により、3種に分類でき、重弁蓮華文をⅠ類、細弁蓮華文をⅡ類、重圓文をⅢ類とした。そのうち新堤地区では、Ⅱ類が出土している。1号灰原で4点、14号土坑で1点、瓦集中部10で1点、谷で4点、表土で2点出土しているが、窯内からは出土していない。その中の3点は、周縁部などの小破片で瓦当面が残存していない。

軒丸瓦Ⅱ類a

20葉細弁蓮華文軒丸瓦である。9点出土し、1点図示した（第153図1）。Ⅱ類は20葉の軒丸瓦Ⅱ類aと12葉軒丸瓦Ⅱ類bに分類され、新堤地区からは軒丸瓦Ⅱ類aが出土している。中房が二重の圓線で仕切られ、蓮子構成は1+5、周縁蓮子は円形で蓮弁の外側に圓線がめぐられ、その外側に18ヶの珠文が配された軒丸瓦である。側面、裏面は、へラケズリのちナデ調整で、丸瓦部は、粘土紐作り、へラナデ調整である。瓦当と丸瓦との接着方法は、いわゆる印籠接ぎである。瓦当裏面に溝を刻み、丸瓦を指し込んだ後ナデ調整して接着している。

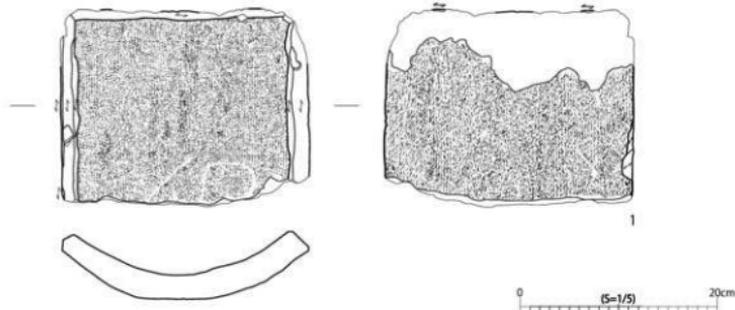
〔丸瓦〕

粘土紐作りの丸瓦である。断面形は半円形をし、凸面は縄タキのちナデ、凹面は布目、周縁・側面にへラケズリ調整がみられる。今回与兵衛沼窪跡で出土した丸瓦は無段のものⅠ類と、有段のものⅡ類に分類できるが、新堤地区ではⅡ類のみが出土している。丸瓦は総破片数が6,882点を数え、60点図示した。瓦類全体の 18.9%を占めている。窯内からは、1号窯跡で368点、3号窯跡で503点、4号窯跡で47点、5号窯跡で211点、6号窯跡で



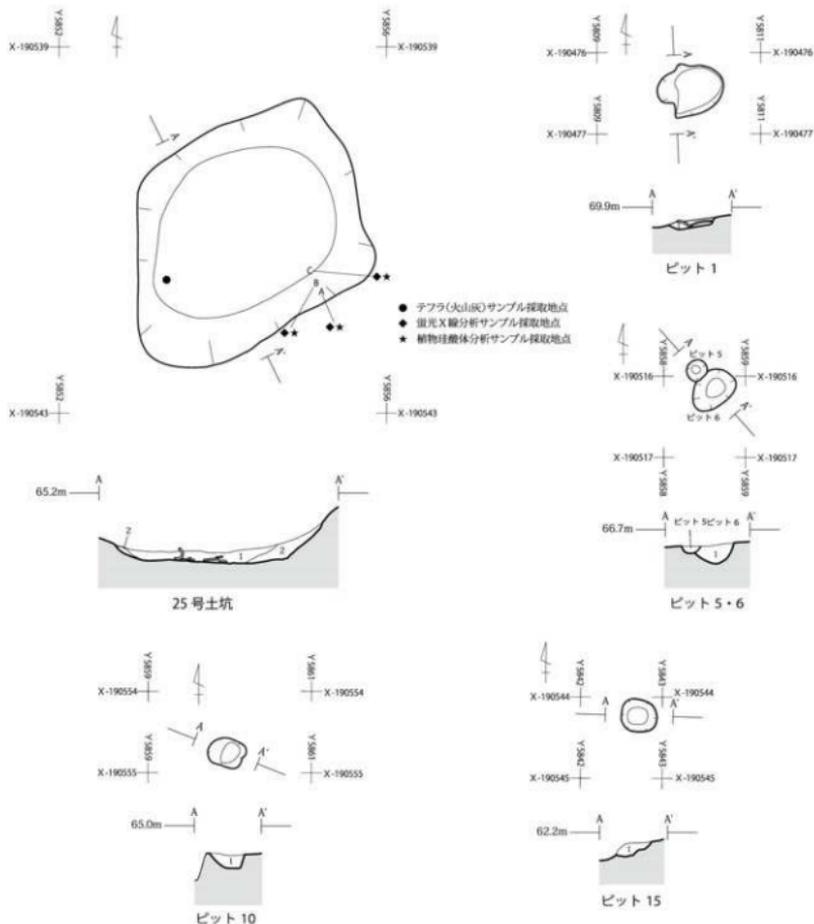
22号土坑				24号土坑			
層位	土色	土性	特徴	層位	土色	土性	特徴
1	明黄褐色10YR6/6	砂質シルト	埋入層結構(大別1期) 粘土質シルト(黒い)小・中ブロックを少量含む。炭化物粒を少量含む。焼土粒を極微量含む。	3	にぶい黄褐色10YR6/3	シルト質粘土	埋入層結構(大別3期) 下部にシルト質粘土(黒)小・中ブロックを含む。
2	明黄褐色10YR6/6	シルト	埋入層結構(大別2期) 火山灰(にぶい)黄褐色と互層をなす。				
24号土坑				24号土坑			
層位	土色	土性	特徴	層位	土色	土性	特徴
1	にぶい黄褐色10YR6/3	粘土質シルト	埋入層結構(大別1期) 粘土質シルト(にぶい)黄褐色(4)小ブロックを微量含む。炭化物粒小・小・中ブロックを含む。焼土を微量含む。焼土粒を極微量含む。	3	黒10YR2/1	シルト	埋入層結構(大別2期) 砂質シルト(黄褐色)中・大ブロックを少量含む。焼土粒を極微量含む。
2	にぶい黄褐色10YR6/3	粘土質シルト	埋入層結構(大別1期) 炭化物小・中ブロックを少量含む。焼土粒を極微量含む。	4	明赤褐色5YR5/8	砂質シルト	焼土層(大別3期) 砂質シルト(黒)小ブロックを含む。
				5	黒10YR2/1	シルト	埋入層結構(大別4期) 粘土質を微量含む。

第137図 22・24号土坑平面図・土層断面図



番号	遺物名	層位	種類	最大長 (cm)	最大幅 (cm)	検出層 (cm)	厚さ (cm)	瓦当径 長(cm)	瓦当径 厚さ (cm)	色調	成形・調子	登録番号	写真 掲載
1	22号土坑 ブリード	2	平瓦	203	-	16.5 (25.0)	3.0	-	-	凹面: 5YR6-6 凸面: 5YR6-6	凹面: 糸切り糸→布目織 凸面: 綿目織 周縁: 側面・裏面筋ヘラケズリ→側面凹漕	凹面:「へうきき」「G-172	38-8 103

第138図 22号土坑出土遺物



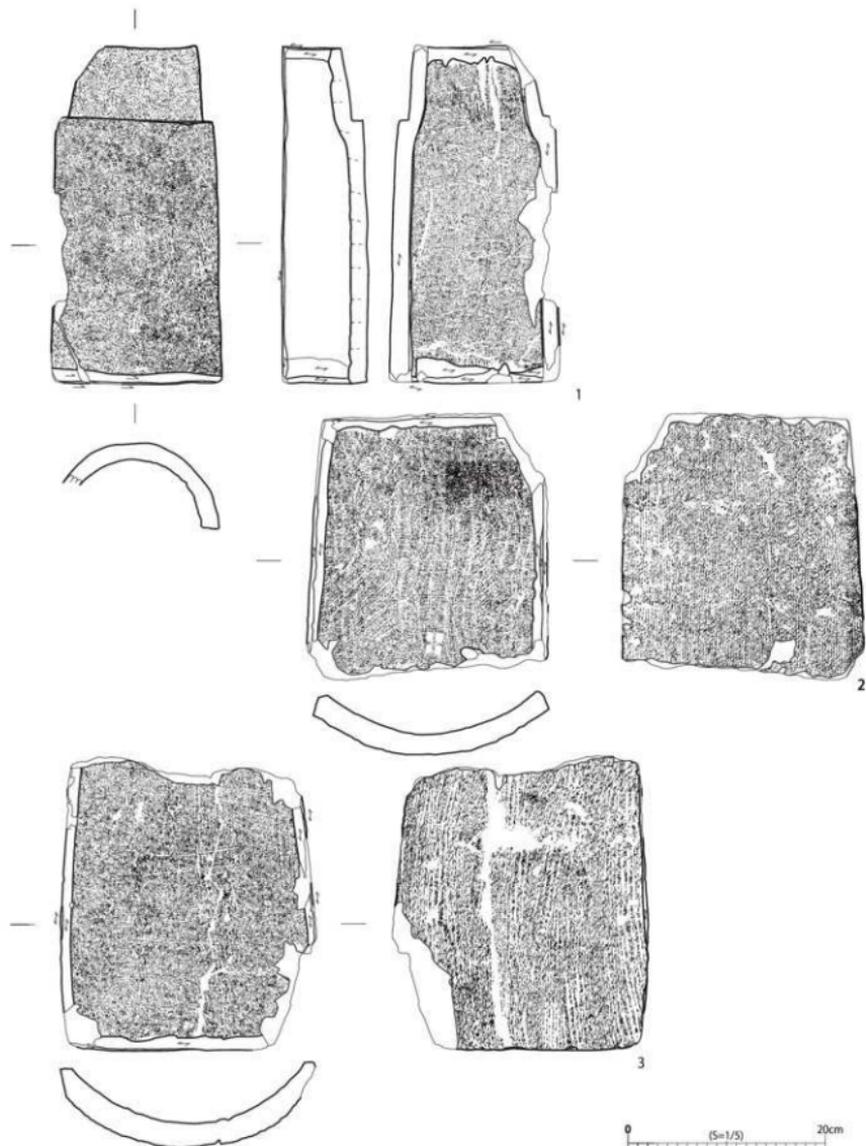
0 (S=1/60) 2m

25号土坑				ピット6			
層位	土色	土性	特徴	層位	土色	土性	特徴
1	黄褐10YR5/6	砂質シルト	流入層(築堤(大第1期) 上部に灰白土(灰)に近い黄褐色中・大・塊状ブロックを多量含む。礫を微量含む。	1	灰白・黄褐10YR5/4	粘土質シルト	シルト(暗黄褐)小ブロックを微量含む。炭化物粒を含む。上部に礫を微量含む。
2	黄褐10YR5/6	砂質シルト	流入層(築堤(大第2期) 礫を微量含む。底面層上に焼土粒・ブロックを微量含む。				

ピット1				ピット10			
層位	土色	土性	特徴	層位	土色	土性	特徴
1	黄7.5YR4/4	粘土質シルト	焼土中ブロックを多量含む。炭化物粒を微量含む。	1	灰白・黄褐10YR5/4	砂質シルト	礫を微量含む。上部に炭化物粒を微量含む。

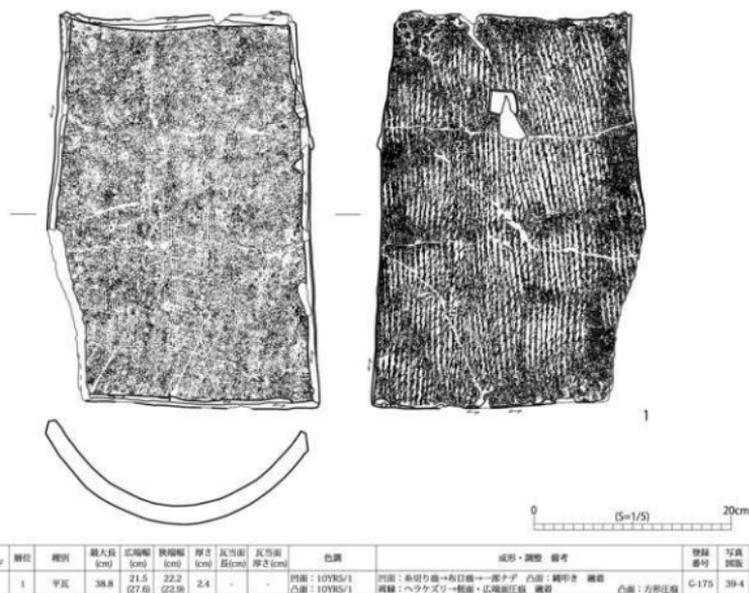
ピット5				ピット15			
層位	土色	土性	特徴	層位	土色	土性	特徴
1	黄10YR4/4	砂質シルト	砂質シルトに近い(黄褐)を少量含む。炭化物粒を微量含む。	1	黄褐10YR5/6	粘土質シルト	粘土質シルトに近い(黄褐)ブロックを少量含む。上部に礫を微量含む。

第139図 25号土坑、ピット1・5・6・10・15平面図・土層断面図



番号	遺構名 アソフ	層位	種類	最大径 (cm)	口径幅 (cm)	胴幅幅 (cm)	厚さ (cm)	耳当り 長さ(cm)	耳当り 厚さ(cm)	色調	成形・調整 備考	登録 番号	写真 院蔵
1	25号土坑	2	丸瓦	34.6 57.4	16.1 51.3	13.2(15) 39.2 (11.4)	1.8 51.8	-	-	内面: 7.5YR4/2 凸面: 2.5Y4/1	内面: 粘土細粒・布目織 凸面: 細甲子→口クロナサ 周縁: ヘラ書き	内面: ヘラ書き	F-054 39-1 102
2	25号土坑	2	平瓦	27.3+	-	17.9 (22.7)	2.5	-	-	内面: 7.5YR4/2 凸面: 7.5YR5/2	内面: 糸切り織→布目織 凸面: 細甲子 周縁: 細面・鉄線織ヘラケズリ	内面: 押山	G-173 39-2 99
3	25号土坑	2	平瓦	30.0+	17.7 (25.2)	-	2.7	-	-	内面: 2.5Y5/1 凸面: 10YR5/1	内面: 布目織 凸面: 細甲子 周縁: 細面・北堀跡ヘラケズリ	内面: ヘラ書き	G-174 39-3 101

第140図 25号土坑出土遺物



番号	遺物名	群位	種別	最大長 (cm)	広幅幅 (cm)	狭幅幅 (cm)	厚さ (cm)	瓦当部 長(cm)	瓦当部 厚さ(cm)	色調	成形・調整	備考	登録 番号	写真 図版
1	ビッド1	1	平瓦	38.8	21.5 (27.6)	22.2 (22.6)	2.4	-	-	内面：10YR5/1 凸面：10YR5/1	内面：糸切り器→布目織→擦ナデ 凸面：刷平き 織目 両縁：ヘラケズリ→刷目・広幅部圧痕 織目	凸面：方形圧痕	G-175	39-4

第141図 ビッド1出土遺物

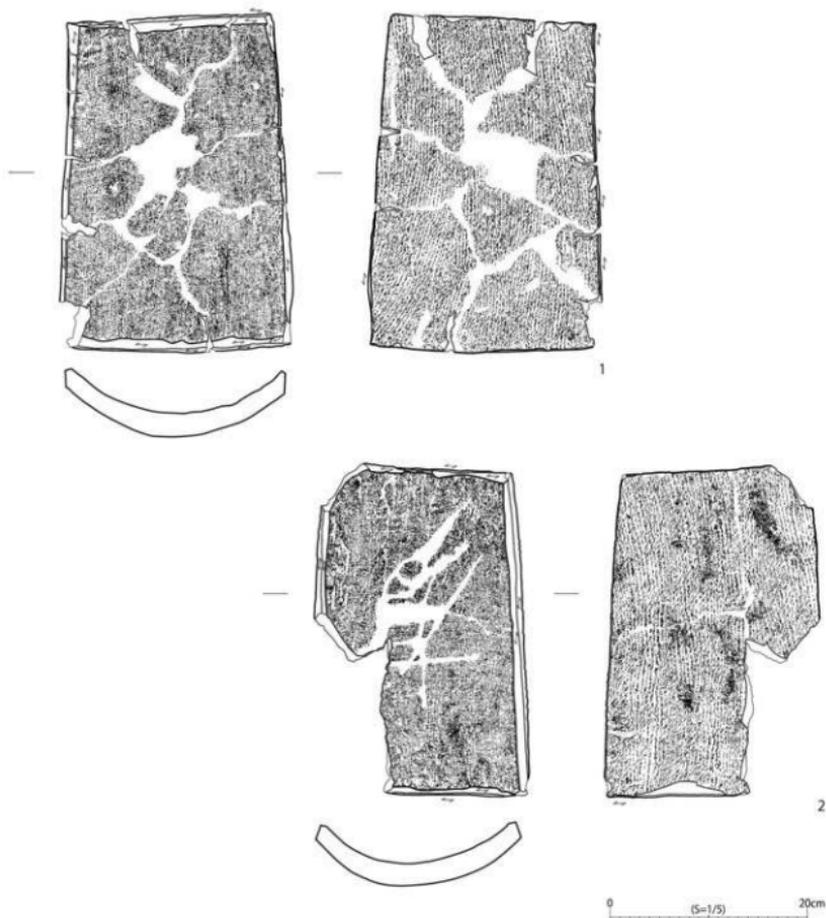
182点、8号窯跡で4点、9号窯跡で25点、10号窯跡で22点出土している。そのほかの遺構からは、1号窯跡排水溝(2号溝)で183点、3号窯跡排水溝(3号溝)で143点、1号灰原で172点、1号溝で1点、11号土坑で41点、13号土坑で157点、14号土坑で65点、15号土坑で47点、16号土坑で6点、17号土坑で5点、19号土坑で39点、20号土坑で8点、21号土坑で1点、22号土坑で5点、25号土坑で4点、瓦集中部2で8点、瓦集中部4で4点、瓦集中部5で1点、瓦集中部6で17点、瓦集中部7で3点、瓦集中部8で227点、瓦集中部9で1点、瓦集中部10で10点、瓦集中部11で3点、谷で250点、表土で4,119点出土している。

〔軒平瓦〕

新堤地区から出土した軒平瓦は破片総破片数が17点で、15点図示した。瓦類全体の0.05%である。今回与兵衛沼窪跡で出土した軒平瓦は瓦当文様により4種に分類され、重弧文をⅠ類、均整唐草文をⅡ類、連符文をⅢ類、単波文をⅣ類とした。そのうち新堤地区では、Ⅰ～Ⅳ類が出土している。窯内からは、3号窯跡で3点、8号窯跡で1点出土している。その他の遺構からは、1号灰原で1点、15号土坑で1点、谷で4点、表土で7点出土している。

軒平瓦Ⅰ類

重弧文軒平瓦である。8号窯跡の南側壁の構築材として用いられていたものである(第103図1)。ヘラ描きにより二重弧文を施している。平瓦部は、1枚作り、凸面縄タタキ、凹面ナデ調整の瓦である。瓦当部と平瓦との接着方法は、平瓦に頸部をのせ叩いて接着している。頸部の縄タタキは横位で、平瓦部との境を2本のヘラ描き沈線区画し、ヘラ描き鋸歯文を施している。

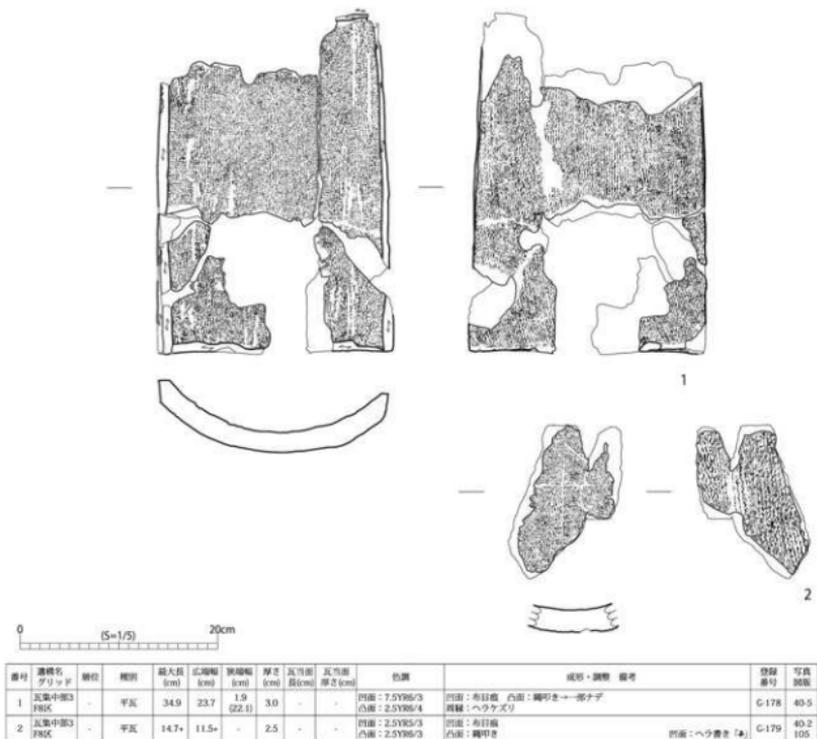


番号	遺物名 フリッド	種類	種類	最大長 (cm)	広幅幅 (cm)	狭幅幅 (cm)	厚さ (cm)	瓦当面 長さ(cm)	瓦当面 厚さ(cm)	色調	産地・産地 備考	登録 番号	写真 図版
1	瓦集中部2 P96K	-	平瓦	34.8 (23.7)	22.6 (23.7)	20.8	2.5	-	-	凹面：2.5YR5/2 凸面：2.5YR5/2	凹面：赤切り土→赤目土→一部ナゾ 凸面：陶甲き 凹面：ヘラ書き「井」	G-176	40-1 101
2	瓦集中部2 P96K	-	平瓦	34.1 (22.3)	13.2 (22.3)	14.6 (19.0)	2.4	-	-	凹面：10YR5/1 凸面：10YR5/1	凹面：赤切り土→赤目土→一部ナゾ 凸面：陶甲き 凹面：ヘラ書き「有」	G-177	40-3 102

第142図 瓦集中部2出土遺物

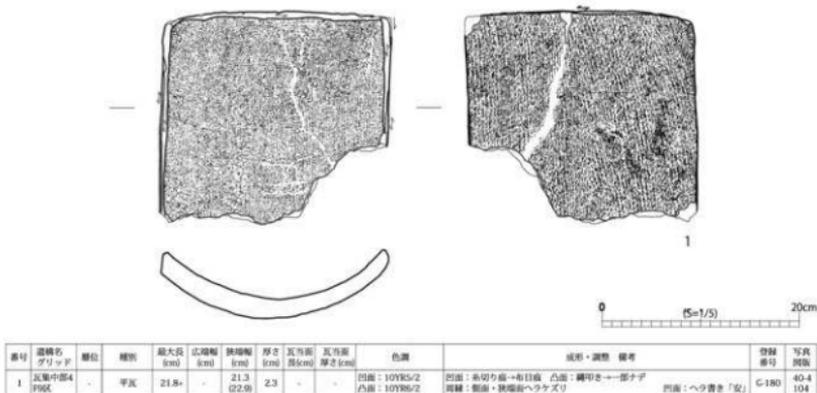
軒平瓦Ⅱ類

均整唐草文軒平瓦である。15号土坑で1点、表土で4点の合計5点が出土している（第126図2、第153図7・8、第154図1・2）。范によって瓦当面に施文された軒平瓦である。文様を囲む線が上下2線で、左右2線のものをa、上下1線で左右2線のものをbとした。ここで出土したものは、文様を囲む線が上下は1線のもので、左右については欠損のため不明である。顎面が残存しているものは、すべてヘラ描きによって平瓦部との境を沈線でご画し、鋸歯文を施している。顎部と平瓦の接着方法は、平瓦に斜格子ヘラキザミを入れ、貼り付けて叩いているも



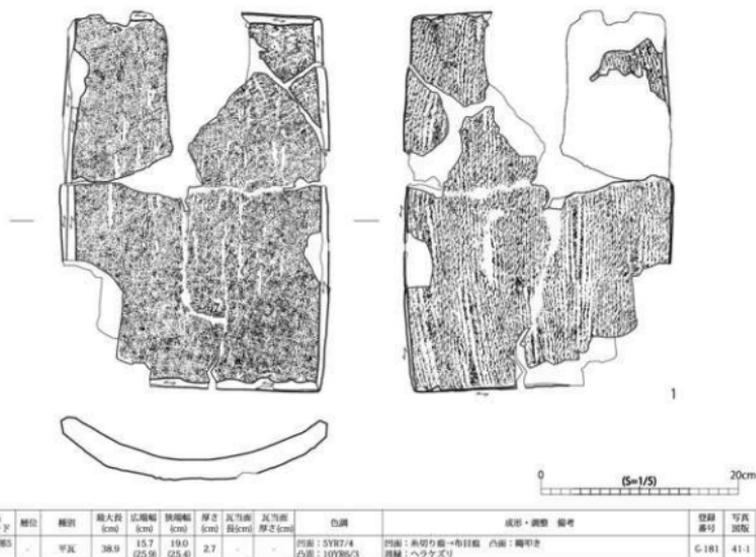
番号	遺物名 フリット	群位	種類	最大長 (cm)	広幅幅 (cm)	狭幅幅 (cm)	厚さ (cm)	瓦当面 長(cm)	瓦当面 厚さ(cm)	色調	成形・調整 備考	登録 番号	写真 図版
1	瓦集中部3 FR区	-	平瓦	34.9	23.7	1.9 (22.1)	3.0	-	-	凹面：7.5YR6/3 凸面：2.5YR8/4	凹面：布目織 凸面：縄目織→一部ナデ 両縁：ヘラケズリ	G-178	40-5
2	瓦集中部3 FR区	-	平瓦	14.7*	11.5*	-	2.5	-	-	凹面：2.5YR5/3 凸面：2.5YR6/3	凹面：布目織 凸面：縄目織	G-179	40-2 105

第143図 瓦集中部3出土遺物



番号	遺物名 フリット	群位	種類	最大長 (cm)	広幅幅 (cm)	狭幅幅 (cm)	厚さ (cm)	瓦当面 長(cm)	瓦当面 厚さ(cm)	色調	成形・調整 備考	登録 番号	写真 図版
1	瓦集中部4 FR区	-	平瓦	21.8*	-	21.3 (22.9)	2.3	-	-	凹面：10YR5/2 凸面：10YR6/2	凹面：糸切り織→布目織 凸面：縄目織→一部ナデ 両縁：細面・狭幅面ヘラケズリ	G-190	40-4 104

第144図 瓦集中部4出土遺物



第145図 瓦集中部5出土遺物

のを1点確認している。頸部の縄タタキは、縦位でナデ消さないものが1点、横位でナデ消されるものが2点確認できる。多くが融着している。

軒平瓦Ⅲ類

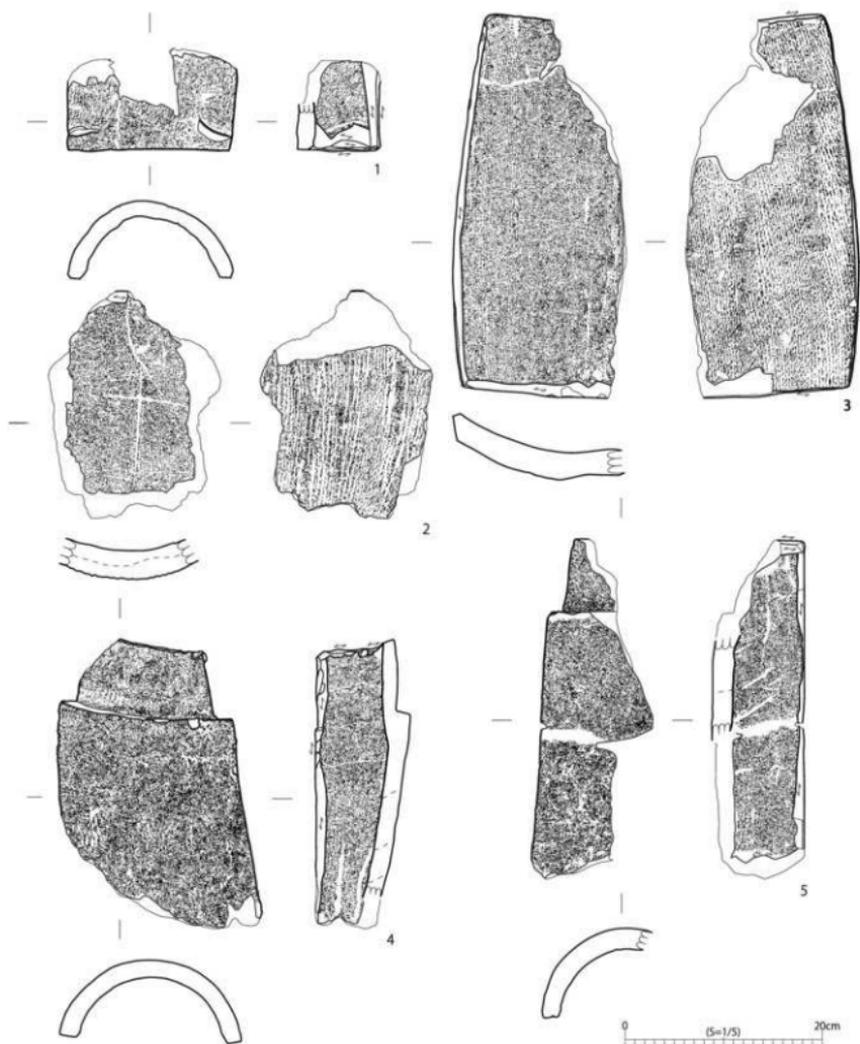
連符文軒平瓦である。谷で2点出土し、1点図示した(第151図5)。范によって瓦当文様を施した軒平瓦である。3ヶの珠文を左下から降線で結んだものを並べている。范は瓦当面より一回り小さい。瓦当面は、無調整で横位の縄タタキ目を残している。頸面も無調整で、縦位の縄タタキ目を残し、無文である。凹面には、ヘラ描きによって2本の沈線が施される。

軒平瓦Ⅳ類

単波文軒平瓦である。3号窯跡で3点、谷で2点、表土で1点の合計6点が出土し、5点図示した(第64図3、第65図1、第151図6・7、第153図6)。ヘラ描きにより波状文を施した軒平瓦である。鋸歯文に近いものも2点ある。瓦当面は、無調整で縦位の縄タタキ目を残すもの、一部ヘラナデ調整によって縄タタキ目をナデ消しているが横位の縄タタキ目を残すもの、全面をヘラケズリ調整するものみられる。頸面・平瓦部凸面は一部がナデ消されるものの縦位の縄タタキ目を残すものが多い。頸面にヘラ描きによって波状文を施すもの、凹面にヘラ描きによって沈線が施されるものもある。

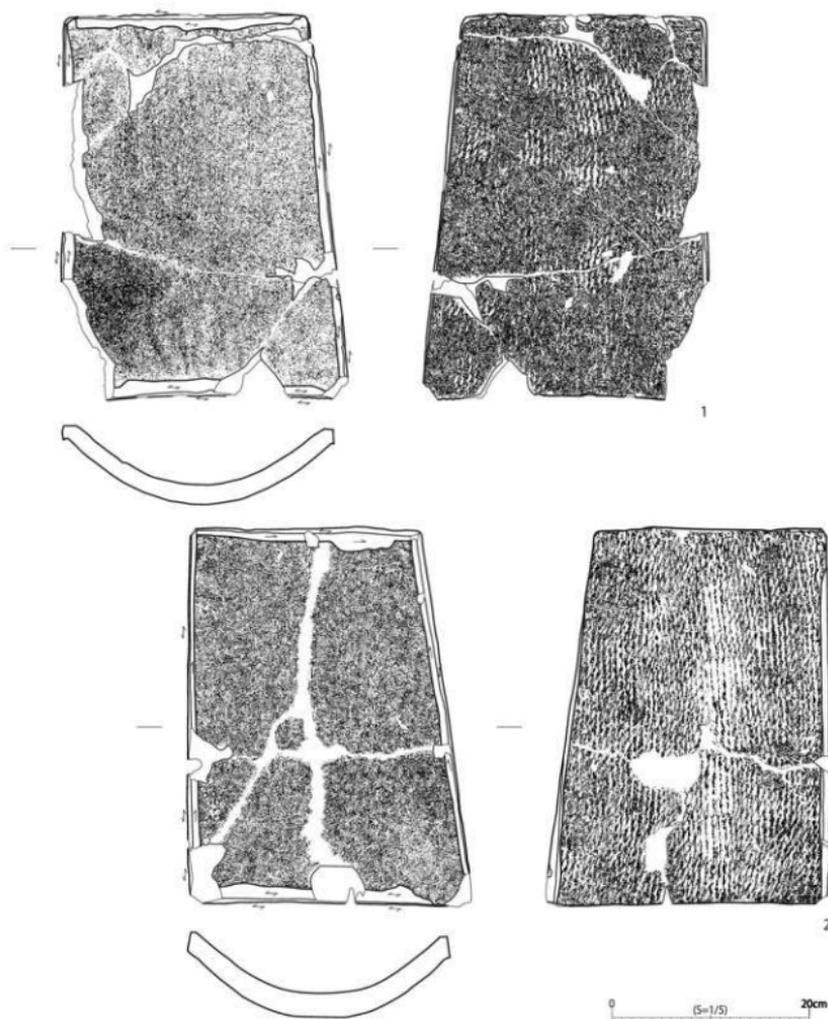
[平瓦]

1枚作りの平瓦である。今回兵衛沼窯跡で出土した平瓦は、成形調整により4種に分類できる。Ⅰ類は凸面：縄タタキのち布目・平行タタキ、凹面：布目のちナデ、Ⅱ類は凸面：縄タタキのち布目・縄タタキ・ナデ、凹面：布目のちナデ、Ⅲ類は凸面：縄タタキのち凹形台痕・タタキツブレ、凹面：布目のちナデ、Ⅳ類は凸面：縄タタキ、凹面：布目である。新堤地区ではⅢ類・Ⅳ類が出土している。平瓦は総破片数が29,480点を数え、201点図示し



番号	遺物名 フリッド	部位	形状	最大径 (cm)	広径幅 (cm)	狭径幅 (cm)	厚さ (cm)	瓦当面 長(cm)	瓦当面 厚さ(cm)	色調	形状・調整 備考	登録 番号	写真 図版	
1	瓦集中部6 B5K	-	丸瓦	10.5 5	16.3 5	-	1.8 5	-	-	内面：5YR6/4 凸面：5YR6/4	内面：粘土結晶→布目織 凸面：粘土結晶→糊印き→ロクロナデ	両縁：側面・広縁面へラケズリ	F-005	41.2
2	瓦集中部6 B5K	-	平瓦	23.2 5	-	1.3 5	3.0 5	-	-	内面：5YR6/4 凸面：5YR6/4	内面：布目織→一部ナデ 凸面：糊印き 両縁：狭縁面へラケズリ	断面：たたら粘土貼り合せ織 内面：へラケズリ	G-307	41.3 105
3	瓦集中部6 B5K	-	平瓦	39.2	14.8	5.4	2.8	-	-	内面：7.5YR6/4 凸面：7.5YR6/3	内面：糸切り織→布目織 凸面：糊印き	両縁：へラケズリ	G-182	41.4
4	瓦集中部6 B5K	-	丸瓦	19.6 37.5	17.4 39.8 (11.5)	-	1.8 31.5	-	-	内面：2.5Y5/1 凸面：2.5Y5/1	内面：粘土結晶→布目織 凸面：糊印き→ロクロナデ	両縁：側面・狭縁面へラケズリ→土敷	F-059	43.2
5	瓦集中部7 B5K	-	丸瓦	34.2 37.5	6.7 32.6	-	2.2 5	-	-	内面：7.5YR5/1 凸面：N5/0	内面：粘土結晶→布目織 凸面：糊印き→ロクロナデ	両縁：側面・狭縁面へラケズリ	F-057	41.6

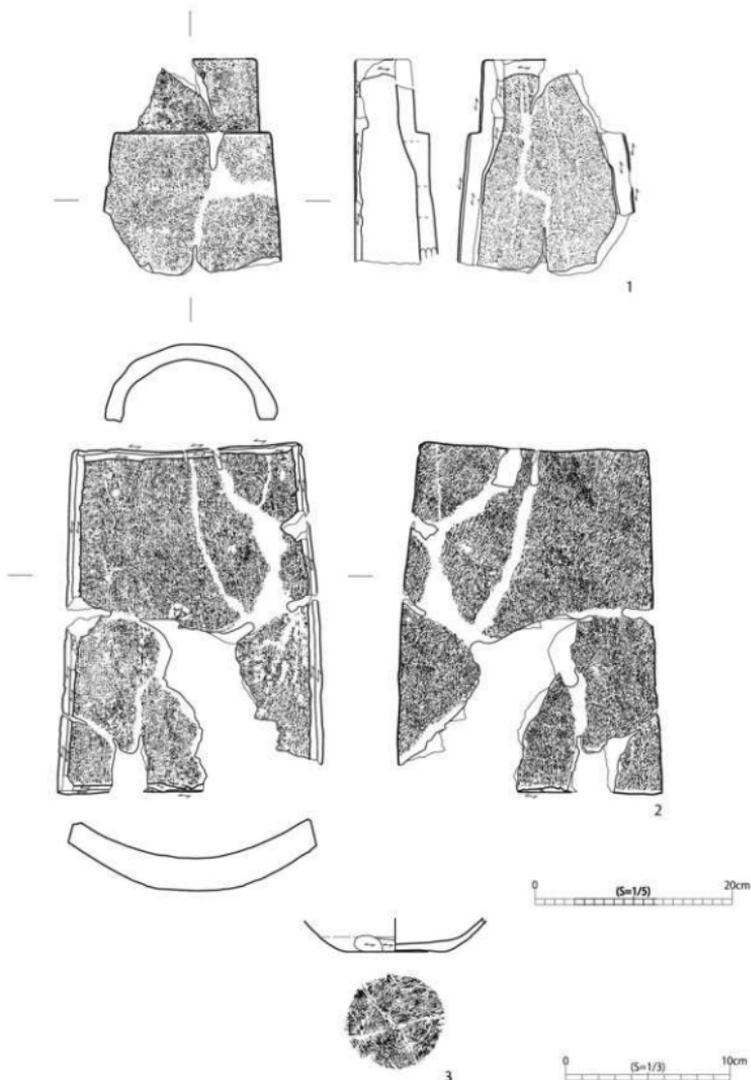
第146図 瓦集中部6・7(1)・9出土遺物



番号	遺物名 グリッド	解位	種類	最大長 (cm)	広さ幅 (cm)	前後幅 (cm)	厚さ (cm)	瓦当面		色調	形状・調整 備考	登録 番号	写真 図版
								瓦当面 長さ(cm)	厚さ(cm)				
1	瓦集中部7 B0K	-	平瓦	39.4 (29.3)	23.0 (29.3)	24.9	2.0	-	-	凹面：2.5Y6/1 凸面：10Y8/1	凹面：糸切り歯→布目歯→ナデ 凸面：糸切り歯→輪甲き 凹型台庄底 縁縁：ヘラケズリ	G-183	42-1
2	瓦集中部7 B0E	-	平瓦	38.9	28.0 (28.8)	23.0 (23.5)	2.5	-	-	凹面：84/0 凸面：84/0	凹面：布目歯→一帯ナデ 凸面：輪甲き 凹型台庄底 縁縁：ヘラケズリ	G-184	42-2

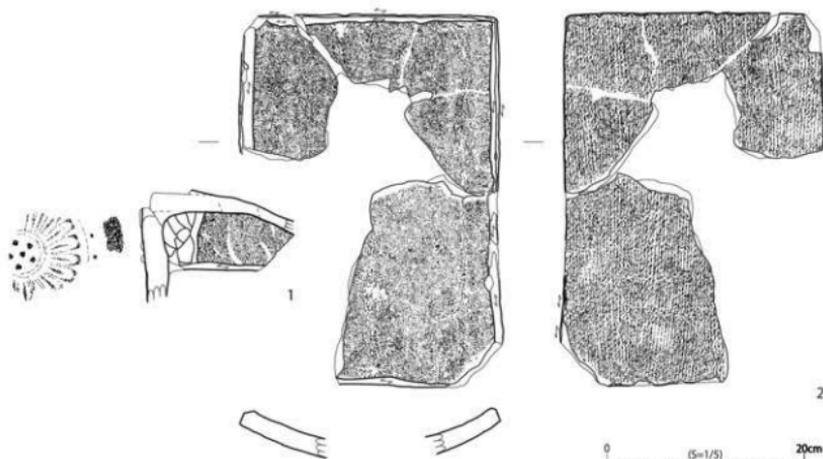
第147図 瓦集中部7出土遺物(2)

た。瓦類全体の80.9%を占めている。室内からは、1号窯跡で2,613点、3号窯跡で2,510点、4号窯跡で24点、5号窯跡で138点、6号窯跡で467点、7号窯跡で34点、8号窯跡で56点、9号窯跡で57点、10号窯跡で41点出土している。そのほかの遺構からは、1号窯跡排水溝(2号溝)で628点、3号窯跡排水溝(3号溝)で599



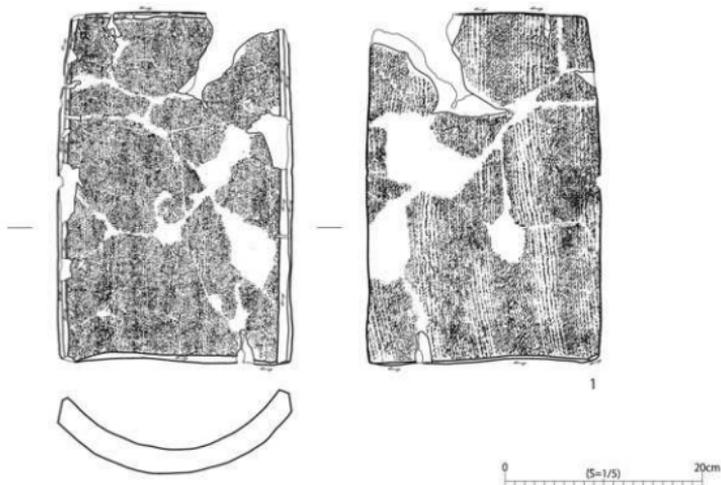
番号	遺構名 グリッド	層位	種類	最大長 (cm)	広幅幅 (cm)	狭幅幅 (cm)	厚さ (cm)	瓦当面 長さ(cm)	瓦当面 厚さ(cm)	色調	成形・調整	備考	登録 番号	写真 掲載
1	瓦集中部8 P05C	-	丸瓦	22.0 37.4	15.8 13.4	15.8 16.4	1.6 1.6	-	-	内面：7.5Y06/4 凸面：7.5Y05/4	内面：粘土類焼・布目織 凸面：陶印キ→ロクロナデ 内面：陶土・羽織焼ヘラケズリ	内面：へろ書き(1)	F-058	43-1 104
2	瓦集中部8 P05C	-	平瓦	34.9	14.7 (26.7)	23.1	3.2	-	-	内面：5Y05/4 凸面：5Y05/4	内面：布目織・布目織 凸面：陶印キ→へろナデ 内面：へろケズリ	内面：評定造へろ書き解説不明	G-185	43-3 09
番号	遺構名 グリッド	層位	種類	口径 長さ(cm)	底径 幅(cm)	胴高 厚さ(cm)	長さ (g)			色調	成形・調整	備考	登録 番号	写真 掲載
3	瓦集中部8 P05C	-	土師器 埴	-	0.0	0.0	0.0	-	-	外面：7.5Y06/3 内面：7.5Y05/3	外面：ロクロナデ→下層一部手締ヘラケズリ 底面：回転糸切り		D-011	43-5

第148図 瓦集中部8出土遺物



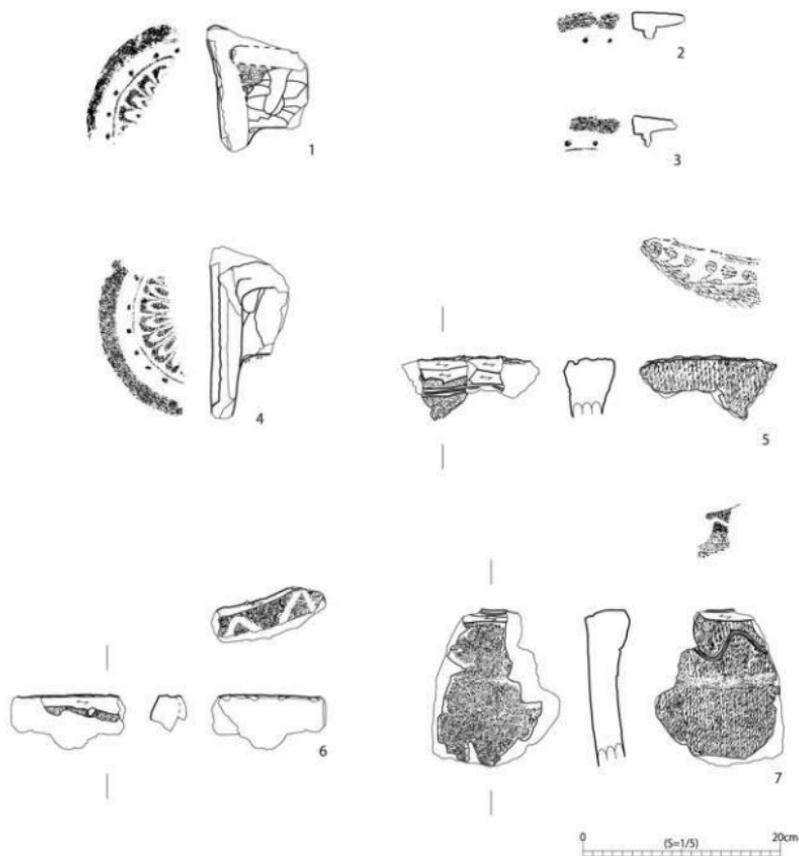
番号	遺構名 グリッド	層位	種別	最大径 (cm)	広域幅 (cm)	狭域幅 (cm)	厚さ (cm)	瓦当面 長さ(cm)	瓦当面 厚さ(cm)	色調	成形・調整	備考	登録 番号	写真 掲載
1	瓦集中部 10 B区	-	軒丸瓦	15.7*	-	-	-	9.9*	2.7	瓦当面表: 10YR 5/1 瓦当面裏: 5Y 6/1 内面: 2.5Y 5/1 凸面: 2.5Y 5/1	瓦当面: 削 瓦当面裏面: ナデ 内面: 動土跡・布目織→ユビナデ 凸面: ヘラナデ 側面: ヘラタテリ		F-060	43-6
2	瓦集中部 10 B区	-	平瓦	38.0	10.8 (23.9)	24.3 (25.6)	1.9	-	-	内面: 7.5R5/1 凸面: 7.5R5/1	内面: 布目織 凸面: 刷甲き 側面: ヘラタテリ		G-186	43-3

第149図 瓦集中部10出土遺物



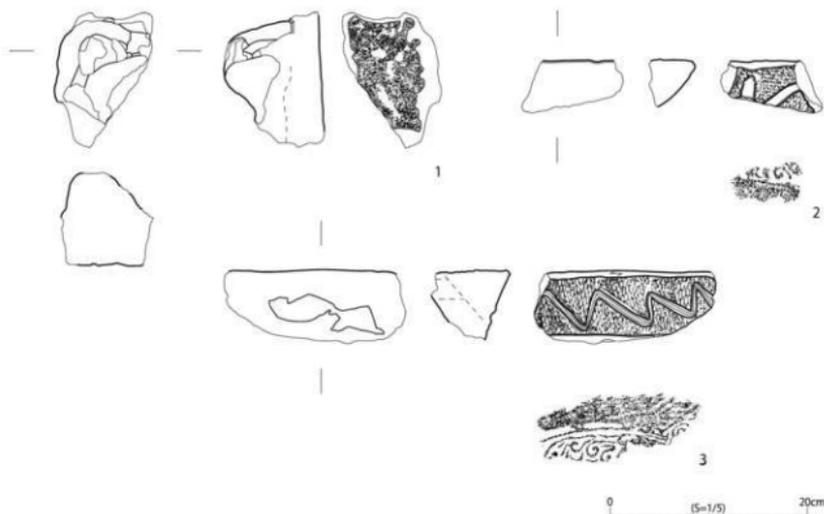
番号	遺構名 グリッド	層位	種別	最大径 (cm)	広域幅 (cm)	狭域幅 (cm)	厚さ (cm)	瓦当面 長さ(cm)	瓦当面 厚さ(cm)	色調	成形・調整	備考	登録 番号	写真 掲載
1	瓦集中部 11 B区	-	平瓦	36.0	23.3 (21.6)	12.3	2.7	-	-	内面: 7.5YR5/1 凸面: 7.5YR5/1	内面: 布目織→一部ナデ 凸面: 刷甲き 側面: ヘラタテリ	内面: ヘラタテリ「特」	G-187	43-4 102

第150図 瓦集中部11出土遺物



番号	遺物名 フリッド	部位	形状	最大径 (cm)	広縁幅 (cm)	狭縁幅 (cm)	厚さ (cm)	瓦当面 径(cm)	瓦当面 厚さ(cm)	色調	成形・調整 備考	登録 番号	写真 図版
1	鉢	6	軒丸瓦	10.3+	-	-	12.9	2.6	瓦当面表: 10YR6/1 瓦当面裏: 2.5Y6/1 凹面: 10YR6/1 凸面: 10YR6/1	瓦当面: 箱 瓦当面裏: ナナデ 凹面: 舟目直+ナナデ 凸面: ヘラナデ 肩線: 側面ヘラケズリ	F-001	43.7	
2	鉢	3	軒丸瓦	5.3+	6.5+	-	2.8-	-	瓦当面表: 2.5Y6/1 凸面: 10YR6/1	瓦当面裏: 箱 瓦当面裏: 印籠つぎ 凸面: ヘラナデ 凸面: ヘラナデ 肩線: 側面ヘラケズリ	F-002	43.8	
3	鉢	3	軒丸瓦	4.5+	-	-	3.3-	-	瓦当面表: 10YR6/1 凸面: 10YR6/1	瓦当面裏: 箱 瓦当面裏: 印籠つぎ 凸面: ヘラナデ	F-003	43.9	
4	鉢	3	軒丸瓦	7.8+	-	-	17.5 (19.9)	3.1	瓦当面表: N6/0 瓦当面裏: N6/0 凹面: N5/0 凸面: N6/0	瓦当面裏: 箱 瓦当面裏: 印籠つぎ+ヘラナデ 凹面: ヘラナデ 凸面: ヘラナデ 肩線: 側面ヘラケズリ	F-004	43.10	
5	鉢	6	軒平瓦	6.3+	11.5+	-	4.7+	4.7	瓦当面: 5Y 3/1 凹面: 10YR 4/1 凸面: 10YR 4/1	瓦当面: 輪印キ一叩 凹面: 輪印キ 凸面: 舟目直+ヘラ目直+紋線 肩線: ヘラケズリ	G-188	43.11	
6	鉢	6	軒平瓦	5.4+	11.1+	-	2.4	-	瓦当面: 10R 5/1 凹面: 10R 5/1	瓦当面: ヘラケズリ+ヘラ目直+紋線 凹面: 欠面 凹面: 舟目直 肩線: ヘラケズリ	G-189	43.12	
7	鉢	6	軒平瓦	16.1+	5.6+	-	4.1	2.7	瓦当面: 2.5Y 5/1 凹面: 10R 4/1 凸面: 10R 4/1 凸面: 5YR 4/1	瓦当面: 輪印キ+ヘラナデ+ヘラ目直+紋線 凹面: 輪印キ+ヘラ目直+紋線 凹面: 舟目直+一叩ナデ 凸面: 輪印キ+ナナデ 肩線: ヘラケズリ 凹面: ヘラケ目無縁不明	G-190	43.13 100	

第151図 谷出土遺物(1)



番号	遺物名 グリッド	層位	種類	最大径 (cm)	広幅幅 (cm)	狭幅幅 (cm)	厚さ (cm)	瓦当面 長(cm)	瓦当面 厚さ(cm)	色調	成形・調整 備考	登録 番号	写真 図版
1	谷	6	瓦瓦	13.9	9.4	-	9.8	-	-	表面：10YR6/3 裏面：10YR5/3	表面：ナデ・ヘラ工具痕 裏面：ハケメツテダ	部位：左端	H019 44-1
2	谷	6	棟平瓦	4.7	-	-	-	5.6	-	瓦当面：10YR 4/1 裏面：7.5YR 5/1	瓦当面：編甲キ一筋 裏面：編甲キ一ヘラ跡		H020 44-2
3	谷	6	棟平瓦	7.9	17.9	-	-	7.3	-	瓦当面：NS-0 裏面表：NS-0 裏面裏：NS-0	瓦当面：編甲キ一筋(二重押し) 裏面：編甲キ一ヘラ跡(縦状文) 裏面裏：ナデ		H021 44-3

第152図 谷出土遺物(2)

点、1号灰原で773点、1号溝で3点、3号土坑で5点、4号土坑で3点、6号土坑で3点、11号土坑で173点、12号土坑で10点、13号土坑で581点、14号土坑で286点、15号土坑で167点、16号土坑で48点、17号土坑で121点、18号土坑で12点、19号土坑で108点、20号土坑で61点、21号土坑で3点、22号土坑で29点、25号土坑で41点、ビット1で2点、瓦集中部1で30点、瓦集中部2で184点、瓦集中部3で142点、瓦集中部4で7点、瓦集中部5で31点、瓦集中部6で179点、瓦集中部7で29点、瓦集中部8で208点、瓦集中部9で11点、瓦集中部10で66点、瓦集中部11で40点、谷で1,386点、表土で17,571点出土している。

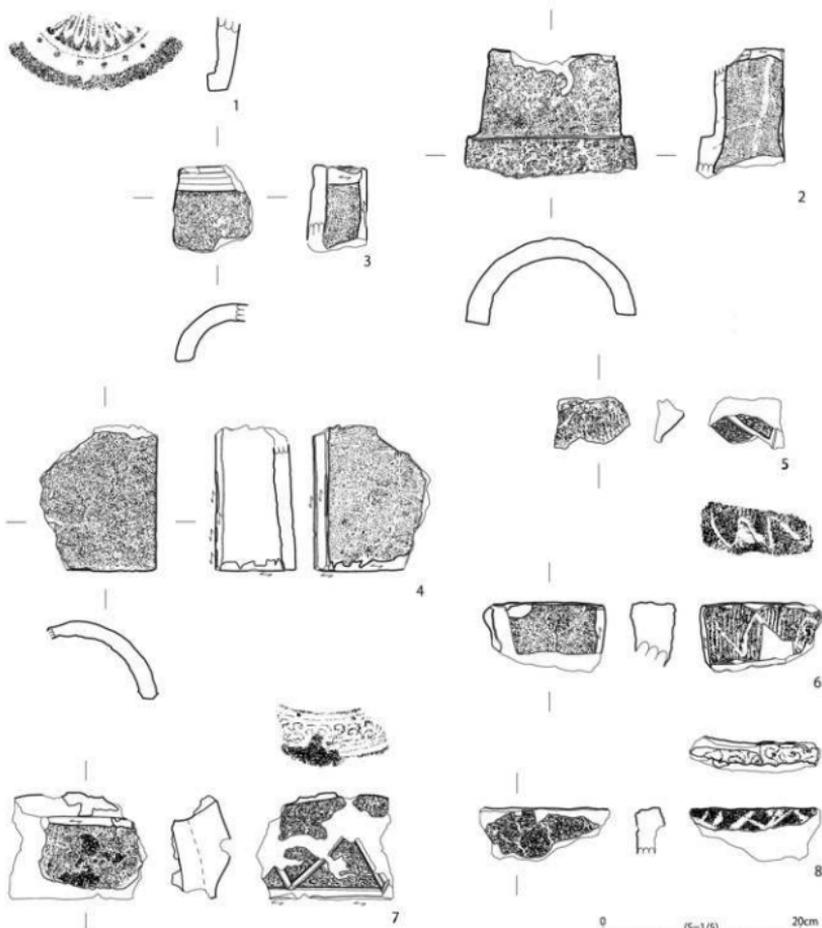
Ⅲ類は、7・8号窯跡、1号灰原、14～16・18号土坑、瓦集中部7、谷、表土から出土している。14号土坑では凸面に方形突出のあるもの、17号土坑・ビット1では凸面に方形圧痕のあるものがみられる。また、多くの瓦の周縁に円形や棒状の圧痕がみられる。

〔道具瓦〕

道具瓦は総破片数58点出土した。棟平瓦20点、鬼瓦36点、隅切瓦2点で、瓦類全体の0.2%を占めている。窯内からは、1号窯跡で4点、3号窯跡で9点出土している。その他の遺構からは、1号窯跡排水溝(2号溝)で6点、3号窯跡排水溝(3号溝)で12点、谷で3点、表土で23点出土している。

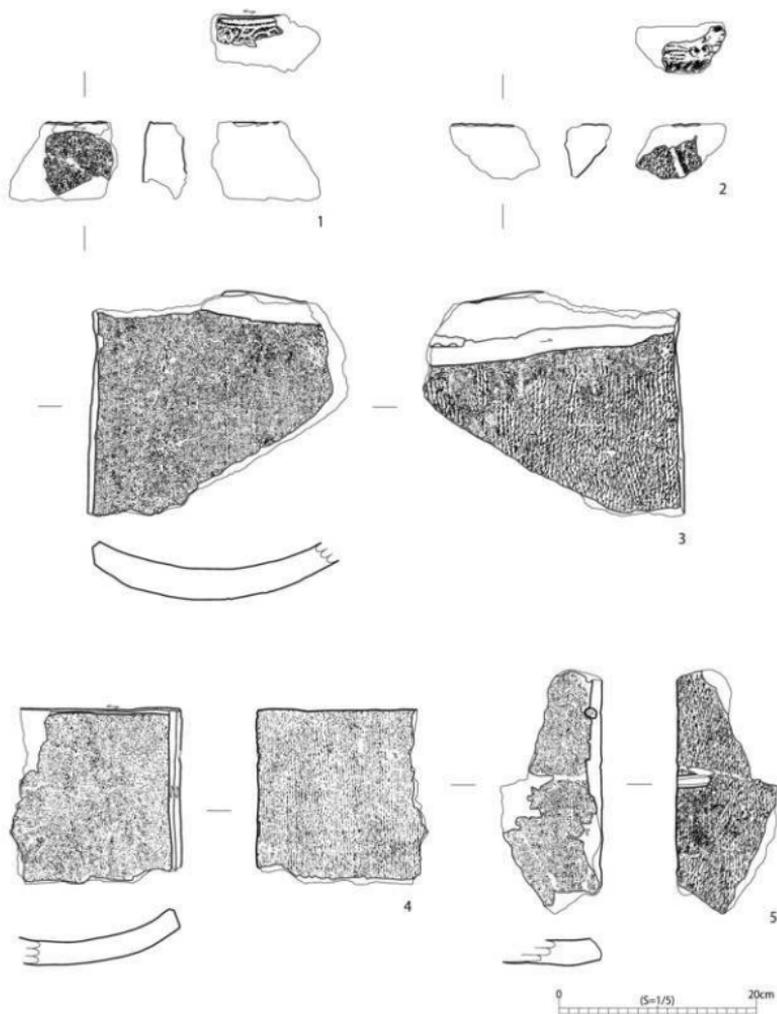
棟平瓦

棟平瓦は20点出土し、12点図示した(第41図1・3、第79図2～4、第80図2・第136図2、第152図2・3、第158図5～7)。1号窯跡で4点、3号窯跡で5点、20号土坑で1点、谷で2点、表土で8点出土している。



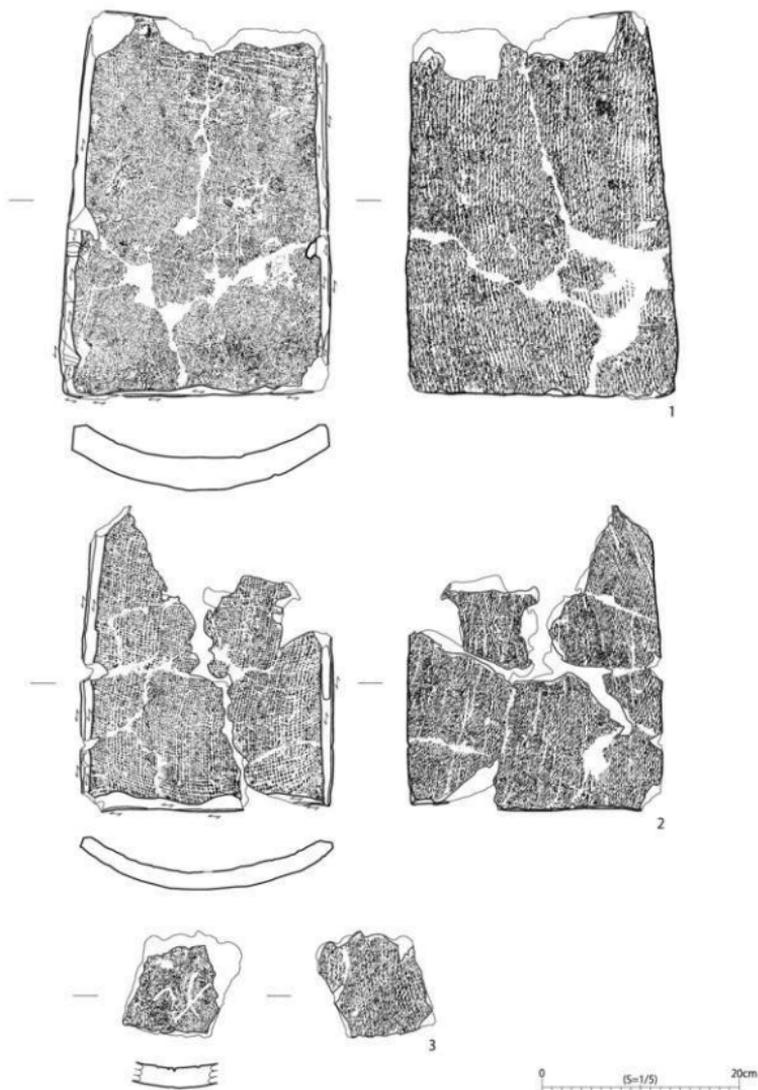
番号	遺構名 グリッド	層位	種類	最大径 (cm)	広幅幅 (cm)	狭幅幅 (cm)	厚さ (cm)	瓦当面 長さ(cm)	瓦当面 厚さ(cm)	色調	説明・調査 備考	登録 番号	写真 図版
1	C3K	表土	軒瓦瓦	-	-	-	-	7.5+	2.2	瓦当面表: 2.5Y 6/1 瓦当面裏: 2.5Y 6/1	瓦当面表: 瓦。瓦縁ヘラケズリーナデ 瓦当面裏: ヘラケズリーナデ	F065	44.4
2	C3K	埋戻 木炭	丸瓦	13.4- 19.0	14.7	16.6 112.4	2.4 1.1	-	-	内面: N4/O 凸面: N5/O	内面: 粘土結核・布目織 凸面: 網印キ→ロクロナデ	F066	44.7
3	F7K	表土	丸瓦	8.8- 14.9	5.2- 5.5	6.2- 34.2+	1.9 1.8	-	-	内面: 5YR5/1 凸面: 10R5/2	内面: 粘土結核→布目織 凸面: 網印キ→ロクロナデ、小丸はナデで段差を 形成。瓦縁: ヘラケズリ	F067	44.5
4	G7K	表土	丸瓦	14.9- 21-	8.7- 3-	8.7- 34.2+	1.8 3-	-	-	内面: 10Y 8.5/1 凸面: 10YR5/1	内面: 粘土結核・布目織、凸面: 網印キ→ロクロナデ 内面: 網印キ→ヘラケズリ	F068	44.6 106
5	F7K	表土	軒平瓦	5.2+	7.2+	-	-	0.9+	-	側面: 10YR 6/1	側面: 網印キ→ナデケンヘラケズリ 内面: 欠損。網印キ転写	G191	44.10
6	F6K	表土	軒平瓦	7.2+	11.2+	-	-	4.5	-	瓦当面: 2.5YR4/1 側面: 2.5YR4/1 凸面: 5YR4/2	瓦当面: 網印キ→ヘラケズリ 側面: 網印キ→ヘラケズリ 凸面: 赤切り織・布目織。瓦縁: 網印ヘラケズリ	G192	44.8
7	C3K	表土	軒平瓦	10.9+	12.3+	-	-	5.3	-	瓦当面: 10YR5/1 側面: 10YR5/1 凸面: 10YR5/1	瓦当面: 瓦。網印 側面: 網印キ→ナデケンヘラケズリ 凸面: 自然釉 内面: 布目織。自然釉・網印	G193	44.9
8	C3K	表土	軒平瓦	5.5+	12.6+	-	2.8	2.0	-	瓦当面: 2.5YR/1 内面: N5/O 凸面: N5/O	瓦当面: 瓦。自然釉 内面: ナデ。自然釉 凸面: 欠損。側面との接合面にヘラケズリ。自然釉	G194	44.12

第153図 遺構外出土遺物(1)



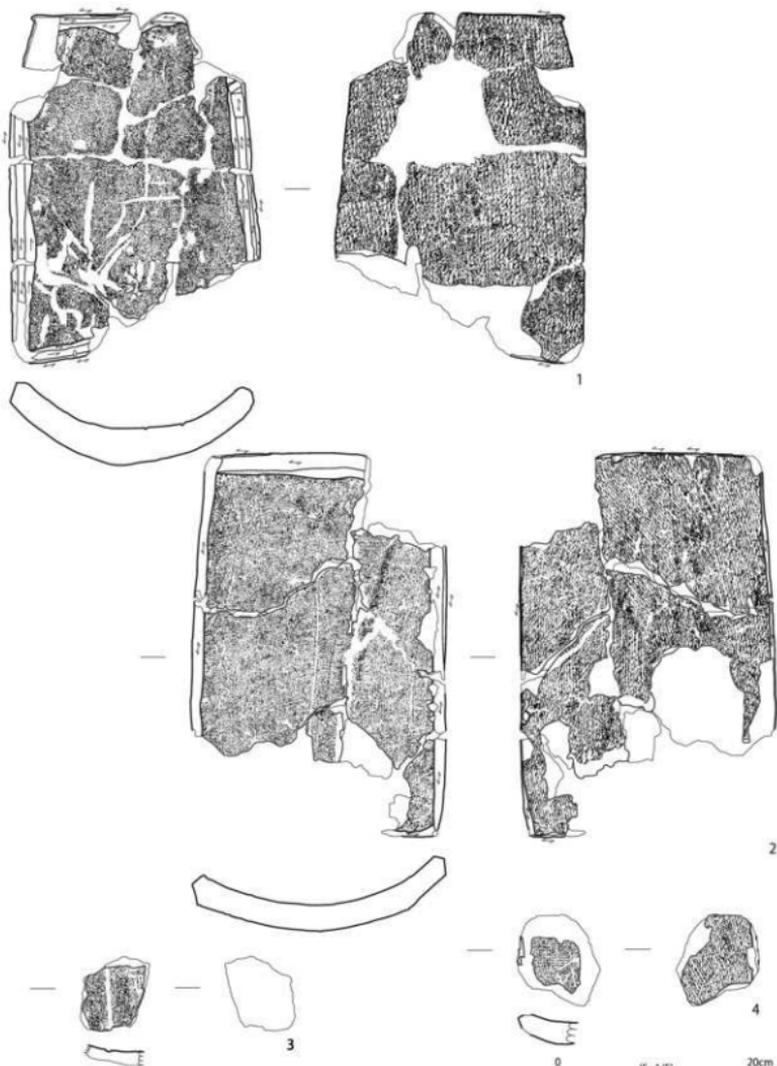
番号	遺構名 グリッド	層位	種別	最大径 (cm)	広径軸 (cm)	狭径軸 (cm)	厚さ (cm)	瓦当径 長(cm)	瓦当厚 寸(cm)	色調	成形・調査 備考	登録 番号	写真 図版	
1	C4K	表土	軒平瓦	8.1+	6.6+	-	-	2.4+	-	内面：7.5YR5/1 外面：10YR5/1 凸面：7.5YR5/1	瓦当面：用 内面：布目織→ナデ 凸面：無目織 瓦縁：ヘラケツリ	G-195	44-13	
2	F6K	表土	軒平瓦	5.8+	6.3+	-	-	4.2+	-	瓦当面：7.5YR5/1 側面：7.5YR5/1 内面：7.5YR5/1	瓦当面：刷甲金→用 側面：刷甲金→ヘラ刷き瓦縁 内面：刷甲	横平瓦の可能性あり	G-196	44-11
3	F7K	表土	軒平瓦	22.9+	21.0+	-	3.2+	-	-	内面：10YR5/1 凸面：3A/D	瓦当面：欠損 内面：布目織→刷合部ナデ 凸面：刷甲金→ヘラケツリ 瓦縁：刷甲ヘラケツリ	瓦面：刷付粘土残存	G-197	44-14
4	C5K	埋戻 木版	平瓦	18.0+	-	16.1+	2.5+	-	-	側面：10YR6/1 凸面：10YR6/1	内面：布目織→布目織 凸面：刷甲金 瓦縁：刷甲・鉄刷面ヘラケツリ	内面：ヘラ書き「のり」	G-198	44-15 104
5	C6K	表土	平瓦	24.9+	10.3+	-	2.6+	-	-	内面：10YR4/1 凸面：2.5Y 4/1	内面：布目織→布目織 凸面：刷甲金→一部ナデ 側面：粘土刷甲	内面：ヘラ書き 刷甲不明	G-199	44-16 105

第154図 遺構外出土遺物(2)



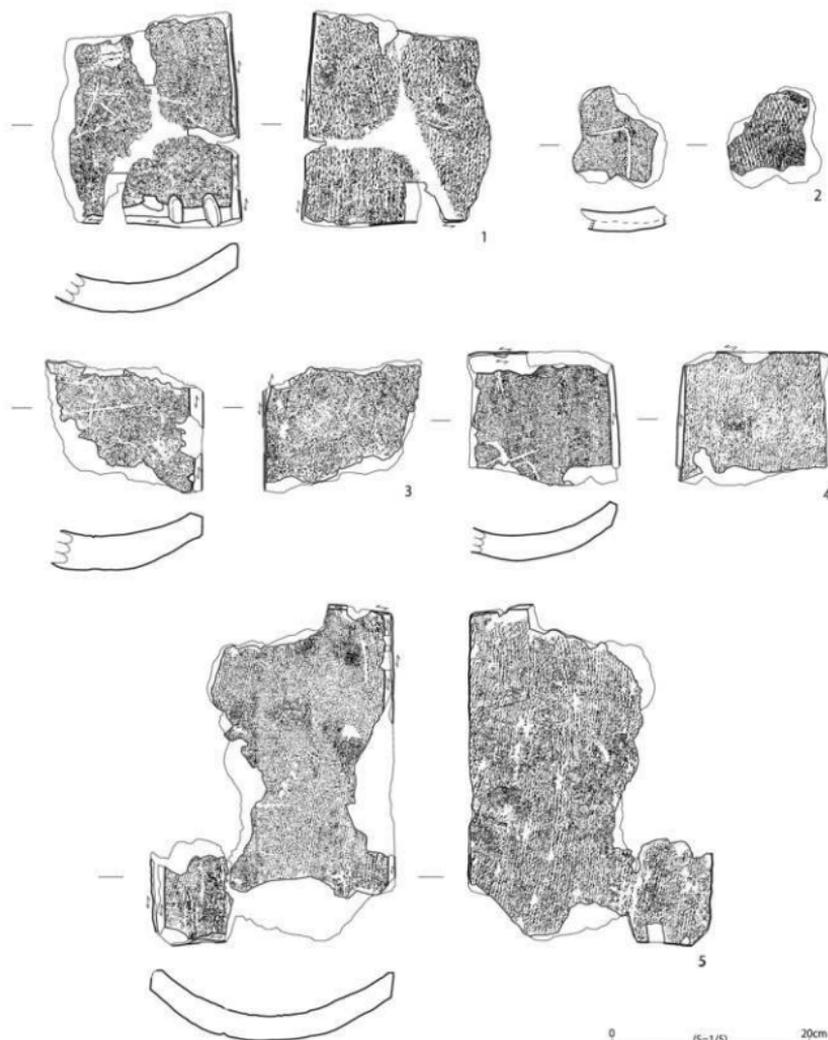
番号	遺構名 グリッド	層位	種別	最大長 (cm)	最大幅 (cm)	浅部幅 (cm)	厚さ (cm)	瓦当部 長(cm)	瓦当部 厚さ(cm)	色調	成形・調整 備考	登録 番号	写真 図版	
1	E7区	表土	平瓦	30.7	25.4 (27.3)	4.6 (23.16)	3.3	-	-	凹面：5YR6/4 凸面：2.5YR6/4	凹面：布目織 凸面：織りき 調整：ヘラケズリ→磨面直織	凹面：ヘラ磨き「サホ」	G-200	45-1 105
2	H6区	表土	平瓦	31.2+	23.4 (25.5)	-	2.1	-	-	凹面：2.5Y3/1 凸面：7.5YR5/2	凹面：布目織 凸面：織りき→一握ナデ 調整：ヘラケズリ→一握ナデ	凹面：ヘラ磨き調整不確	G-201	45-2 106
3	E7区	表土	平瓦	11.0+	12.1+	-	2.1	-	-	凹面：7.5YR6/3 凸面：5YR6/3	凹面：布目織 凸面：織りき 断面：丸たら転し取り合せ直	凹面：ヘラ磨き「丸」	G-202	44-17 103

第155図 遺構外出土遺物(3)



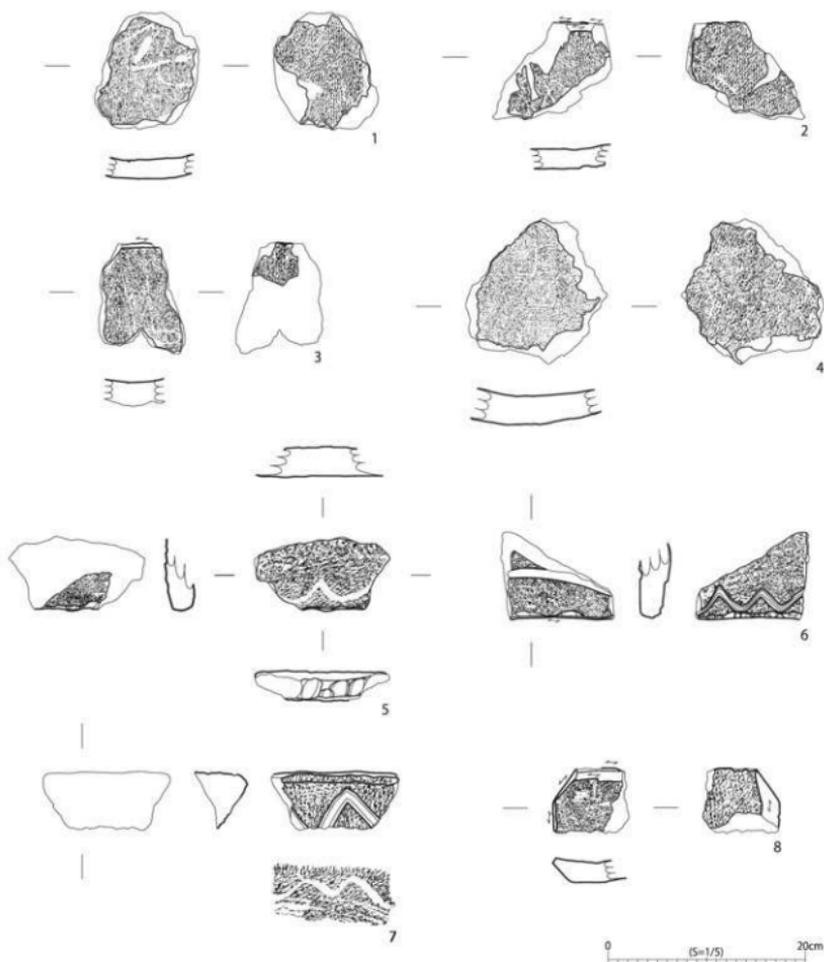
番号	遺構名 グリフ	層位	種類	最大長 (cm)	最大幅 (cm)	取付幅 (cm)	厚さ (cm)	瓦当径 長(cm)	瓦当厚 厚さ(cm)	色調	成形・調整 備考	登録 番号	写真 掲載	
1	E7K	表土	平瓦	35.8	5.7 (25.3)	12.7 (23.3)	3.8	-	-	凹面：5YR5/2 凸面：7.5YR5/1	凹面：布目織→一部子デ 調整：ヘラケズリ	凸面：糊印き→一部子デ	G-203	45-3 104
2	E8K	表土	平瓦	38.8	3.2 (25.3)	14.7 (22.4)	2.7	-	-	凹面：7.5YR5/3 凸面：7.5YR5/2	凹面：束切り織→布目織 調整：ヘラケズリ→刷毛・鉄線面圧痕	凸面：糊印き	G-204	46-1 104
3	E8K	表土	平瓦	7.4	6.1	-	1.4	-	-	凹面：2.5Y5/1 凸面：2.5Y5/1	凹面：布目織 凸面：欠損		G-205	46-2 106
4	E7K	表土	平瓦	9.1	8.2	-	2.3	-	-	凹面：10YR5/1 凸面：2.5 Y 5/1	凹面：布目織 調整：糊印き 調整：糊印き 調整：糊印き	凸面：糊印き 調整：糊印き 調整：糊印き	G-206	46-3 105

第156図 遺構外出土遺物(4)



番号	遺構名 グリッド	層位	種類	最大径 (cm)	広さ幅 (cm)	狭さ幅 (cm)	厚さ (cm)	瓦当径 長(cm)	瓦当径 厚さ(cm)	色調	成形・調整 備考	登録 番号	写真 図版	
1	F77K	表土	平瓦	221.1+	16.3+	-	3.2	-	-	凹面：10YR5/2 凸面：5YR6/1	凹面：舟目組→北端部ナデ 凸面：輪郭キ 溝縁：銀面・北端部ヘラケズリ→北端部注産 凹面：押目印 ヘラ書き「大」	G-207	46-5 100	
2	G6K	表土	平瓦	96+	7.4+	-	2.0	-	-	凹面：5YR5/2 凸面：5YR5/2	凹面：舟目組 凸面：輪郭キ→一部ナデ 断面：丸たらし彫り分岐産	凹面：ヘラ書き「乙」×2	G-208	46-4 104
3	H61K	表土	平瓦	13.6+	15.4+	-	3.7	-	-	凹面：10YR5/1 凸面：10YR5/1	凹面：舟目組 凸面：輪郭キ→一部ナデ 溝縁：銀面ヘラケズリ	凹面：ヘラ書き解説不明	G-209	46-6 106
4	H77K	表土	平瓦	13.7+	-	11.4+	2.6	-	-	凹面：7.5YR5/1 凸面：7.5YR5/1	凹面：舟目組 凸面：輪郭キ→一部ナデ 溝縁：銀面・北端部ヘラケズリ	凹面：ヘラ書き解説不明	G-210	46-7 106
5	H77K H86K	表土	平瓦	34.0	4.0 (24.6)	6.3 (24.7)	2.9	-	-	凹面：10YR5/1 凸面：10YR5/1	凹面：舟目組→一部ナデ 凸面：輪郭キ→平直竹貫柱の剥突面 溝縁：ヘラケズリ	凹面：ヘラ書き解説不明	G-211	46-8 106

第157図 遺構外出土遺物(5)



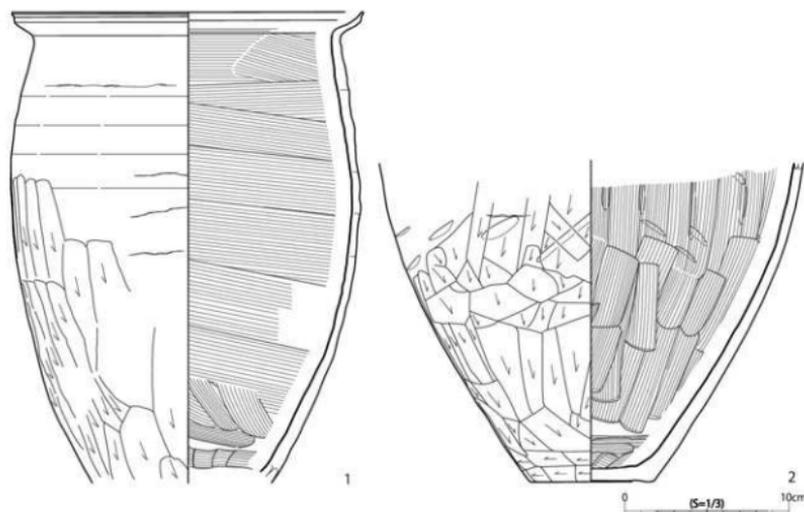
番号	遺構名 グリッド	層位	種別	最大径 (cm)	広幅幅 (cm)	狭幅幅 (cm)	高さ (cm)	耳当り 長さ(cm)	耳当り 高さ(cm)	色調	成形・調整	備考	登録 番号	写真 図版
1	38K	表土	平瓦	11.9	10.6+	-	2.0	-	-	凹面：10YR5/1 凸面：10YR5/1	凹面：布目織 凸面：織りキ	凹面：へら書き無筋不明	G-212	46-9 103
2	38K	表土	平瓦	9.0+	-	3.1	2.0	-	-	凹面：2.5Y5/1 凸面：2.5Y5/1	凹面：布目織 凸面：織りキ 周縁：鉄線面ヘラケズリ	凹面：へら書き無筋不明	G-213	46-10 106
3	38K	表土	平瓦	11.3+	-	3.3+	2.4	-	-	凹面：2.5Y5/1 凸面：2.5Y5/1	凹面：布目織 凸面：織りキ 彫刻：たたら粘土粒入り合せ織	周縁：鉄線面ヘラケズリ 凹面：へら書き無筋不明	G-214	46-11 106
4	38K	表土	平瓦	14.8	13.8+	-	3.2	-	-	凹面：7.5YR5/2 凸面：7.5YR5/2	凹面：布目織 凸面：織りキ→一底ナデ	凹面：へら書き「エカ」	G-215	46-12 106
5	38K	表土	横平瓦	-	-	-	幅7.0	高さ2.6	-	耳当り面：10YR5/1 耳当り面裏：2.5Y5/2	耳当り面裏：織りキ→へら書き無筋文 耳当り面裏：ハケメ、ナデ 下地面圧痕		38-022	46-13
6	ETK	表土	横平瓦	-	-	-	幅9.0	高さ3.2	-	耳当り面裏：5Y 5/1 耳当り面裏：10YR 5/2	耳当り面裏：織りキ→へら書き無筋文、下地面圧痕→ヘラケズリ 耳当り面裏：ハケメ→2.5ビナデ、下地面圧痕→ヘラケズリ		38-023	47-1
7	FBK	表土	横平瓦	6.0+	12.4+	-	5.3+	-	-	表面：10R 5/1 裏面：10R 5/1	表面：織りキ→へら書き無筋文 裏面：織りキ→へら書き無筋文		H-024	47-2
8	FBK	表土	隅切瓦	6.0+	-	4.7+	2.1	-	-	凹面：7.5YR5/2 凸面：10YR5/2	凹面：布目織 凸面：織りキ 周縁：無筋・鉄線面ヘラケズリ		38-025	47-3

第158図 遺構外出土遺物(6)



番号	遺構名 グリッド	層位	種別	最大径 (cm)	広幅幅 (cm)	狭幅幅 (cm)	口径 (cm)	底径 (cm)	高さ (cm)	口厚 (cm)	底厚 (cm)	底径 (cm)	底厚 (cm)	色調	成形・調整	備考	登録 番号	写真 図版
1	F66K	表土	甕瓦	7.4+	-	-	9.6+	-	-	-	-	-	-	表面: 5YR 4/2 裏面: 欠損	表面: ナデ 裏面: 欠損	部位: ナデ 部位: 不明	F626	47-4
2	F77K	表土	甕瓦	8.7+	-	-	7.2+	-	-	-	-	-	-	表面: 10YR 6/3 裏面: ナデ 裏面: 欠損	表面: ナデ 裏面: ナデ	部位: 板 部位: 不明	F627	47-5
3	F77K	表土	甕瓦	9.5+	-	-	5.8+	-	-	-	-	-	-	表面: 10YR 6/4 裏面: 欠損	表面: ヘラナデ+コピナデ+ヘラ工具痕 裏面: 欠損	部位: 不明	F628	47-6
4	F77K	表土	甕瓦	9.0+	-	-	6.5+	-	-	-	-	-	-	表面: 7.5YR 7/3 裏面: 7.5YR 6/3	表面: ヘラナデ+コピナデ+ヘラ工具痕 裏面: ナデ	粘土板に粘土貼付 部位: 不明	F629	47-7
5	H95K	表土	甕瓦	15.0+	-	-	7.4+	-	-	-	-	-	-	表面: 10YR 6/3 裏面: 7.5YR 6/2	表面: ヘラナデ+ナデ+ヘラ工具痕 裏面: ナデ	端部圧痕 粘土板に粘土貼付 部位: 牙	F630	47-8
番号	遺構名 グリッド	層位	種別	口径 長さ(cm)	底径 幅(cm)	高さ 厚(cm)	口厚 厚(cm)	底厚 厚(cm)	色調	成形・調整	備考	登録 番号	写真 図版					
6	G88K	表土	土師器 甕	把手3.4	-	-	把手 1.8	-	外底: 7.5YR5/4 内底: 7.5YR5/4	内底: ナデ	把手: ヘラナデ	D004	47-11					
7	F86K	表土	土師器 甕	-	(D0.4)	(7.0)	-	-	外底: 7.5YR5/3 内底: 7.5YR5/4	内底: 板部+ヘラナデ+板土貼付+ナデ 内底: 板部+ナデ	底部ロウロナデ	D005	47-12					
8	C36K	表土	土師器 甕	(4.0)	(3.0)	2.5	-	-	外底: N4/0 裏面: N5/0	裏面: ナデ	裏面: ヘラナデ	E027	47-9					

第159図 遺構外出土遺物(7)



番号	遺構名 フリット	層位	検出 部材	口径 長さ(mm)	底径 幅(mm)	取高 厚さ(mm)	取さ び	色調	成形・調査 備考	登録 番号	写真 図版
1	CSK	竪穴 木造	土製 瓦	21.0	-	34.3	-	外面：7.5YR6/6 内面：7.5YR3/4	外面：口縁部-体部中央クロコナデ、下半ケズリ 内面：口縁部クロコナデ、体部ヘラナデ	D-006	47-10
2	BSK	-	土製 瓦	-	7.6	(18.5)	-	外面：7.5YR6/3 内面：7.5YR6/4	外面：ヘラケズリ 内面：ヘラナデ	D-007	47-13

第160図 遺構外出土遺物(8)

形態は、軒平瓦の瓦当部が平瓦の凸面側端部に取り付き、半分が平瓦部凹面側に突出するものである。瓦当部と平瓦の接着方法は、軒平瓦と同様に平瓦に顎部をのせ叩いて接着している。瓦当面の文様は、一部を重複させて上下2段に均整唐草文を押ししている。范は軒平瓦Ⅱ類と同じである。文様を囲む線上下が1線のもので、左右を囲む線が1線か2線かで、a・bに細分されるが、左右の文様が確認できる3点はすべて1線であることから、軒平瓦Ⅱ類bと分類した。顎面に近い上半に第158図7は波状文を、第78図3は鱗状の文様を、第41図1・3、第79図2・4、第80図2、第158図5・6は下半に波状文を施している。下面は、ヘラケズリおよび指オサエによって整形される。裏面は、布目のハケメ調整され、さらにヘラケズリもしくはナデ調整されるものが見られる。顎面には判別できるものほとんどにヘラ描きによって波状文が施されている。なかには鋸歯文に近いもの(第158図7)、稲妻状の文様(第136図2)もある。また、第151図3は平瓦部との境を沈線で区画している。顎面・瓦当面とも調整はほとんど施されておらず、全面に縄タタキ目が残る。縄タタキ目の方向は、顎部は縦位、瓦当面は斜位が多い。平瓦部はⅣ類が取り付けられている。

鬼瓦

鬼瓦は36点出土し、16点図示した(第52図4、第80図1、第84図4～6、第85図1～5、第152図1、第159図1～5)。3号窯跡で4点、1号窯跡排水溝(2号溝)で6点、3号窯跡排水溝(3号溝)で12点、谷で1点、表上で13点出土している。形態は、下端部に半円形の例り込み(第84図5・第161図5)があり、顔面のそれぞれの部位の起伏が顕著である。確認できる部位は、眉部が1ヶ所、眼部2ヶ所、頬部4ヶ所、鼻部2ヶ所、牙部6ヶ所であり、3個体以上であることがわかる。断面の観察から、粘土塊を付け加えながらある程度平坦に整えた後、顔面の各部分を貼り付けるもの(第84図5・第159図4)と、当初から粘土板を用い、その上に顔面の各部分を貼り付けるもの(第84図6、第85図1・2・4、第152図1、第159図1・5)が認められる。表面はへ

ラケズリのち複雑なナデ、裏面及び側面はハケメのちナデによって仕上げられている。

隅切瓦

隅切瓦は2点出土している。いずれも表土から出土しており、1点図示した(第158図8)。

平瓦Ⅳ類の挟端の隅を小さく切り落としたものである。

〔文字瓦〕

文字瓦は、丸瓦・平瓦の凸面・凹面に押印・ヘラ書きによって記名されたものである。2,905点出土し、202点図示した。瓦類全体の8.0%を占めている。

押印瓦

押印瓦は221点出土し、51点図示した。窯内からは、1号窯跡で30点、1号窯跡排水溝(2号溝)で5点、3号窯跡で43点、3号窯跡排水溝で5点、6号窯跡で10点、9号窯跡で1点、10号窯跡で2点出土している。そのほかの遺構からは、1号灰原で4点、11号土坑で2点、13号土坑で4点、19号土坑で1点、25号土坑で3点、瓦集中部で4点、谷で6点、表土・攪乱で101点出土している。「田」・「◎」・「㊦」・「㊧」・「㊨」・「㊩」(内部は陽刻)・「㊪」・「㊫」・「㊬」・「㊭」・「㊮」の12種類と、その他に部分的にのみ残存し、押印の全体形が判らないものがあり、丸瓦Ⅱ類、平瓦Ⅳ類にみとめられる。

ヘラ書き瓦

ヘラ書き瓦は2,684点出土し、151点図示した。窯内からは、1号窯跡で344点、1号窯跡排水溝(2号溝)で119点、3号窯跡で383点、3号窯跡排水溝(3号溝)で83点、5号窯跡で9点、6号窯跡で17点、7号窯跡で2点、9号窯跡で2点出土している。そのほかの遺構からは、11号土坑で25点、13号土坑で3点、19号土坑で25点、20号土坑で6点、22号土坑で3点、25号土坑で6点、瓦集中部で106点、谷で27点、表土・攪乱で1,516点出土している。

「有」・「×」・「㊺」・「㊻」・「七」・「大」・「丸」・「伊」・「㊼」・「伴」・「岩カ」・「井」・「安」・「〒」・「の」・「㊽」・「上」・「上工」・「田」・「㊾」・「㊿」・「し」・「瓦」・「土」・「女カ」・「本カ」・「春部カ」・「九」・「子」・「人」・「ト」・「㊿」・「㊿」・「㊿」・「㊿」の36種類あり、丸瓦Ⅱ類、平瓦Ⅳ類に認められる。

〔土師器〕

土師器は、坏・甕・甔が出土している。総破片数496点出土している。9点図示した。非ロクロ成形の土師器は、13号土坑で75点、15号土坑で10点、谷で1点、表土で42点の計128点出土し、2点を図示した。ロクロ成形の土師器は、1号窯跡で12点、3号窯跡で13点、4号窯跡で1点、5号窯跡で13点、9号窯跡で5点、10号窯跡で7点、1号灰原で10点、2号溝で4点、3号溝で20点、12号土坑で2点、13号土坑で83点、14号土坑で2点、15号土坑で4点、17号土坑で13点、20号土坑で1点、22号土坑で3点、瓦集中部8で23点、谷で3点、表土で149点の計368点出土し、7点を図示した。第127図1は、非ロクロ成形の土師器甕である。平底の底部から体部へ内湾気味に外傾して立ち上がり、上半で内湾気味に頸部にいたる。頸部は屈曲しており、口縁部は短く外傾し、口唇部はわずかに立ち上がっている。調整は、内・外面ともに口縁部ヨコナデ、体部上半ヨコナデ、体部下半ハケメである。底面にはムシロ状圧痕がみられる。いわゆる「近夷部」の土師器の特徴がみとめられる。8世紀第4四半期のものである。第121図7の坏は、ロクロ成形の土師器坏である。底部は回転系切りのち回転ヘラケズリ、外面は回転ヘラケズリ調整、内面はヘラミガキのち黒色処理されるものである。第148図3はロクロ成形の土師器坏である。底部が回転系切り離し無調整、外面は体部下端が手持ちヘラケズリされるものである。

〔 須 恵 器 〕

須恵器は、坏・埴・甕・瓶が出土している。総破片数は953点で、23点図示した。1号窯跡で1点、3号窯跡で10点、4号窯跡で2点、6号窯跡で3点、7号窯跡で5点、9号窯跡で15点、10号窯跡で7点、1号灰原で83点、2号溝で4点、3号溝で20点、13号土坑で397点、14号土坑で53点、15号土坑で87点、16号土坑で1点、17号土坑で8点、谷で13点、表土で268点出土している。坏は、12点図示した。底部が回転糸切り離し無調整のもの4点（第80図4、第124図4、第127図4）、底部が回転糸切り離しのち外面体部下端が手持ちヘラケズリ調整されるもの4点（第109図2、第113図1、第121図6、第124図5）、底部が切り離し不明で、底面が手持ちヘラケズリ調整されるもの1点（第113図2）、ヘラケズリ調整が底面と体部下端に及ぶもの3点（第121図4・5、第127図3）、底部がヘラ切り離しのち底面がナデ調整されるもの2点（第124図6、第127図2）がある。埴は1点図示した。第127図5は底部が切り離し不明で、底面がナデ調整されるものである。第124図5は大部下端に穿孔されているものである。甕は1点図示した。第99図5は、体部の破片である。瓦との融着痕があり、焼台として用いられたと考えられる。瓶は1点図示した。第41図4は体部の破片で、内・外面がナデ調整される。胎土の緻密さ、色調から東海諸窯の製品である可能性がある。

〔 硯 〕

硯は10点出土している。3点を図示した。1号灰原で8点、表土で2点出土している。第113図5は、前方部がやや弧状をなし、両側辺が直線的な形状である。硯面と縁の境をナデ調整したのち、硯面・縁・裏面ともにヘラケズリ調整される。第159図8も同様の形状のものと考えられる。硯面および硯面と縁の境をナデ調整したのち、縁・裏面ともにヘラケズリ調整される。

第113図4は、脚部の破片である。ヘラケズリ調整によって多角錐状に仕上げている。

〔 その他の遺物 〕

その他の遺物は、21点（石器9点、石製品4点、1号窯跡の焚口の袖石に用いられたと考えられる礫1点、陶器6点、近世瓦1点）出土している。2点図示した。

第109図3は、剥片石器（石匙）である。流入によるものと考えられる。

第52図5は、石製品（砥石）である。砥面は3面で、使用痕とみられる細擦痕がみられる。表面には鉄製工具の刃部を研いだ際についたと考えられる痕跡、および製作の際の打突痕が残る。

第3節 まとめ

遺 物

- ・窯跡からは、丸瓦Ⅱ類、軒平瓦Ⅰ～Ⅳ類、平瓦Ⅳ類、棟平瓦（瓦当面文様は軒平瓦ⅡB類b）が出土している。
- ・また、窯跡以外から軒丸瓦Ⅱ類、軒平瓦ⅡB類・Ⅲ類、平瓦Ⅲ類が出土している。これらは丸瓦Ⅱ類は多賀城丸瓦ⅡB類、軒平瓦Ⅰ類は多賀城710、軒平瓦Ⅱ類Bは多賀城721、軒平瓦Ⅲ類は多賀城920、軒平瓦Ⅳ類は多賀城921、平瓦Ⅲ類は多賀城平瓦ⅡB類、平瓦Ⅳ類は多賀城平瓦ⅡC類にあたる。
- ・平瓦は、1枚作りで、凸面が縄タタキ・凹型台圧痕、凹面に糸切り痕・布目・ナデがみられる平瓦Ⅲ類と、凸面が縄タタキ、凹面に布目がみられ、凹面・凸面ともに調整が全く認められない平瓦Ⅳ類がある。窯跡の構築材として用いられている平瓦の観察によって、7～10号窯跡は平瓦Ⅲ類が、1・3・4～6号窯跡は平瓦Ⅳ類が多いことを確認している。前述したとおり、平瓦Ⅲ類が多賀城平瓦ⅡB類、平瓦Ⅳ類が多賀城平瓦ⅡC類に一致する

ことから、前者は多賀城Ⅲ期、後者は同Ⅳ期に位置づけられると考えられる。

- ・椽平瓦は、日本国内において本窯跡および多賀城跡からのみ出土している。これに類似するものが、朝鮮半島の統一新羅時代（689～935年）の都であった大韓民国慶尚北道慶州市内の複数の遺跡から発見されており、古代朝鮮との関係が窺われる。また、『日本三代実録』貞観12年9月15日の項にみえる「復興のために瓦造りに長けた新羅人を陸奥国に配属した」という記事に符号する可能性があり、日本古代史研究上、極めて重要な発見である。

遺 構

〔窯跡〕

- ・遺構は、すべて表土直下のⅢ層上面で確認した。
- ・遺構は、調査区を南北に走る谷を取り巻く傾斜面で検出した。
- ・窯跡群は、位置関係等から見て3群に分けることができる。調査区の中央から東寄り付近で南側に下る谷の西側にある斜面を選地している半地下式無階無段の窯室群（7～10号窯跡）、谷の北側の斜面を選地している半地下式有階無段の窯室群（4～6号窯跡）、谷の東側の斜面を選地している半地下式有階式の平窯群（1・3号窯跡）である。
- ・東北地方における半地下式有階（ロストル）式平窯は、神明社窯跡A地点（蟹沢中瓦窯跡、多賀城Ⅱ期）に次ぐ2例目の確認である。
- ・各窯跡の窯体構造・中軸線の方向・規模をはじめとして、出土遺物・灰原の状況などからみて、それぞれの群内では同時操業の可能性を窺える。ただし、群毎に同時操業を考えられるかは不明である。
- ・窯跡は、全てⅢ層を掘り込み、床面・壁を構築したうえで天井を架橋したと考えられる。後世の削平のため、上部施設（煙出部・天井部）は残存していない。
- ・今回調査した窯跡からは須恵器が出土しているが、歪み、ヒビなどがなく、出土量が極めて少ないこと、出土した層位などから考えて、全ての窯跡は瓦専用窯であったと考えられる。
- ・1・3・7～9号窯跡の窯体片の中には、幅3cmの溝状の圧痕がみられた。天井架橋のための構築材痕とみられる。また、窯体の壁内外からⅢ層に刺さった状態で、炭化材を確認している。径1cmと細く、確認位置からも直接天井架橋に伴うかは不明であるが、これまでの報告例から構築材の可能性がある。
- ・燃料残滓層の互層を操業の一単位と考えた場合、ほとんどの窯跡は複数回の操業であると考えられる。
- ・窯跡に付属する灰原は、1・3～6号窯跡で確認した。7～10号窯跡は、位置関係等から1号灰原がこれらの窯跡に付属すると考えられる。7～10号窯跡から排出された燃料残滓などが、灰原のどの部分に相当するのかは不明である。
- ・5号窯跡の灰原の下からは灰白色火山灰が検出されたが、灰原から自然傾斜面に移行する部分であり、灰原から流出した燃料残滓が上部に堆積したものと考えられる。
- ・1号窯跡の整地層下から、窯跡の可能性の考えられる被熱変化した土層範囲を検出した。1号窯跡に直接かかわるものであるのか、全く別の窯跡であるのかは不明である。
- ・平窯の構築手順は、1・3号窯跡の調査によって以下のように考えることができる。
 - ① 窯体周辺の整地、排水溝の掘削、窯体掘り方の掘削が行われる。相互の前後関係は不明である。整地は、Ⅲ層黒色化部分の上に行われており、整地以前に表土化していたことが理解される。
 - ② 奥壁部の瓦を積む。両側壁と、奥壁に施されている瓦積みの新旧関係から判断できる。
 - ③ 両側壁の瓦を積む。両側壁と、隔壁に施されている瓦積みの新旧関係から判断できる。両側壁と隔壁

の瓦の位置が一致しておらず、両側壁と隔壁は一体化していない。従って、焼成部・燃焼部の両側壁は同時に構築されたと考えられる。

- ④ 分焰牀の瓦を積む。奥壁に瓦が密着しており、奥壁から燃焼部に向かって分焰牀を積み上げている。
- ⑤ 通焰孔を構築する。隔壁設置部分の分焰牀上部に、完形の平瓦を並べ、通焰孔を形成する。
- ⑥ 隔壁を構築する。通焰孔上部に構築。隔壁の詳細な構築技術は、後述する。

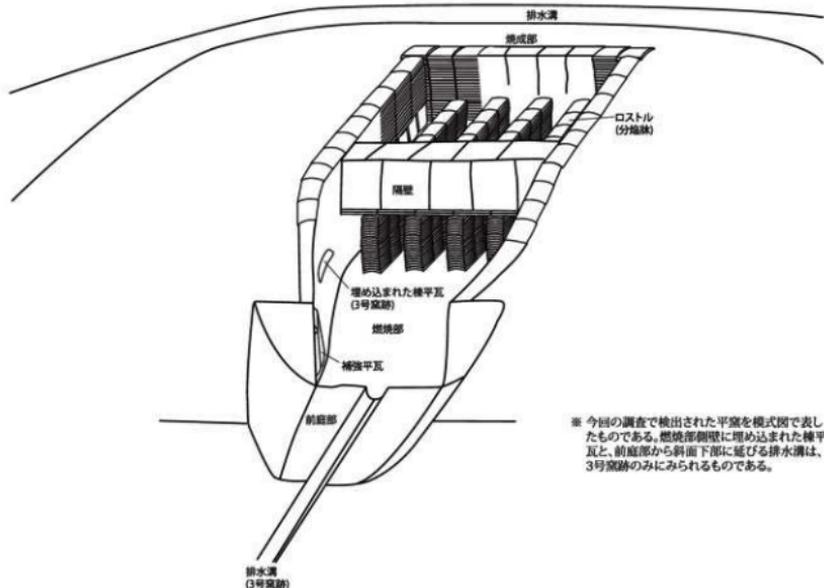
・平窯の隔壁の構築に関しては、1・3号窯跡の調査によって以下の手順で行われることが理解できた。

- ① 分焰牀と焰道上部に完形の平瓦とスサ入り粘土を積み重ね、通焰孔を形成する。
- ② 通焰孔上部に重ねた平瓦とスサ入り粘土の上に、板で作られた型枠状の部材を設置する。
- ③ 型枠状の部材の中にスサ入り粘土と瓦の破片を混ぜたものを、3～4回に分けてほぼ水平に入れ、隅々まで粘土が行き渡るように押しならす。

隔壁の燃焼部側表面には、粘土が完全には一体化せず、ほぼ水平方向の不連続な面を確認した。

【その他の遺構】

- ・13・14号土坑は、灰原が上部を覆っている。それぞれの堆積土中からは、灰白色火山灰が確認されている。土坑に灰白色火山灰が堆積した後に、灰原からの堆積土の流出により、上部が覆われたと考えられる。
- ・24号土坑は、炭化物やⅢ層の被熱範囲から、何らかの焼成作業を行った遺構と考えられるが、遺構に伴う遺物が出土せず、詳細は不明である。
- ・瓦集中部は、窯跡よりも標高の高い部分に位置しており、今回調査した窯跡に伴うか否かは不明である。



※ 今回の調査で検出された平窯を模式図で表したものである。燃焼部側壁に埋め込まれた棟平瓦と、前庭部から斜面下部に延びる排水溝は、3号窯跡のみにもみられるものである。

新堤地区 平窯模式図

第5表 平窯一覽表

遺構名	グリッド	主軸方向	棟梁間数	全長(m)	焼成部長(m)	焼成部幅(m)	焼成部厚高(m)	
1号窯跡	G7, H+16~8	N88°E	2	9.27	1.1	2.21	1.35	
焼成部長(m)	焼成部幅(m)	焼成部厚高(m)	焼成部傾斜角(°)	焼二層(m)	焼三層(m)	焼四層(m)	時期	
2	2.7	1.62	1.5	1	1.02	6	7	多貨城前期
備考：焼成跡あり、砂水溝(SD)								
遺構名	グリッド	主軸方向	棟梁間数	全長(m)	焼成部長(m)	焼成部幅(m)	焼成部厚高(m)	
3号窯跡	E+5~8、G5~7	N73°W	5	13	1.22	2.1	1.29	
焼成部長(m)	焼成部幅(m)	焼成部厚高(m)	焼成部傾斜角(°)	焼二層(m)	焼三層(m)	焼四層(m)	時期	
12	2.1	1.51	1.42	2	1.09	6	7	多貨城前期
備考：焼成跡あり、砂水溝(SD)								

第6表 宿窯一覽表

遺構名	グリッド	構造(平地下式)	主軸方向	棟梁間数	全長(m)	焼成部長(m)	焼成部幅(m)	
4号窯跡	D5~6	有階段	N56°E	2	5.24	3.02	0.64	
焼成部長(m)	焼成部幅(m)	有階段高(m)	焼成部長(m)	焼成部幅(m)	焼成部厚高(m)	焼成部傾斜角(°)	焼二層(m)	
0.42	上段* 下段2*	0.22	0.69	0.45	0.5	3	0.43	多貨城前期
備考：階段あり、焼かあり、焼室材あり								
遺構名	グリッド	構造(平地下式)	主軸方向	棟梁間数	全長(m)	焼成部長(m)	焼成部幅(m)	
5号窯跡	C6~D5~6	有階段	N56°E	3	6.0	3.22	0.71	
焼成部長(m)	焼成部幅(m)	有階段高(m)	焼成部長(m)	焼成部幅(m)	焼成部厚高(m)	焼成部傾斜角(°)	焼二層(m)	
0.49	17	0.39	1.12	0.51	0.58	10	0.51	多貨城前期
備考：階段あり、焼かあり、焼室材あり								
遺構名	グリッド	構造(平地下式)	主軸方向	棟梁間数	全長(m)	焼成部長(m)	焼成部幅(m)	
6号窯跡	C4~5	有階段	N47°E	5	6.3	3.22	0.38	
焼成部長(m)	焼成部幅(m)	有階段高(m)	焼成部長(m)	焼成部幅(m)	焼成部厚高(m)	焼成部傾斜角(°)	焼二層(m)	
0.5	上段2 下段13	0.2	1.2	0.56	0.62	11	0.6	多貨城前期
備考：階段あり、焼かあり、焼室材あり								
遺構名	グリッド	構造(平地下式)	主軸方向	棟梁間数	全長(m)	焼成部長(m)	焼成部幅(m)	
7号窯跡	A~B3	無階段	N68°W	1	4.82上	4.33	0.52	
焼成部長(m)	焼成部幅(m)	有階段高(m)	焼成部長(m)	焼成部幅(m)	焼成部厚高(m)	焼成部傾斜角(°)	焼二層(m)	
0.4	22	0.45以上	0.51	0.39	10	-	-	多貨城前期
備考：階段あり、焼かあり								
遺構名	グリッド	構造(平地下式)	主軸方向	棟梁間数	全長(m)	焼成部長(m)	焼成部幅(m)	
8号窯跡	B2~3	無階段	N64°W	2	6.9	5.12	0.79	
焼成部長(m)	焼成部幅(m)	有階段高(m)	焼成部長(m)	焼成部幅(m)	焼成部厚高(m)	焼成部傾斜角(°)	焼二層(m)	
0.58	21	-	1.82	0.69	0.58	3	0.61	多貨城前期
備考：階段あり、焼室材あり								
遺構名	グリッド	構造(平地下式)	主軸方向	棟梁間数	全長(m)	焼成部長(m)	焼成部幅(m)	
9号窯跡	B2~3、C3	無階段	N66°W	5	5.32上	3.92上	0.62	
焼成部長(m)	焼成部幅(m)	有階段高(m)	焼成部長(m)	焼成部幅(m)	焼成部厚高(m)	焼成部傾斜角(°)	焼二層(m)	
0.55	上段20 下段14	-	1.4	0.69	0.52	11	0.81	多貨城前期
備考：階段あり、焼かあり、焼室材あり								
遺構名	グリッド	構造(平地下式)	主軸方向	棟梁間数	全長(m)	焼成部長(m)	焼成部幅(m)	
10号窯跡	B2、C2~3	無階段	N65°W	3	4.25以上	3.05以上	0.6	
焼成部長(m)	焼成部幅(m)	有階段高(m)	焼成部長(m)	焼成部幅(m)	焼成部厚高(m)	焼成部傾斜角(°)	焼二層(m)	
0.41	17	-	1.17	0.88	0.52	11	0.81	多貨城前期
備考：焼かあり、焼室材あり								

第7表 溝一覽表

遺構名	グリッド	進行方向	全長(m) × 幅(m) × 深さ(m)	平面形・断面形	時期
1号溝	B~C4	N0°	2.7×0.41×0.05	直線・U	-

第8表 土坑一覽表

遺構名	グリッド	長軸方向	長軸(m) × 短軸(m) × 深さ(m)	平面形・断面形	底面	時期
1号土坑	C5	N61°W	1.15×1.15×0.25	円形・浅い皿形	楕円・起伏	-
4号土坑	F8	N62°W	0.72×0.49×0.35	円形・U字形	平坦	-
6号土坑	H7	N18°W	1.1×0.6×0.3	不整形・U字形	楕円・起伏	-
8号土坑	G6	N54°W	0.95×0.72×0.15	楕円形・U字形	平坦	-
9号土坑	C6	N54°W	1.32×0.55×0.25	不整形・U字形	平坦	-
10号土坑	H-17	N34°W	0.52×0.43×0.2	楕円形・U字形	凸凸	-
11号土坑	H7	N56°E	2.39×1.48×0.65	楕円形・U字形	凸凸	-
12号土坑	B2	N87°E	1.55×0.5×0.15	不整形・U字形	凸凸	-
13号土坑	B2~3	N60°W	4.15×2.35×1.05	楕円形・U字形	楕円	-
14号土坑	C3	N67°E	5.35×2.02×1.0	不整形・U字形	楕円	-
15号土坑	C4	N90°E	5.02×1.65×0.45	楕円形・浅い皿形	楕円・起伏	-
16号土坑	A3	N90°E	2.93上×2.65上×0.85	-	直線	-
17号土坑	A~B2~3	N64°W	2.81×2.52×0.3	楕円形・直線	平坦	-
18号土坑	B3	N58°W	1.88×1.71×0.55	楕円形・U字形	平坦	-
19号土坑	E6	N77°W	2.52上×2.15上×0.5	-	凸凸	-
20号土坑	17	N77°W	4.35×2.55×0.75	楕円形・直線	凸凸	-
21号土坑	E7	N76°W	1.55×1.2×0.25	楕円形・浅い皿形	平坦	-
22号土坑	E6~7	N72°E	4.35×3.75×0.55	不整形・直線	平坦	-
24号土坑	D7~8	N62°W	1.79×0.7×0.35	楕円長方形・直線	平坦	-
25号土坑	G~H7	N60°E	3.7×2.8×0.5	不整形・直線	平坦	-

第9表 ビット一覽表

遺構名	グリッド	長軸方向	長軸(m) × 短軸(m) × 深さ(m)	平面形・断面形	柱芯	時期
ビット1	A2~3	N84°E	0.85×0.6×0.15	不整形・直線	なし	-
ビット5	E7	N42°W	0.25×0.25×0.1	円形・U字形	なし	-
ビット8	E7	N48°W	0.6×0.4×0.25	楕円形・U字形	なし	-
ビット10	I7~8	N68°W	0.45×0.35×0.2	不整形・直線・U字形	なし	-
ビット15	H6	N85°W	0.45×0.4×0.2	楕円形・直線	なし	-

第3章 蟹沢地区西地点

第1節 基本層序と自然地形

調査区は、東西に延びる丘陵を谷が南北に開析する地形であり、調査区の南側には分岐する谷がある。遺構は丘陵頂部付近のやや平坦な面、谷部へと向かう丘陵斜面、谷部に位置する。

基本層序

基本層序は以下の通りである。

- I層：黒褐色（10YR3/2）シルト層である。木の根・木の葉を含む丘陵斜面全域に分布する表土層である。
 - II層：灰黄褐色（10YR4/2）砂質シルトの層で、谷部へと向かう丘陵斜面の一部に堆積する。
 - III層：にぶい黄褐色（10YR4/3）～明黄褐色（10YR6/6）の砂質シルトで、径2～10mm程度の礫を含む地山である。
- 下層は、にぶい黄褐色（10YR4/3）～明黄褐色（10YR6/6）の粘土質シルトとなる。丘陵頂部付近では、さらに下層の白色粘土質シルト・凝灰岩質砂岩が露出しているところがある。



第161図 基本層序(蟹沢地区西地点遺構配置図A-A')

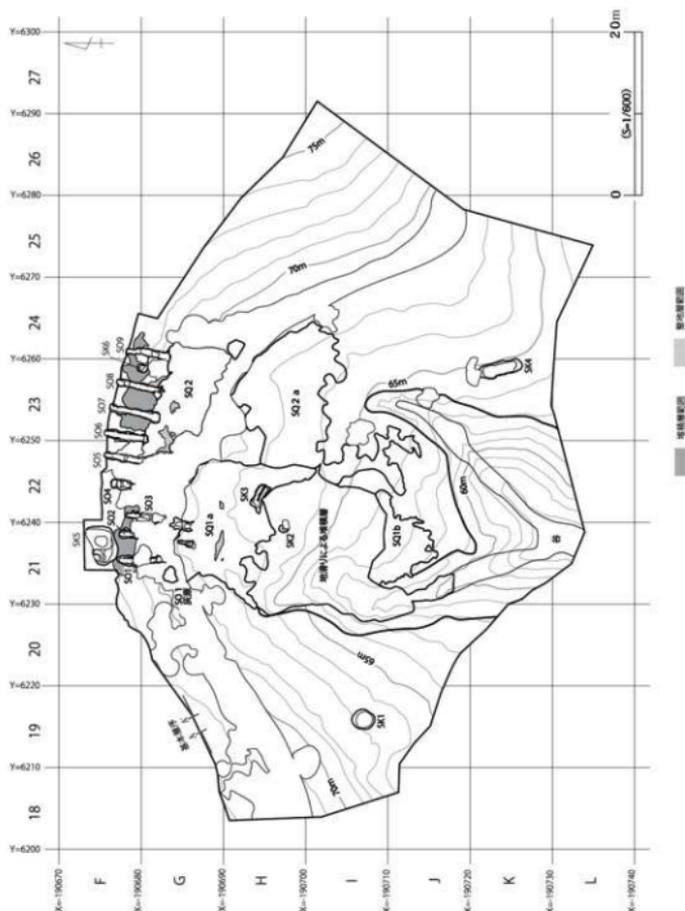
地滑り(第207・208図)

調査区北部の南斜面から谷にかけて、大きくIII層が移動している。これは、円弧滑りと呼ばれるもので、斜面が円形土塊として迫ってくるものである。北はF-21・22グリッド、南はJ-21グリッド、幅はH～J-20～22グリッドに及ぶ。この土塊移動は、滑落した斜面では空間をつくり、迫出した部分では崩れて堆積がみられる。これらが、北部斜面では1～5号窯跡と1号灰原aの崩落としてみられ、迫出しの堆積は1号灰原bを覆う堆積と谷の堆積としてみられる。また、円弧滑りした土塊の上では、地滑りによる堆積層や2・3号土坑を確認している。

谷(第162・163図)

谷は、調査区南側のI・J-20、H～L-21、J～L-22、I～K-23グリッドに所在する。

南から北へ延びる谷で、K・L-21・22グリッドで北東側、北西側に分岐し、H-21・J-23グリッドで谷頭を持つ。谷の北側では1～9号窯跡が営まれ、その南側にあった灰原が地滑りによって流出し、それらの流出土が谷に堆積している。北東側に分かれる谷は規模が小さく、北西側に分かれる谷は規模が大きい。北東側に分かれる谷の規模は、長さ25m以上、上端幅6～15m、深さは最深6m以上である。北東側の谷の堆積土の厚さは、谷頭付近で50～60cm、Cラインで2m以上、K・L-21・22グリッド付近で4m以上である。北西側に分かれる谷の規模は、長さ40m以上、上端幅5～9m、深さは3mである。北西側の谷の堆積土の厚さは、谷頭付近で約90cm、Bラインで約80cm、Cラインで約2m、K・L-21・22グリッドでは底面を確認することができなかったために不明である。北東側の谷の断面形はいわゆる箱形である。底面は滑らかであるが、K-22・J-23グリッドの2ヶ所で上流と下流を分ける急激な段を有している。段差はK-22グリッドで約3m、J-23グリッドで約1mである。小規模な、円形劇場形地形(註)を示しているものと考えられる。北西側の谷の断面形は鈍角に開く「V」字形である。底面は滑らかであるが、

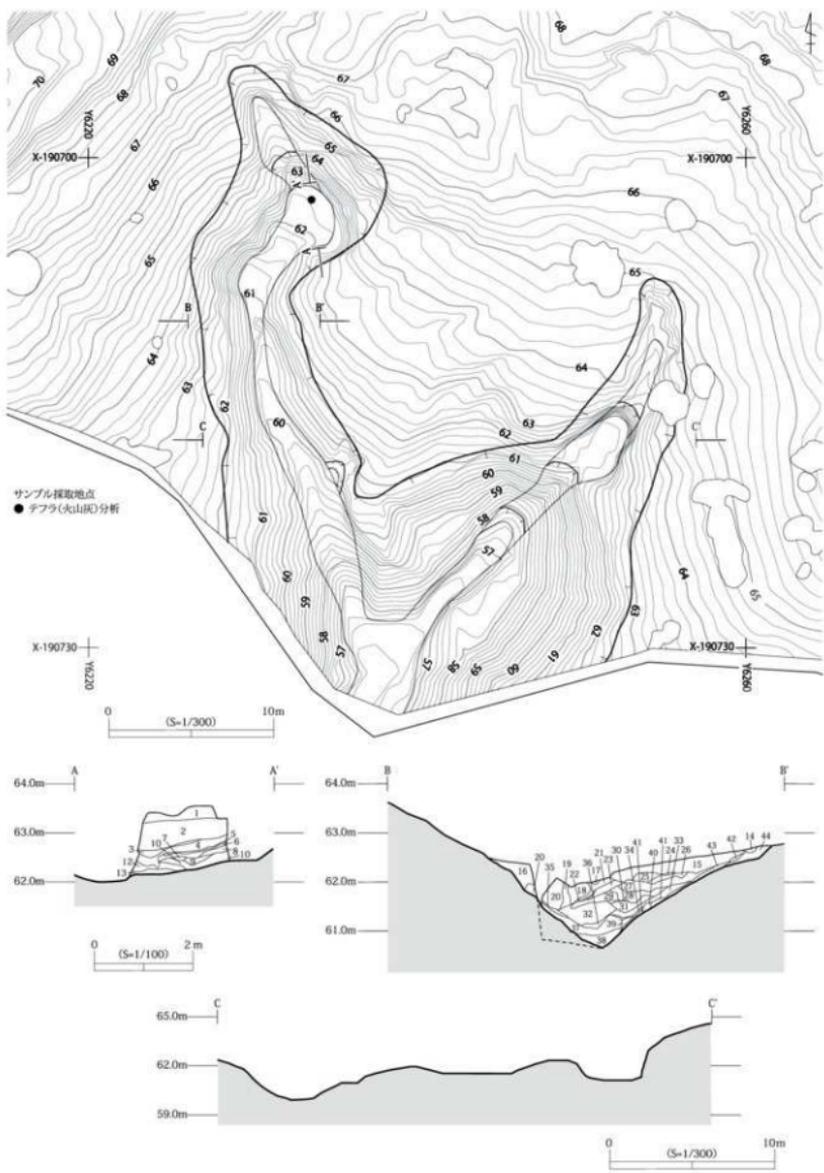


第162図 蟹沢地区西地点遺構配置図

I・21グリッドで上流と下流を分ける急激な段を有している。小規模な、円形劇場形地形を示すJ・21グリッドよりも南側では、地形的な制約のため底面を検出することができなかった。

(註) 東北学院大学教養学部地域構想学科松本秀明教授より、現地をみていただいた際に「このような地形を円形劇場型地形とよぶ」とのご教示を得た。

堆積土はAラインでは13層、Bラインでは31層に分けられる。すべて周囲からの流入土である。AラインとBラインでは堆積状況が異なり連続しないが、Aライン2層とBライン38層は1号灰原b由来の層として捉えている。地滑りに起因する土層は1層である。5層で灰白色火山灰を確認した。2層からは、比較的多くの遺物が出土している。下層の谷の堆積土で丸瓦・平瓦が出土している。総破片数は26点で、図示はしていない。



第163図 谷平面図・断面図

谷土層観察表

層位	土色	土質	特徴	層位	土色	土質	特徴
1	にぶい黄褐色10YR6/4	砂質シルト	凝灰岩ブロックを多量含む。炭化物粒を少量含む。	23	灰白10YR7/3	砂質シルト	凝灰岩ブロック・マンガン粒を含む。
2	黒10YR2/2	砂質シルト	炭化物ブロックをごく多量含む。焼土粒・凝灰岩ブロックを少量含む。	24	灰白10YR7/1	シルト	
3	灰白10YR7/1	砂質シルト	凝灰岩ブロックを含む。	25	灰白10YR7/1	シルト	炭化物粒を少量含む。
4	凝灰10YR6/1	シルト	凝灰岩ブロックを含む。焼土ブロックを微量含む。	26	灰黄褐色10YR4/2	シルト	炭化物粒・凝灰岩ブロックを含む。
5	灰白10YR8/1	丸山泥	凝灰岩ブロックを少量含む。	27	にぶい黄褐色10YR7/2	砂質シルト	凝灰岩ブロックを含む。
6	灰白10YR7/1	砂質シルト	凝灰岩粒を少量含む。礫を微量含む。	28	灰黄褐色10YR6/2	砂質シルト	凝灰岩粒を多量含む。
7	灰白10YR7/1	砂質シルト	礫を含む。凝灰岩粒を微量含む。	29	凝灰10YR6/1	砂質シルト	凝灰岩粒を少量含む。
8	凝灰10YR6/1	砂質シルト	酸化鉄・凝灰岩粒を少量含む。	30	凝灰10YR4/1	砂質シルト	炭化物粒を微量含む。
9	灰黄褐色10YR6/2	砂質シルト	凝灰岩ブロック・礫を少量含む。酸化鉄を微量含む。	31	にぶい黄褐色10YR7/2	砂質シルト	凝灰岩ブロックを多量含む。
10	灰白10YR7/1	砂質シルト	酸化鉄を含む。	32	にぶい黄褐色10YR7/2	砂質シルト	凝灰岩ブロックを多量含む。
11	灰黄褐色10YR6/2	砂礫	礫を多量含む。凝灰岩ブロックを少量含む。	33	にぶい黄褐色10YR7/3	砂質シルト	凝灰岩ブロックを多量含む。
12	凝灰10YR5/2	砂質シルト	礫を微量含む。	34	灰白10YR8/2	砂質シルト	凝灰岩ブロックを多量含む。礫を少量含む。
13	灰白10YR8/2	砂質シルト	礫を少量含む。	35	凝灰10YR6/1	砂質シルト	褐色シルトブロックを含む。凝灰岩ブロックを少量含む。
14	黒黄褐色10YR3/1	砂質シルト	焼土粒・炭化物を微量含む。	36	凝灰10YR4/1	砂質シルト	焼土粒・凝灰岩ブロックを微量含む。
15	明黄褐色10YR7/6	砂質シルト	凝灰岩ブロックを含む。酸化鉄を少量含む。	37	灰白10YR7/1	砂質シルト	凝灰岩ブロックを多量含む。礫を微量含む。
16	にぶい黄褐色10YR7/3	砂質シルト	マンガン粒を微量含む。	38	黒黄褐色10YR3/1	砂質シルト	炭化物粒を極多量含む。凝灰岩粒を少量含む。
17	凝灰10YR5/1	砂質シルト	凝灰岩ブロックを少量含む。炭化物粒を微量含む。	39	灰白10YR8/2	砂質シルト	凝灰岩ブロックを含む。炭化物粒を微量含む。
18	凝灰10YR8/6	砂質シルト	マンガン粒を微量含む。	40	凝灰10YR3/3	砂質シルト	焼土粒を少量含む。炭化物粒を微量含む。
19	黒7.5YR4/3	砂質シルト	凝灰岩ブロックを微量含む。	41	灰黄褐色10YR6/2	砂質シルト	
20	灰白10YR7/1	砂質シルト	凝灰岩ブロックを含む。炭化物粒を微量含む。	42	凝灰10YR6/1	砂質シルト	
21	灰白10YR7/1	砂質シルト	凝灰岩ブロック・礫を少量含む。炭化物粒を微量含む。	43	凝灰10YR6/1	砂質シルト	炭化物粒を微量含む。焼土粒を極多量含む。有機物ブロックを微量含む。
22	灰黄7.5YR4/2	砂質シルト	凝灰岩ブロックを微量含む。	44	にぶい黄褐色10YR7/3	砂質シルト	

第2節 蟹沢地区西地点の遺構と遺物

蟹沢地区西地点の遺構

蟹沢地区西地点で確認した遺構は、密窓9基・土坑6基の総計15基である。

本調査区は地滑りの影響を受け、窯跡の一部が崩落している。遺構は、Ⅱ層下面の堆積層上面・整地層上面・Ⅲ層上面で確認した。堆積層は、窯跡群周辺にのみ存在する焼土粒を特徴とするにぶい黄褐色シルトを主体とする層で、窯跡群を覆っている。窯跡内流入堆積土と近似する層である。

窯跡は調査区の中央を南北に延びる谷の北側、南斜面上方に9基並んで位置している。

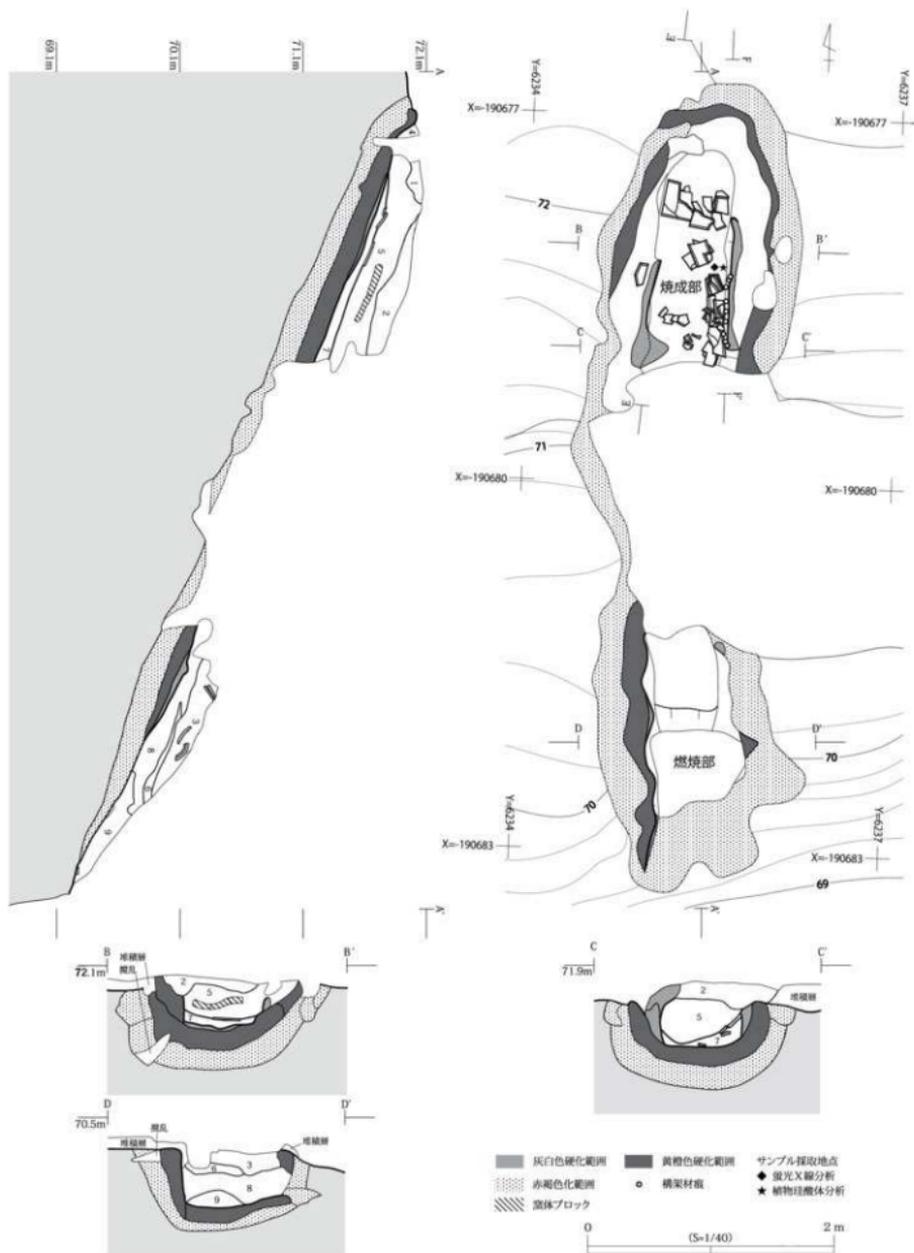
土坑は、窯の位置する北部南斜面に2基、斜面の下に2基、谷の西斜面に1基、東斜面に1基位置している。

窯 跡

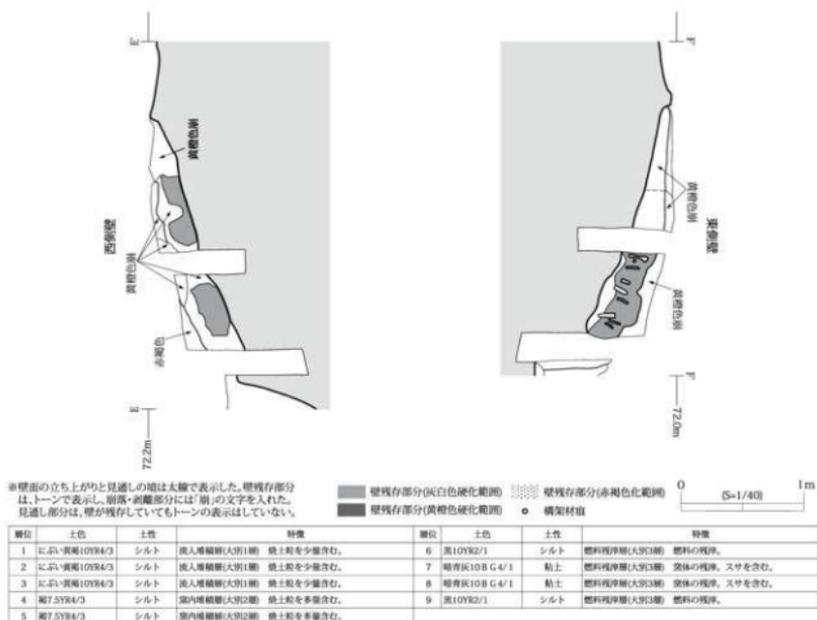
調査区の中央を南北に延びる谷の北側、南斜面上方に9基並んで位置している。確認面は、窯跡を覆う堆積層上面、整地層上面、Ⅲ層上面であるが、構築面は整地層およびⅢ層上面である。構造が確認できた窯は半地下式無階無段の密窓である。上端部は後世の削平を受け、西側の5基は地滑りで崩落している。東側の4基は焼成部上部を欠くものの残存状態は比較的良好である。構築材は新堤地区・蟹沢地区東地点と異なり残存しないが、多数の構築材痕跡を確認した。ここで堆積層とした層は、窯跡群の周辺に存在し、窯の構築面（Ⅲ層・整地層）を覆う層である。西側の1～3号窯跡周辺と東側の7～9号窯跡周辺の2ヶ所で確認した。範囲は、西側は東西8.6m、南北3m、厚さ20cm、東側は南北12m、東西5m、厚さ15cmである。明黄褐色（7.5YR5/6）シルトを主体とし、炭化物粒と焼土粒を極めて多量に含む。この層が窯体を覆っていたために、構築面より上部の構造を明らかにすることができた。遺物は、軒丸瓦・丸瓦・軒平瓦・平瓦・隅切瓦・土師器・須恵器が出土した。総破片数は8816点で、26点を図示した（第238図）。

1号窯跡（S01）（第164～167図・第11表）

【確認状況】調査区北部の南斜面、F-21グリッドに位置する。Ⅲ層上面で確認した。残存状態は悪く、煙出口から焼成部にかけては後世の削平を受け、焼成部から燃焼部・前庭部にかけて地滑りにより崩落し東にずれる。原位置をとどめているのは、焼成部の一部分のみである。他の遺構との重複関係はなく、隣接する東側の2号窯跡との間隔は2.25mである。



第164図 1号窯跡平面図・土層断面図



第165図 1号窯跡側面図

【窯体構造】 半地下式無段の窯である。(階は地滑りにより不明)

【規模】 残存長1.8m、幅65cm、壁高45cmである。

【中軸線の方向】 N-4°-E

【操業面数】 2面(A期:構築時床面、B期:細別7層上面)

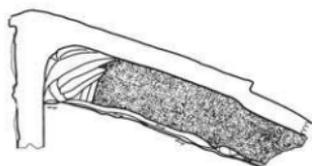
【煙出部】 削平され残存していない。

【焼成部】 壁面が大きく崩落しているが、平面形は長方形である。規模は残存長1.8m、最大幅65cm、残存壁高45cmである。床面は、2面確認した。B期は7層上面に遺物がのることから最終操業面として捉えた。その下面に構築時の床面がありA期とした。B期の床面は凹凸があり、20°の角度で傾斜する。不規則で明確ではないが、部分的に平瓦が斜面に対して横位に並ぶ箇所が認められ、焼台の列と考えられる。A期床面は凹凸があり、21°の角度で傾斜する。崩壊面の可能性もある。側壁は上部で内湾し、最上部はスサ入り粘土で構築された天井に続いている。壁面は凹凸が多く、西壁上部では、斜面に対して平行に指ナデの痕跡が認められた(写真21-10)。

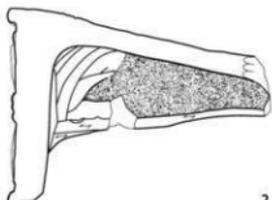
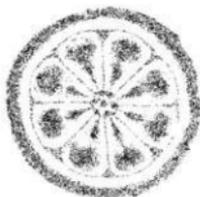
東壁で床面から壁面に沿って上部に伸びる8本の半円形状の圧痕を確認した(写真21-11)。構築材痕と考えられる。圧痕1本の幅は4cm、長さ14~32cmを測る。西壁では認められない。焼成部中央の西壁の灰白色硬化範囲の状況から、天井は壁上部からスサ入り粘土で構築されていたのを確認した。

被熱状況は、残存する壁・床面は灰白色硬化している。窯体の断ち割り調査では、内側から外側へ灰白色硬化(3cm)、黄褐色硬化(20cm)、赤褐色化(20cm)の状況を確認した。そのうち赤褐色化部分では、構築面に接する上部20cmでは変色が見られた。また、壁の灰白色硬化と黄褐色硬化の間には、断面形が「レ」字状の焼成ひずみによる落ち込みが認められた。

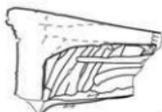
地滑りで崩落した窯体の床面は凹形にややくぼみ、26°の角度で傾斜する。壁面は残存状態の良い西壁では垂



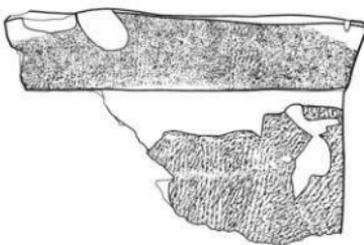
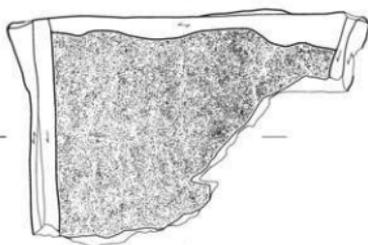
1



2



3



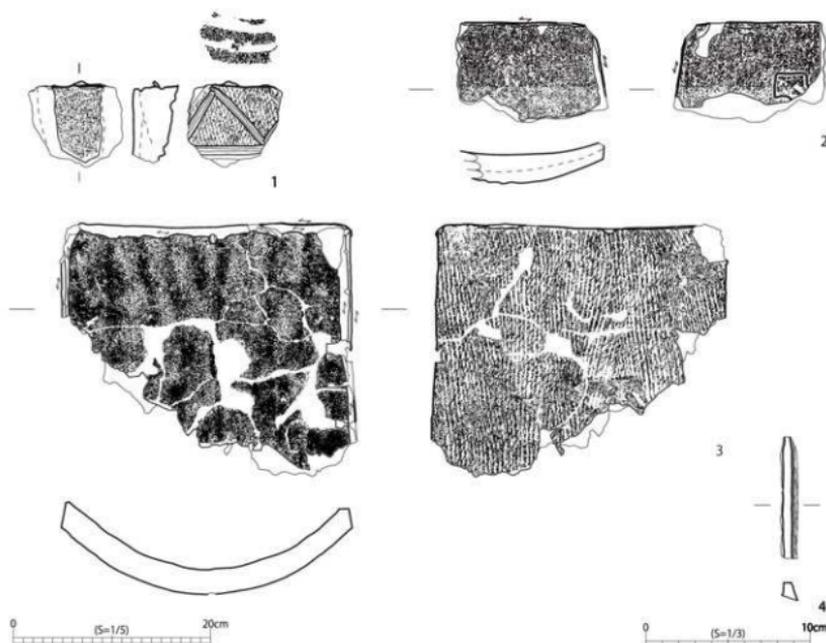
4



0 (5=1/5) 20cm

番号	遺物名	部位	種類	最大長 (cm)	広さ幅 (cm)	狭さ幅 (cm)	厚さ (cm)	瓦当面 長(cm)	瓦当面 厚さ(cm)	色調	成形・調整 備考	登録 番号	写真 図版
1	1号陶輪	6	軒丸瓦	36.9	-	-	2.7 5.2.3	16.1	3.9	瓦当面表: 2.5Y 6/1 瓦当面裏: N 5/0 内面: N 4/0 凸面: 10YR 5/1	瓦当面表: 茜 瓦当面裏: ヘラケズリ→ナデ 内面: 粘土粘着→布目織→ナデ 凸面: ロウロチデ→ヘラケズリ、ヘラナデ、顔面キザミ模圧痕 周縁: ヘラケズリ→圧痕	F069	47-15
2	1号陶輪 瓦葺	2	軒丸瓦	20.7	-	-	2.3	19.8	3.9	瓦当面表: 7.5YR 4/1 瓦当面裏: 5YR 4/1 内面: 10YR 5/1 凸面: 10YR 6/1	瓦当面: 茜 瓦当面裏: ヘラケズリ→ナデ 内面: 粘土粘着→布目織→スビナデ 凸面: ヘラケズリ→ナデ、顔面キザミ模圧痕 周縁: ヘラケズリ→ナデ	F070	47-14
3	1号陶輪 瓦葺	2	軒丸瓦	15.8	-	-	1.4	11.0	3.9	瓦当面: 5YR 4/1 内面: 2.5Y 5/1 凸面: 7.5YR 5/1	瓦当面: 茜→圧痕 瓦当面裏: 印織つぎ→ナデ 内面: 布目織→ヘラナデ→スビナデ 凸面: ヘラケズリ→ヘラナデ 周縁: ヘラケズリ 顔面: キザミ模写	F071	48-1
4	1号陶輪	6	軒平瓦	25.0	36.6	-	2.8	7.1	-	瓦当面: 10R 5/1 内面: N 5/0 内面: 2.5YR 4/1 凸面: N 4/0	瓦当面: 茜 内面: 顔面キザミ→ナデ 内面: 糸切り織→布目織→ナデ 凸面: 顔面キザミ→ナデ 周縁: 顔面・広縁面ヘラケズリ	G 216	48-3

第166図 1号窯跡出土遺物(1)



番号	遺構名 グリッド	層位	種類	最大長 (cm)	広幅幅 (cm)	狭幅幅 (cm)	厚さ (cm)	瓦当面 長さ(cm)	瓦当面 厚さ(cm)	色調	成形・調整	備考	登録 番号	写真 撮影
1	1号窯跡	1	軽平瓦	8.5+	9.0+	-	-	4.6	-	瓦当面：10YR 6/2 側面：2.5Y 5/1 内面：5Y 5/2	瓦当面：ヘラケズリ→ヘラ細き歯状瓦 側面：細目ローの歯状歯文 内面：自然釉のため不明 瓦縁：ヘラケズリ		C-217	48-2
2	1号窯跡	5	平瓦	10.1+	-	12.7+	2.9	-	-	内面：2.5YR 4/1 凸面：5YR 4/1	内面：ナデケシ 凸面：細目キ→ナデ 瓦縁：細面・広端面ヘラケズリ 凸面：方形突出 床面直上7層上崩出土		C-218	48-5
3	1号窯跡	5	平瓦	25.9+	-	28.9	2.7	-	-	内面：5YR5-3 凸面：10YR5/1	内面：赤目瓦→ナデ 凸面：細目キ→一部ナデー区域 瓦縁：細面・狭端面ヘラケズリ→狭端面直上 床面直上7層上崩出土		C-219	48-4
番号	遺構名 グリッド	層位	種類	口径 長さ(cm)	幅 (cm)	底径 長さ(cm)	厚さ (cm)	色調	成形・調整	備考	登録 番号	写真 撮影		
4	1号窯跡	3	瓦当縁 瓦	(7.4)	-	-	1.0	-	-	内面：7.5B4/2 内面：10R4/2	内面：細目ヘラケズリ→ナデ 内面：欠損		E-028	48-6

第167図 1号窯跡出土遺物(2)

直に立ち上るが、天井の構架材、構架材痕は認められなかった。残存する壁・床面は灰白色硬化し、壁面は凹凸である。

【 燃 焼 部 】 地滑りで崩落していた。残存する平面形は方形である。残存長1.4m、最大幅70cmである。床面は緩い段が認められるが、構造的に有階なのか、崩落によるものなのか不明である。40°の角度で傾斜する。壁は東側は崩落し、西側で残存するが、構架材痕は認められなかった。一部で平瓦が並べられた痕跡があるが、多くは散在し焼台の列は確認できなかった。

被熱状況は、壁は灰白色硬化していたが、床面は大きく崩落し、斑状に残存する部分はやや灰白色硬化している。窯体の断ち割り調査では、内側から外側へ灰白色硬化(1cm)、黄褐色硬化(12cm)、赤褐色化(15cm)の状況を確認した。

【 前 庭 部 】 地滑りにより崩落し不明である。

【 堆 積 層 】 崩落していない焼成部では、大別3層、細別9層を確認した。大別1層は焼土粒を含むにふい黄褐色シルトの窯体崩壊後の流入堆積層、大別2層は天井崩落材・焼土粒を多量に含む褐色シルトの窯体崩落層、

大別3層は暗褐色スサ入り粘土と黒色シルトの燃料残滓層である。そのうち、大別3層上面では瓦が確認でき、燃料残滓の黒褐色シルトが堆積していることから床面と考え、最終操業面とした(B期)。また、大別3層下面にも構築時の床面(A期)があることから操業面2面を確認した。

【灰原】 崩落した窠体の両側に黒色シルト層を確認した。東側は地滑りの黄褐色シルトで覆われ、南北45cm、東西1m、厚さ50cmの範囲で確認した。西側は窠体より1m離れたところに土坑状に残存している。南北1.55m、東西2m、厚さ50cmの範囲である。これらの層は崩落涯下の1号灰原aに続くと思われる。

【出土遺物】 軒丸瓦・丸瓦・軒平瓦・平瓦・熨斗瓦・硯が出土した。総破片数は186点で、8点を図示した。大別1層より風字硯、大別2層より重弁蓮華文軒丸瓦、均整唐草文軒平瓦、大別3層上面より凸面に方形突出のある平瓦が出土している。また、灰原3層より重弁蓮華文軒丸瓦、重圓文軒平瓦が出土している。

2号窯跡(SO2)(第168～171図・第11表)

【確認状況】 調査区北部の南斜面、F-21グリッドに位置する。Ⅲ層上面で確認した。残存状態は悪く、煙出部から焼成部にかけて後世の削平を受け、焼成部から燃焼部・前庭部も地滑りにより大きく2段に崩落している。焼成部の一部のみが、原位置をとどめている。崩落した窠体は西にずれ、崩落涯の底まで落ちている。Ⅲ層を床面とし、壁と天井をスサ入り粘土で構築している。他の遺構との重複関係はなく、隣接する窯との間隔は西側の1号窯跡で2.25m、東側の3号窯跡で1.5mである。

【窠体構造】 半地下式無段の窠窯である。(地滑りのため階は不明)

【規模】 残存長1.7m、幅60cm、壁高45cmである。

【中軸線の方向】 N-1°-E

【操業面数】 2面(A期構築時床面、B期細別6層上面)

【煙出部】 削平されて残存していない。

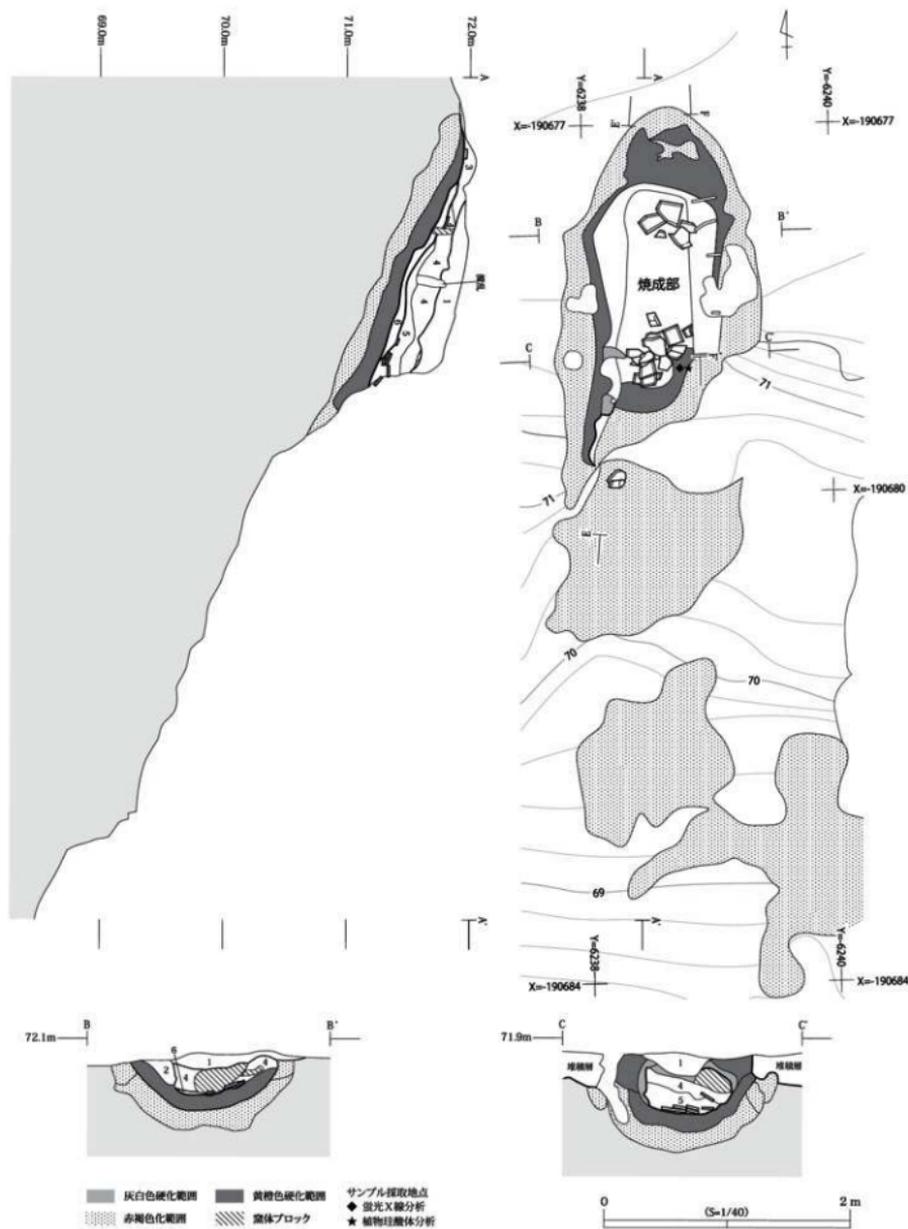
【焼成部】 平面形は、長方形である。残存長1.7m、最大幅60cm、残存壁高45cmである。床面は2面確認した。B期は、6層上面に遺物がのることから最終操業面と捉えた。6層は窠体崩落層で、床に還元面がないので床の崩壊土ともとれるが、下面の床硬化面をA期とした。B期床面は凹凸があり、22°の角度で傾斜する。一部で瓦が並べられた痕跡があるが、焼台の列は明確ではない。床面の内部から中軸線に対して斜行する材の痕跡を検出した。A期床面は凹凸があり、22°の角度で傾斜する(写真22-6)。崩落面の可能性もある。壁のほとんどは崩落しているが、残存部でほぼ垂直に立ち上がり、上部で内湾し天井に続いている。構築材痕は確認されなかった。天井は側壁上部からスサ入り粘土で構築されており、堆積土中に崩落した厚さ約5cmのドーム状の天井部が検出された(写真22-2)。被熱状況は床面の灰白色硬化の範囲は少なく、黄褐色硬化の部分が多くを占める。窠体の断ち割り調査では、内側から外側へ灰白色硬化(6cm)、黄褐色硬化(15cm)、赤褐色化(15cm)している状況を確認した。

【燃焼部】 地滑りで崩落しているが形状を保っている。平面形は、焚口側がやや開く方形をしている。残存長1.8m、最大幅70cmである。床面は凹凸がみられ、21°の角度で傾斜する。壁面は西側は内湾し、東側では外側に開いている。構築材痕は確認されなかった。

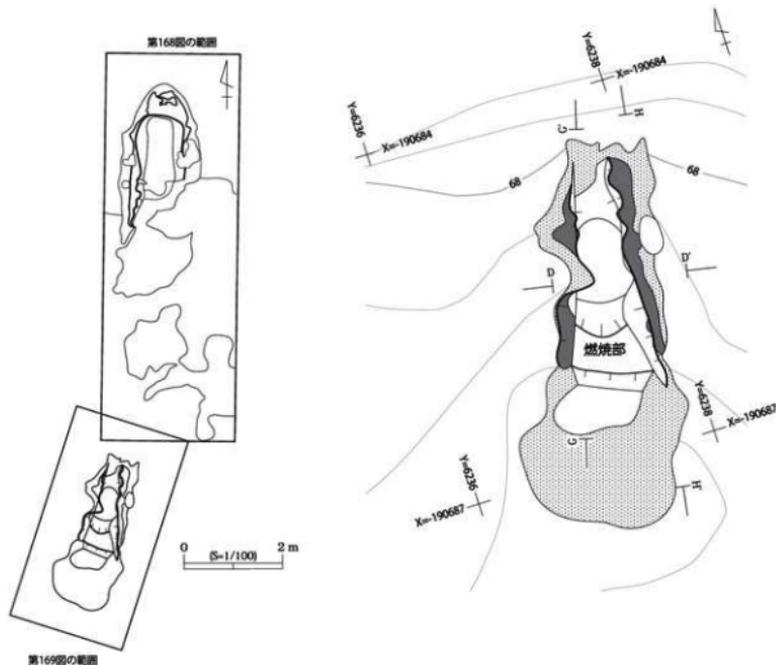
被熱状況は、床面の灰白色硬化の範囲は少なく黄褐色硬化面が多くを占め、壁は灰白色硬化が多くを占めている。窠体の断ち割り調査では、内側から外側へ灰白色硬化(15cm)、黄褐色硬化(4cm)、赤褐色化(4cm)している状況を確認した。

【前庭部】 窠体が崩落していたため残存していない。

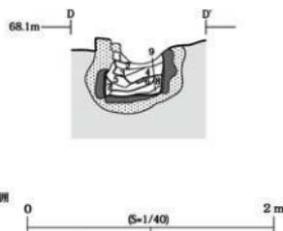
【堆積層】 崩落していない焼成部では、大別2層、細別6層を確認した。大別1層は焼土粒を多量に含むにぶい黄褐色シルトの流入堆積土、大別2層は天井崩落材、焼土粒を多量に含む褐色シルトとスサ入り粘土の窠



第168図 2号窯跡平面図・土層断面図



2号窯跡検出状況



2号窯跡

層位	土色	土性	特徴	層位	土色	土性	特徴
1	にぶい黄褐色	シルト	焼入層(大別1期) 焼土粒を多量含む。焼熟粘土ブロックを少量含む。	4	黄7.5YR4/6	粘土	炭化物(大別2期) スサ入り粘土ブロックを多量含む。
2	にぶい黄褐色	シルト	炭化物(大別2期)	5	黄7.5YR4/3	シルト	炭化物(大別2期) 焼土粒を少量含む。
3	黄7.5YR4/6	粘土	炭化物(大別2期) スサ入り粘土ブロックを多量含む。	6	黄10YR4/4	粘土	炭化物(大別2期) スサを含む。

2号窯跡崩落部分

層位	土色	土性	特徴	層位	土色	土性	特徴
1	にぶい黄褐色	砂質シルト	燃料残滓層(大別1期) 焼土粒を多量含む。シルト(灰白色)をごく微量含む。	6	黄10YR4/4	粘土質シルト	燃料残滓層(大別1期) 焼土粒・燻を多量含む。シルト(灰白色)を微量含む。
2	黒褐色	シルト	燃料残滓層(大別1期) 炭化物を少量含む。粘土(灰黄褐色)・焼土粒を多量含む。	7	黒褐色	シルト	燃料残滓層(大別1期) 焼土粒・燻を多量含む。シルト(にぶい黄褐色)をごく微量含む。
3	黒褐色	シルト	燃料残滓層(大別1期) 焼土粒を多量含む。シルト(黒褐色)をごく微量含む。	8	黒10YR2/1	シルト	燃料残滓層(大別1期) 炭化物を多量含む。焼熟粘土ブロック・シルト(灰白)を微量含む。
4	黒褐色	シルト	燃料残滓層(大別1期) シルト(灰白)・焼土粒を多量含む。	9	黒10YR2/1	シルト	燃料残滓層(大別1期) 炭化物を多量含む。シルト(灰白)を少量含む。焼熟粘土ブロックを微量含む。
5	にぶい黄褐色	シルト	燃料残滓層(大別1期) 燻を少量含む。焼土粒をごく微量含む。				

第169図 2号窯跡燃烧部崩落部分平面図・土層断面図